

Kawasaki

JETSKI  
watercraft

保存版

STX-12F

ウォータークラフト JETSKI 取扱説明書

**JETSKI**  
motorcraft は川崎重工業株式  
会社の登録商標です。



カワサキは人と地球にやさしい環境作りをめざし  
ています。

# 早見表

一般事項

操縦方法

保管

整備と調整

トラブルシューティング

船舶検査

航行区域

環境保護

お客様の相談窓口



# ご愛用の皆様に

カワサキのウォータークラフト"ジェットスキー"をご購入くださいましてありがとうございます。きょうからあなたのよきパートナーとして、十分に活躍させてください。

この取扱説明書は、あなたのウォータークラフト"ジェットスキー"を安全かつ魅力的にご使用いただく手助けをするために編集したものです。

最初にお乗りになる前にこの本を読んで十分にご理解いただき、正しい操縦方法を完全に習得してください。

そして、この本に従って注意深い操縦と正しい整備を行うと、"ジェットスキー"の魅力と性能を十分に引き出せます。

また、水上での安全確保のためのマナーを守ると同時に、各種の法規、条例等も十分理解し、守ってください。

ウォータークラフト"ジェットスキー"に乗るときは本書を携帯し安全なマリンライフをお楽しみください。

本書は大切に保管し、ウォータークラフト"ジェットスキー"を転売や譲渡等されるときは必ず添付してください。

別冊の整備手帳には保証書とともに定期点検整備表及び点検整備記録簿が入っています。ウォータークラフト"ジェットスキー"の維持管理にご利用ください。

本書では正しい取り扱い方法および点検に関する事項を、次のシンボルマークで示しています

## ⚠ 警告

取扱いを誤った場合、死亡または重大な傷害に至る可能性が想定される場合を示しています。

## 注意

取扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示しています。

## 要点

- 作業を正しく行うためのポイントを示しています。

なお本書の内容は、仕様変更などにより実際と異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

# 目次

主要諸元	6	エンジンの停止	55
一般事項	8	エンジンの始動	56
製造番号	8	発進	58
各部の名称	9	桟橋からの発進	58
ラベル位置	11	ランプからの発進	59
マルチファンクションメータ	19	水深の深い場所での発進	59
燃料	28	水深の浅い場所での発進	60
エンジンオイル	30	停止	61
エンジンオイルレベルの計測	30	旋回	63
操縦装置	32	後進	65
シートラッチ	37	着岸	66
備品入れ	38	ウォータークラフト"ジェットスキー" の 乗り方	66
小物入れ	39	落水	67
工具	40	転覆したウォータークラフトの起こし方	67
ドレンプラグ	40	浸水後の処置	68
リボーディングステップ	41	航走終了後の手入れ	73
リセストフック	42	第1：排気系統の水抜き	73
操縦方法	43	第2：エンジンルームの清掃	73
安全な操縦	43	特殊な手入れ	74
経験の浅い運転者による操縦	43	インペラの清掃	74
乗船者の水泳能力	43	汚れたスパークプラグの清掃	75
安全運転規則	43	ウォータークラフトのえい航	75
ジェットポンプに関する注意	46	ジャンプコードによる始動	75
乗船者の安全装備	47	エンジンのオーバーヒート	77
ヘルメット着用の選択	48	運搬	77
積載	48	保管	78
トーイング（ウエイクボード/水上スキー 等の定員1名のけん引物）	50	保管する前の作業	78
操縦者の役割	50	冷却系統	78
乗る前の点検項目	52	ビルジ系統	78
ならし運転	54	エンジンオイル	78

燃料系統とエンジン.....	79	バルブクリアランス .....	96
エアフィルタ.....	81	スパークプラグ .....	97
バッテリ.....	81	バッテリ .....	98
洗浄 .....	82	潤滑 .....	100
潤滑 .....	82	冷却系統の洗浄 .....	103
保管後再使用する前の作業.....	82	ビルジ系統の洗浄 .....	104
<b>整備と調整 .....</b>	<b>84</b>	ヒューズ .....	106
定期点検整備表 .....	84	トラブルシューティング .....	108
コントロールケーブル.....	86	<b>船舶検査 .....</b>	<b>112</b>
スロットルケーブルの調整.....	86	船舶検査 .....	112
ステアリングケーブルの調整.....	86	船舶検査証書など合格証書類 .....	112
ステアリングケーブルの点検 .....	88	<b>航行区域 .....</b>	<b>113</b>
シフトケーブルの調整.....	88	航行区域 .....	113
シフトケーブルの点検 .....	91	海岸あるいは陸岸で使用する場合 .....	113
燃料系統 .....	92	母船に乗せて使用する場合 .....	114
スロットルの調整 .....	92	<b>環境保護 .....</b>	<b>115</b>
燃料ペントチェックバルブ .....	92	環境保護 .....	115
燃料ポンプスクリーン .....	92	お客様の相談窓口 .....	116
エンジンオイル系統 .....	93		

## 6 主要諸元

## 主要諸元

## ウォータークラフト"ジェットスキー" JT1200-D1

<b>エンジン</b>	
型式	4ストローク、4気筒、水冷
排気量	1 199 cm <sup>3</sup>
内径 × 行程	83 × 55.4 mm
圧縮比	11.2:1
点火方式	デジタルトランジスタ
潤滑方式	セミドライサンプ
燃料方式	デジタル・フューエル・インジェクション
始動方式	スタータモータ
スパークプラグ	NGK CR9EK
ギャップ	0.7 ~ 0.8 mm
端子形状	一体型端子
点火時期	上死点前6° @1 300 rpm ~ 32° @3 000 rpm
アイドリング回転数	1 300 ± 100 rpm .....水上 1 300 ± 100 rpm .....陸上
<b>動力伝達機構</b>	
カップリング	エンジン直結シャフトドライブ
ジェットポンプ	型式 軸流、単段
	推力 3 570 N (364 kg)
ステアリング	ステアリングノズル

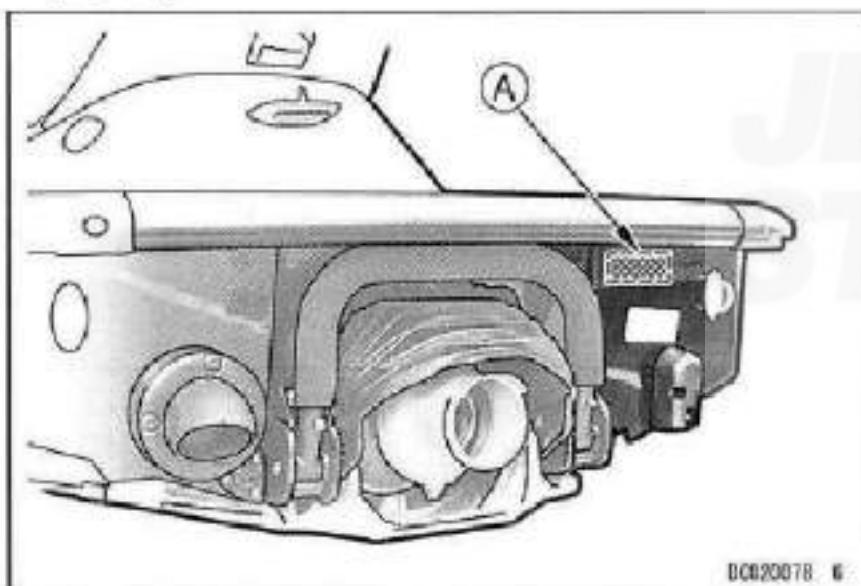
ブレーキ	水の抵抗力
※性能	
連続最高出力	88.3 kW (120 ps)/7 200 rpm
連続最大トルク	118 N·m (12 kgf·m)/6 500 rpm
最小旋回半径	4.0 m
燃料消費量	36 L/h(フルスロットル運転時)
航続距離	146 km(3名乗船・フルスロットル運転時)
航続時間	1時間43分
寸法・重量	
全長	3 120 mm
全幅	1 180 mm
全高	1 050 mm
乾燥重量	3 275 N (334 kg)
燃料タンク容量	62 L
エンジンオイル	
タイプ	API SF or SG API SH or SJ with JASO MA SAE10W-40
オイルタンク容量	5.0 L
電装品	
バッテリ	12 V 18 Ah

※これらの数字は、一定の条件下で測定されたものであり、条件が変われば数字も変わってきます。

# 一般事項

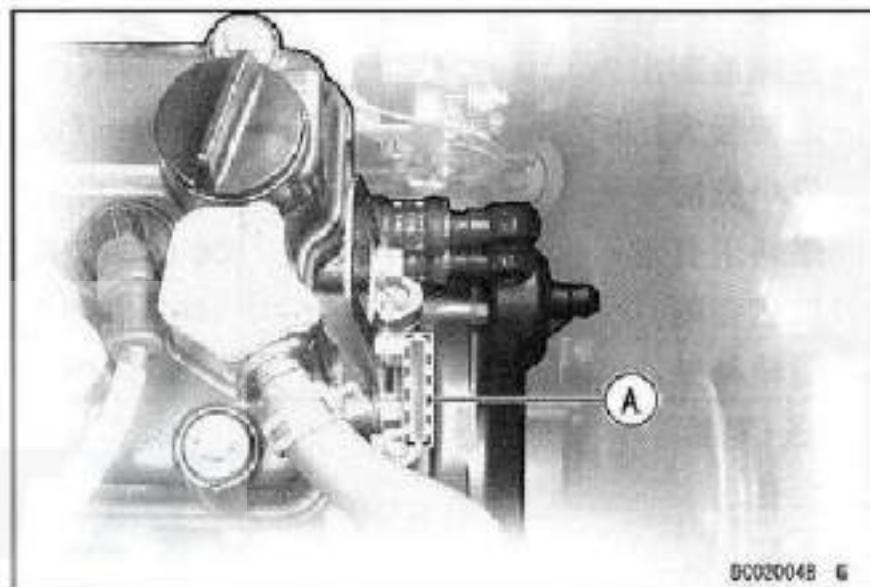
## 製造番号

- 船体及びエンジン番号は、あなたのウォータークラフトを表す番号です。この番号は登録に必要であり、また部品注文時に必要なこともあります。また、盗難にあった場合、是非とも必要なものです。下のそれぞれの空欄に記録してください。



A. 船体番号

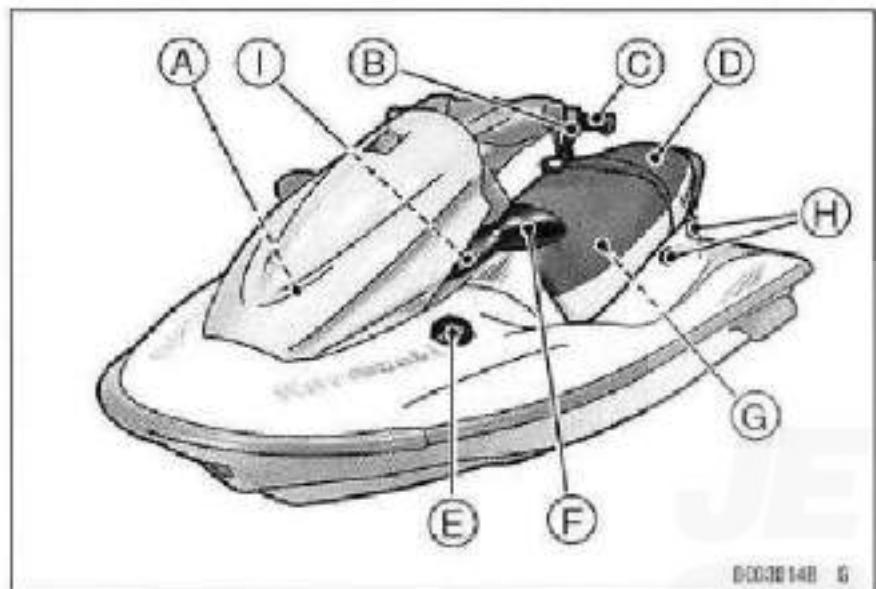
船体番号	
------	--



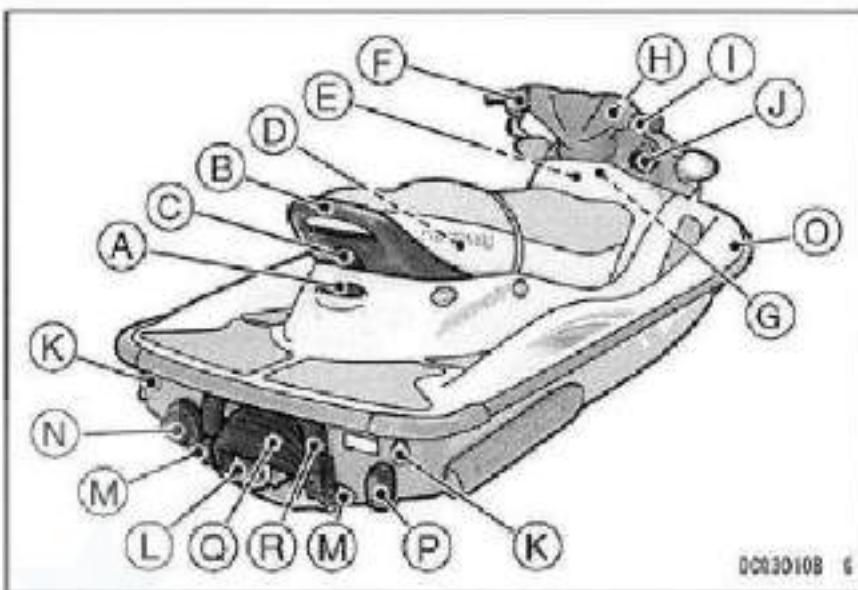
A. エンジン番号

エンジン番号	
--------	--

## 各部の名称

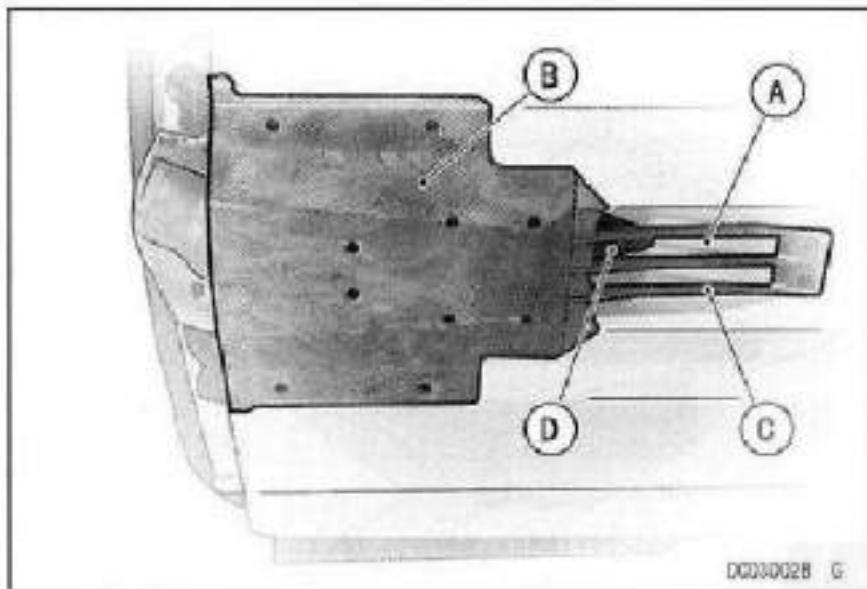


- A. 備品入れ
- B. キルスイッチコード
- C. ハンドルバー
- D. シート
- E. 燃料注入口キャップ
- F. バックミラー
- G. エンジンルーム
- H. リセスドフック
- I. 冷却水接続口 (ハッチ内部)



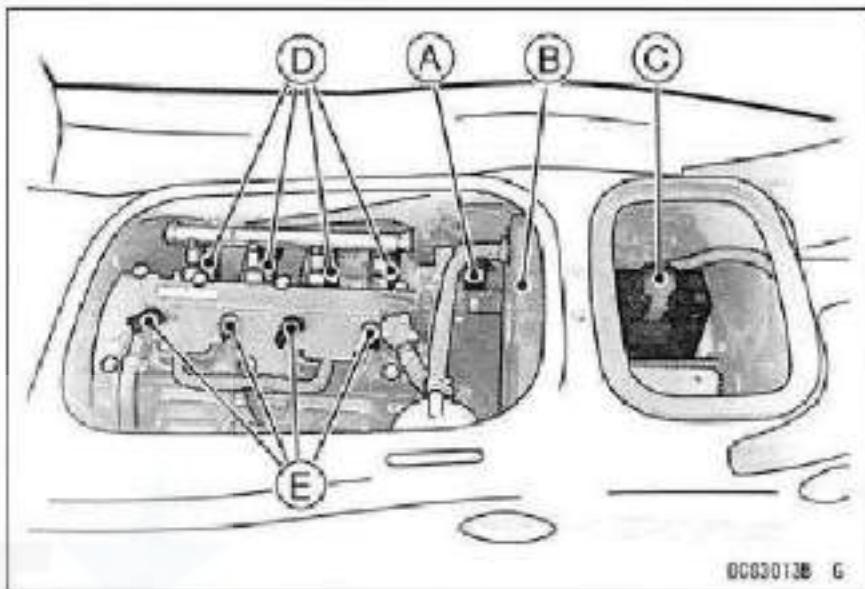
- A. スキーヤー等けん引フック
- B. ハンドレール (グリップ)
- C. シートラッチ
- D. 小物入れ (後部)
- E. 小物入れ (前部)
- F. スタータ、ストップボタン
- G. イグニションスイッチ
- H. マルチファンクションメーター
- I. スロットルレバー
- J. シフトレバー
- K. えい航用フック
- L. ステアリングノズル (ジェットノズル)
- M. ドレンプラグ
- N. 排気口
- O. バイパス出口
- P. スピードメータ 用水車
- Q. リバースパケット
- R. リポーディングステップ

## 10 一般事項



0000026 G

- A. 吸水口
- B. ジェットポンプカバー
- C. 格子
- D. ドライブシャフト



0000136 G

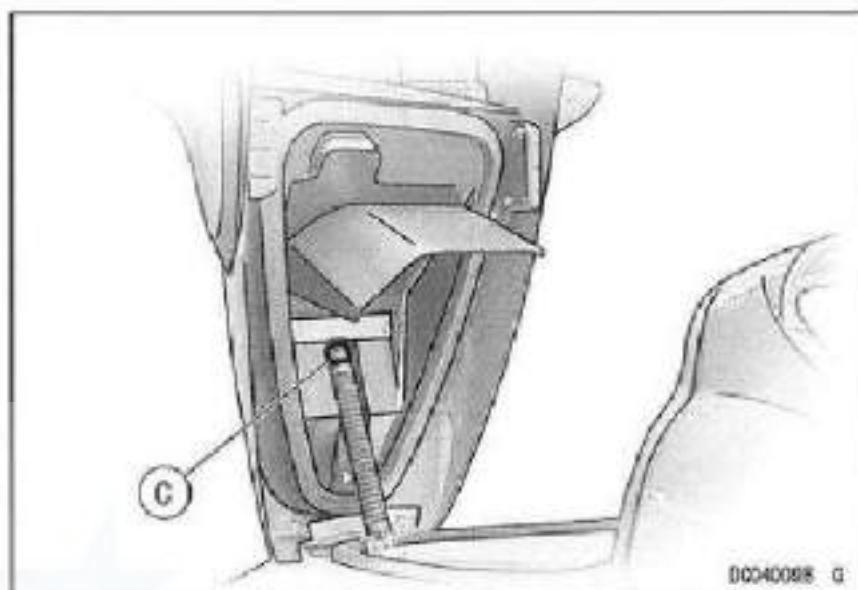
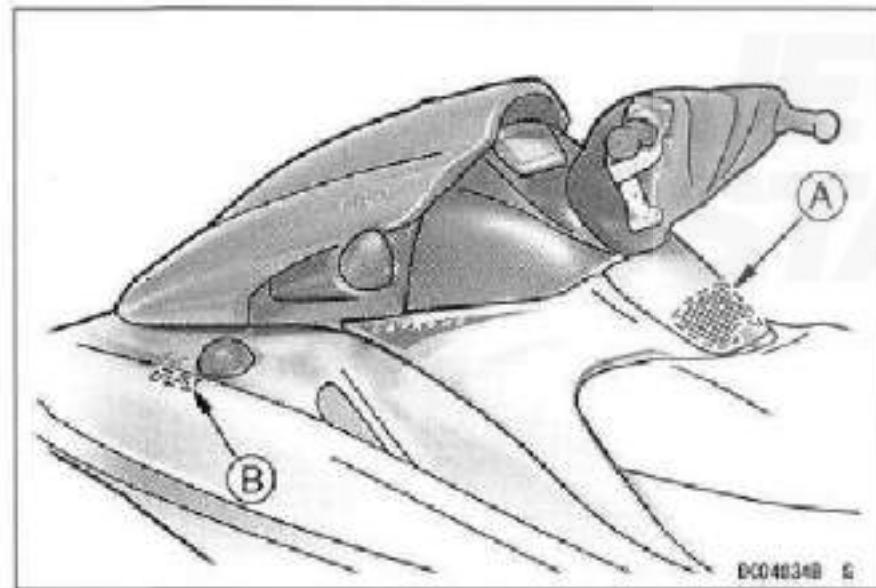
- A. スロットルアッセンブリ
- B. エアフィルタ
- C. バッテリ
- D. インジェクションノズル
- E. スパークプラグ

## ラベル位置

船体・エンジン各部には安全に関する各種ラベルがとりつけられています。これらラベルは常に良好な状態にしておき、もし破損した場合はKMJから新しいのを入手して、指定の位置に取りつけてください。

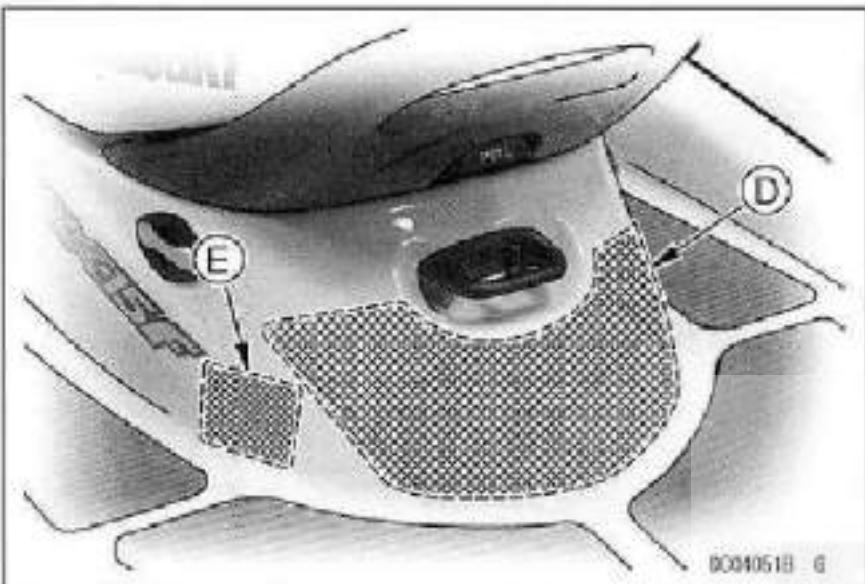
### 要点

- 各ラベルにはパーツ番号が付いています。注文される時はその番号をご指示ください。

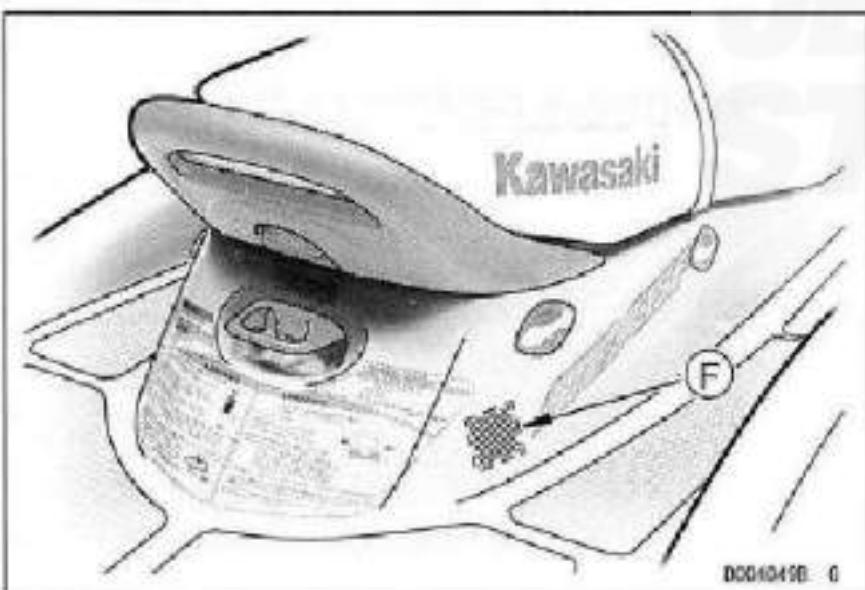


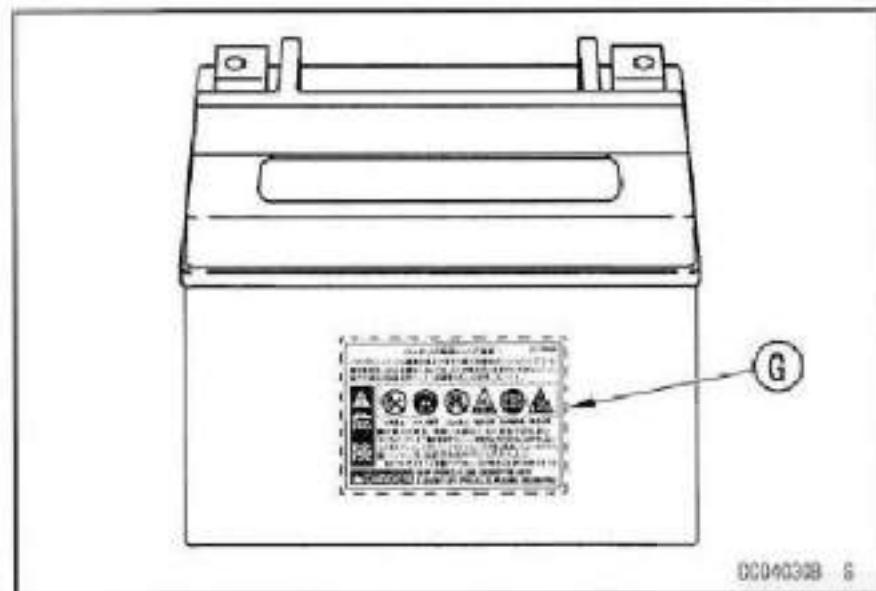
- A. ガソリン・オイル・バッテリ・ならし運転・オーバーヒートとイグニションスイッチの注意およびエンジンルームとリボーディングステップの警告
- B. 燃料注入の警告
- C. ダンパーの警告

## 12 一般事項

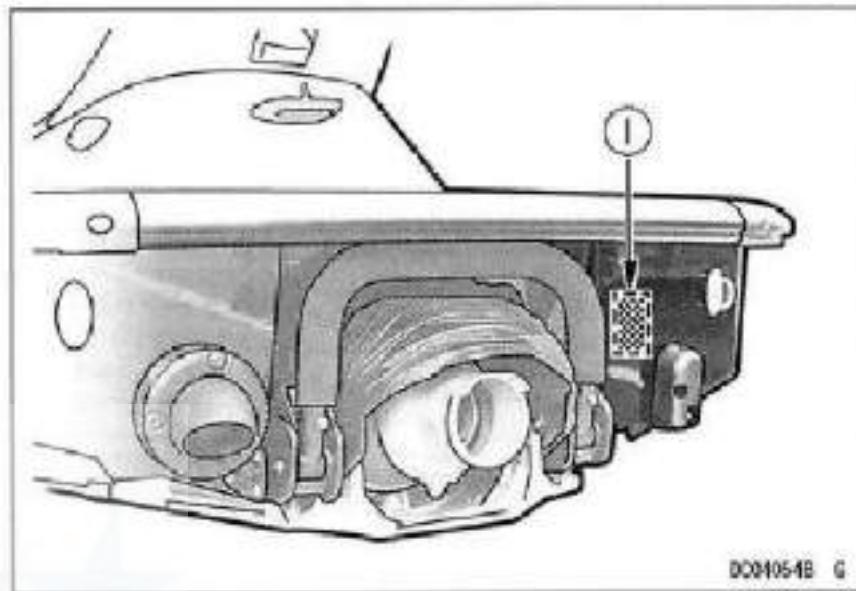


- D. リバースパケットと船の回転方向の注意および安全装備・操縦とジェットポンプの警告
- E. ハンドレールとえい航用フックの注意およびリボーディングステップと積載の警告
- F. 最大搭載人員





0004033B G

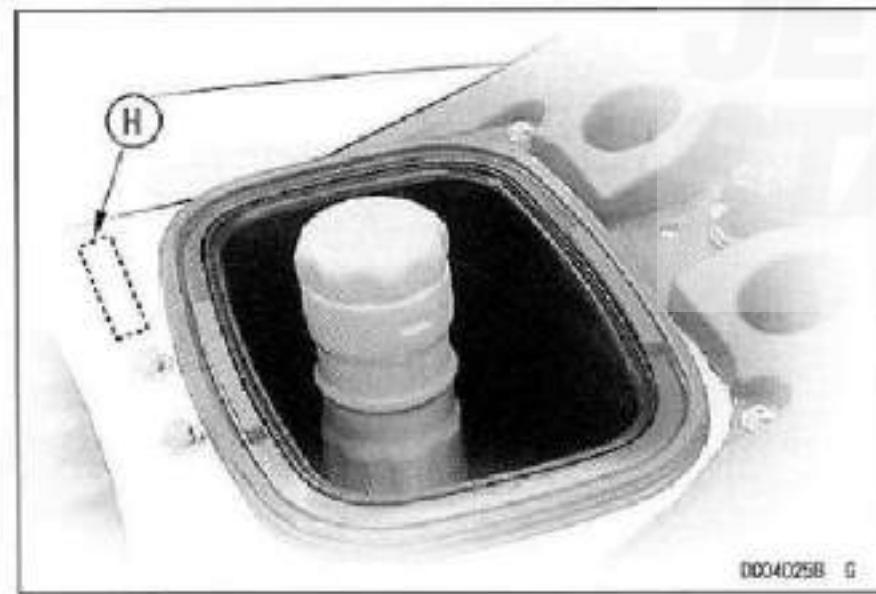


0004054B G

G. バッテリの警告

H. 証明ラベル

I. 転覆時の反転要領



0004026B G

(A)

## 注 意

- 調正する前に、ガソリンやオイルの量、また、バッテリの充電量をよく調べて下さい。
- 燃料を補給する時には、必ずエンジンオイルの量も点検して下さい。エンジンオイルのない状態で航行すると、エンジンの焼き付きの原因になります。
- ならし運転期間は最初の5時間までとし、ならし運転中はキーを引いたり、一定速度で運転したり、エンジンを暖運転を行わないでください。
- エンジンがオーバーヒートすると、警告灯と温度計マークが点滅してエンジンの回転が下がります。ただちに停船に誤り、冷却系統を点検して下さい。エンジンの損傷を防ぐため、オーバーヒートの原因を見つけて修理するまで、ウォータークラフトを接続しないで下さい。
- イグニッションスイッチを“ON”にしたら必ずキーを外し、横置するか、船部小物入れに収納して下さい。  
エンジン停止中はイグニッションスイッチを“OFF”にして下さい。“ON”的まま放置するとバッテリあがりの原因になります。

### ▲ 警 告

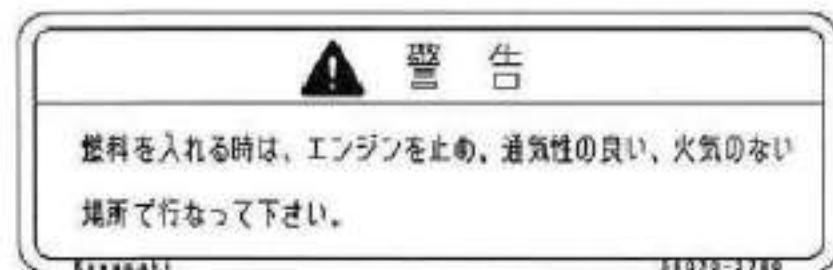
エンジンを始動する前に、エンジンルームの換気をして下さい。  
エンジンを始動する前に、エンジンルーム内にたまると、火災や爆発の  
原因となることがあります。

### ▲ 警 告

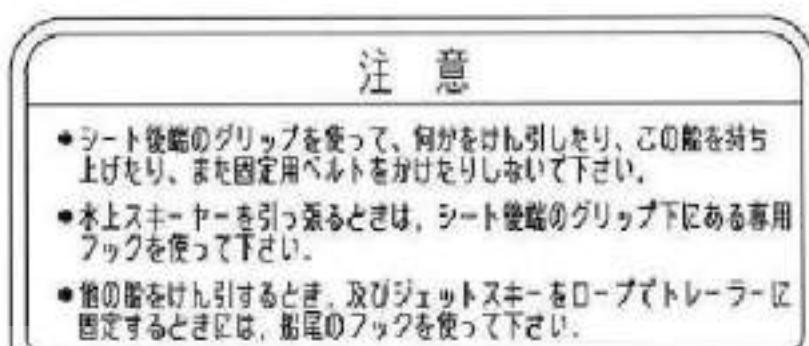
● 運航者が乗組中に、リボーディングステップの上で足をすべらせて、  
すき間にさまれた状態で水中を引きずられると、  
けがをする恐れがあります。

● 運航者がリボーディングステップを  
使う前に、必ずエンジンを止め、  
キルスイッチコードを  
抜いて下さい。

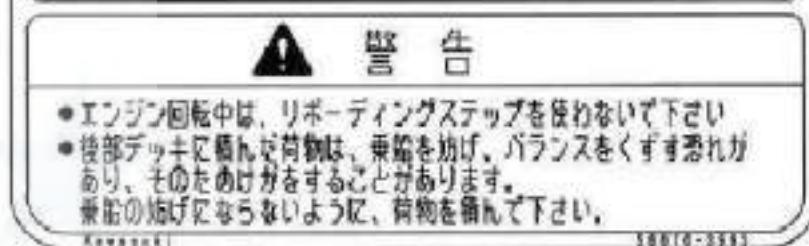
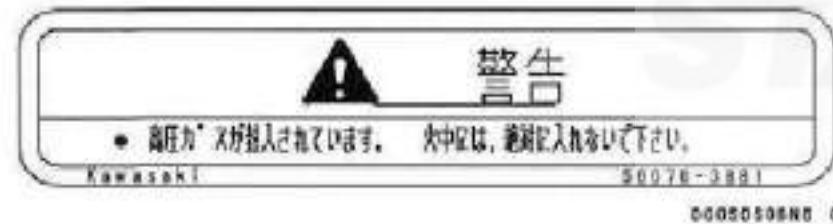
(B)



(E)

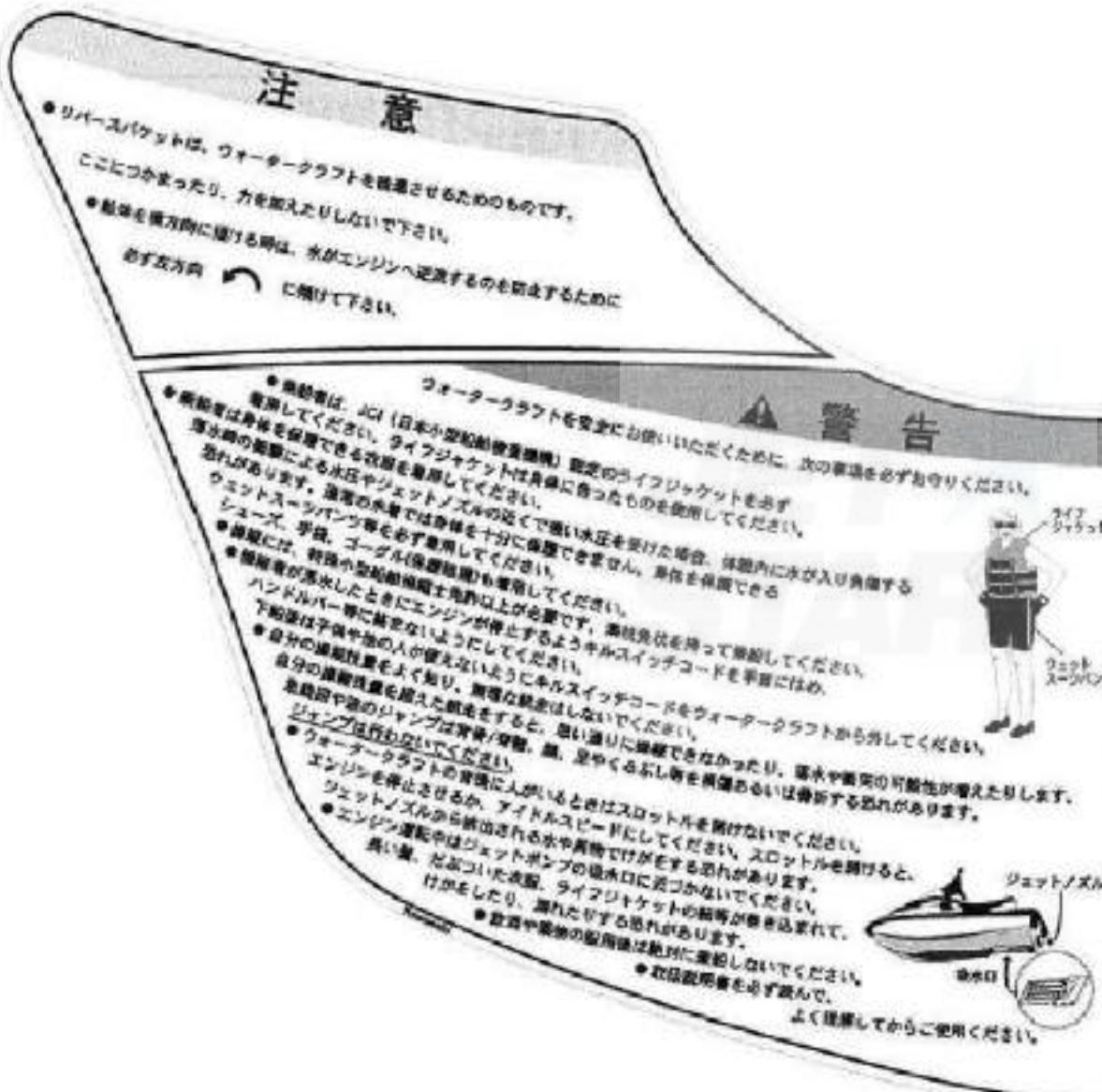


(C)



## 16 一般事項

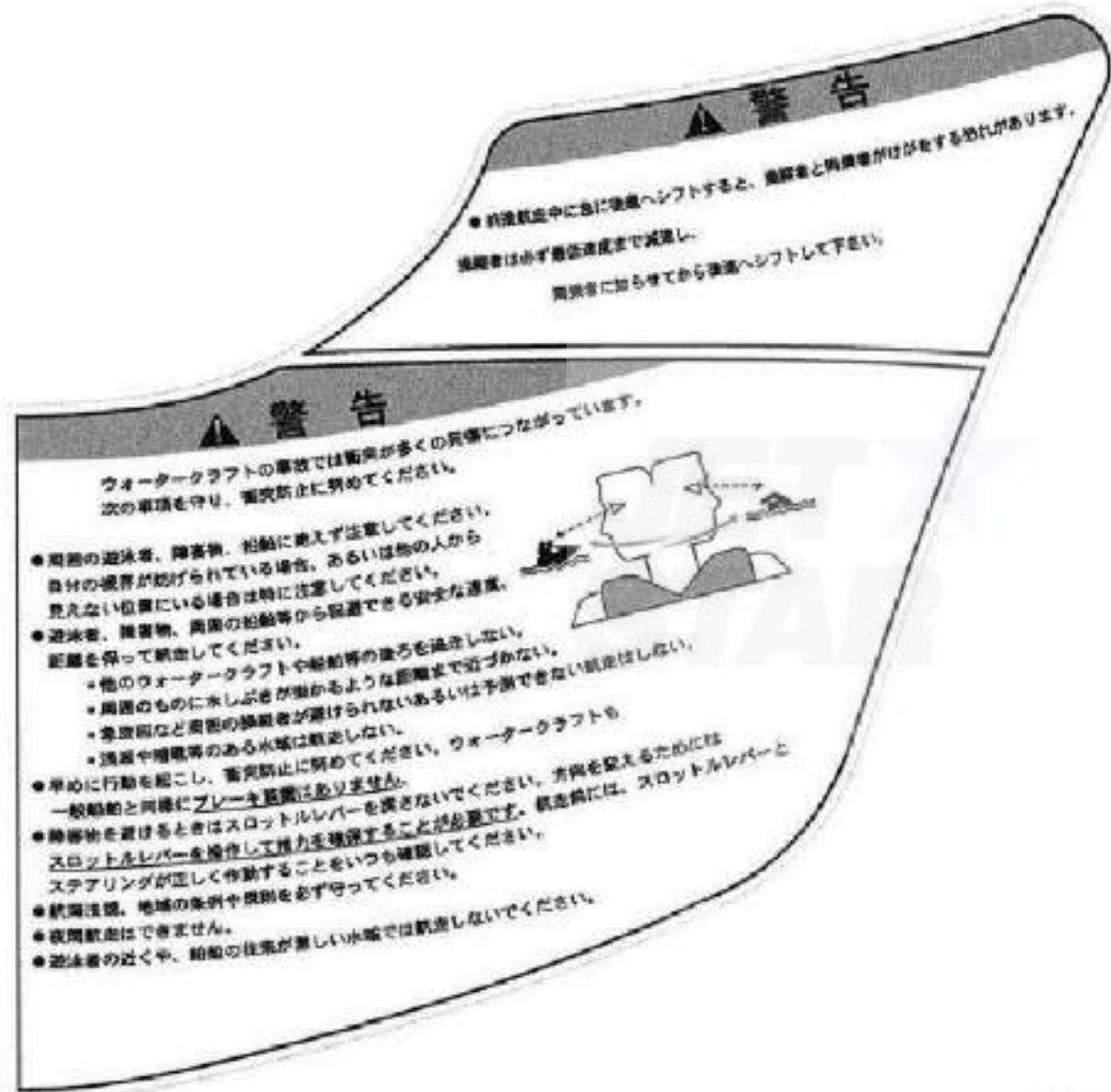
(D)



56070-3938

DC0510BB S

(D)



56070-3938

00051708 S

## 18 一般事項

(F)



(H)

MFD. BY KAWASAKI MOTORS MFG. CORP., U.S.A.

56037-1808

06058428H6 0

(G)



00051300 5

(I)



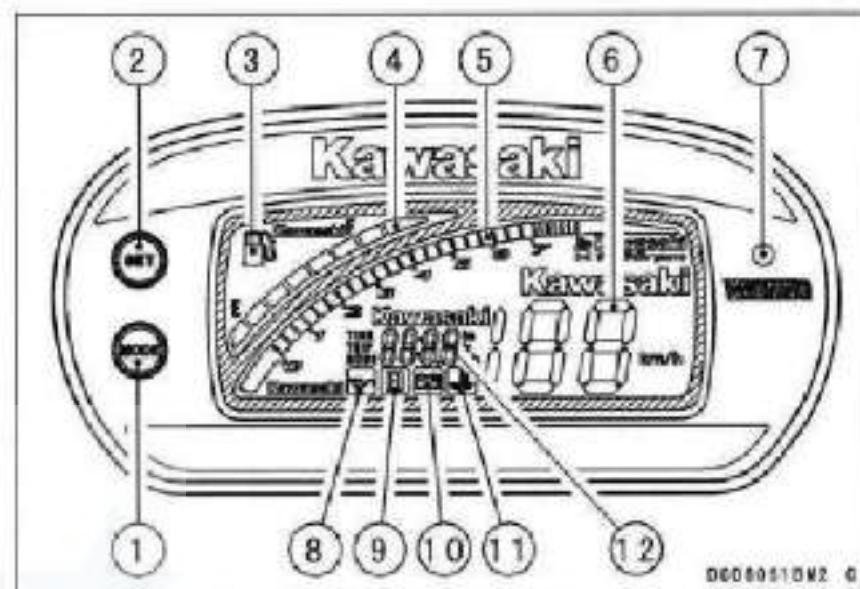
00051846 5

## マルチファンクションメータ

ステアリングハンドルバーの前方に、マルチファンクションメータがあります。イグニションスイッチを“ON”にすると、“KAWASAKI”的マークがまず表示され続いてエンジン回転数が表示され、そしてブザーが二回なります。その後メータは通常の機能に戻り、燃料の量、エンジン回転数、及び船の速度を表示します。また、メータはモードを選択することによって、時刻、航走時間を表示することができます。

### 要点

- メータの表示は、キルスイッチコードキーやストップボタンでエンジンを止めると3分後に消えますが、イグニションスイッチでエンジンを止めるとすぐに消えます。
- 警告灯が点滅すると警告ブザーも鳴ります。このブザーを止めるには“SET”ボタンか“MODE”ボタンを押してください。
- “MODE”ボタン操作によるメータの切換えは下記の場合に可能です。
  - (1) エンジンの回転数が3 000以下。
  - (2) 文字警告表示が点滅していない。
- 文字警告表示の点滅を止めるには“SET”または“MODE”ボタンを1秒間以上押してください。
- これで“MODE”ボタンによるメータの通常の切換え操作が出来ます。

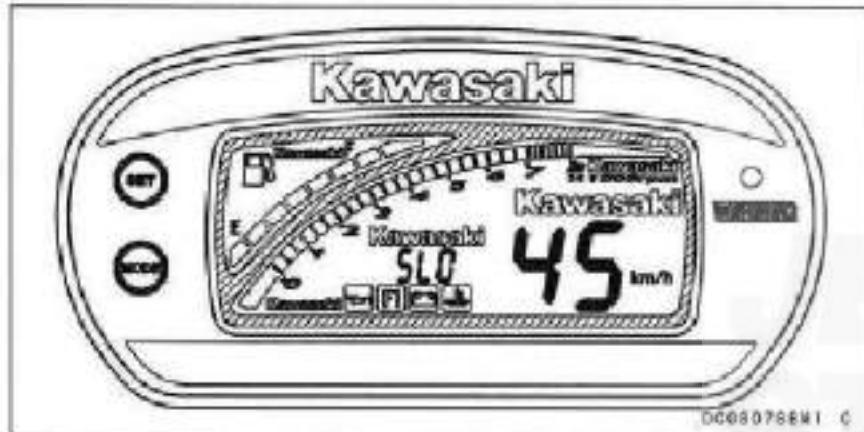


1. “MODE”（モード）ボタン
2. “SET”（セット）ボタン
3. 燃料シンボル
4. 燃料レベル計
5. タコメータ
6. スピードメータ
7. “LED”警告灯
8. エンジン油圧シンボル
9. FIシンボル
10. バッテリシンボル
11. 冷却水温シンボル
12. 時計および・航走時間・距離、積算航走時間メータ

## 20 一般事項

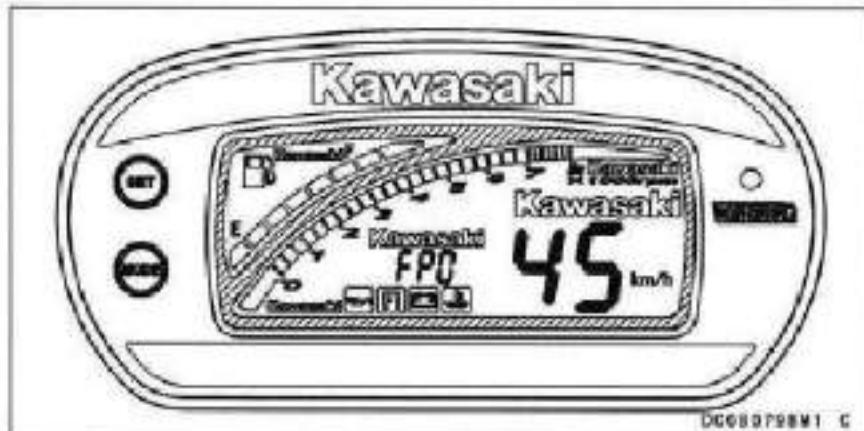
### SLOモード

このウォータークラフトはSLO（スマート・ランニング・オペレーション）モードの機能がついています。これはエンジンの出力を制限する機能です。初心者及び経験の浅い方はウォータークラフトの運転に慣れるまで、このモードで練習されることをお勧めします。



SLOモード表示

通常の運転モード（フル・パワー・オペレーション：FPO）はFPOの表示で表されます。



FPOモード表示

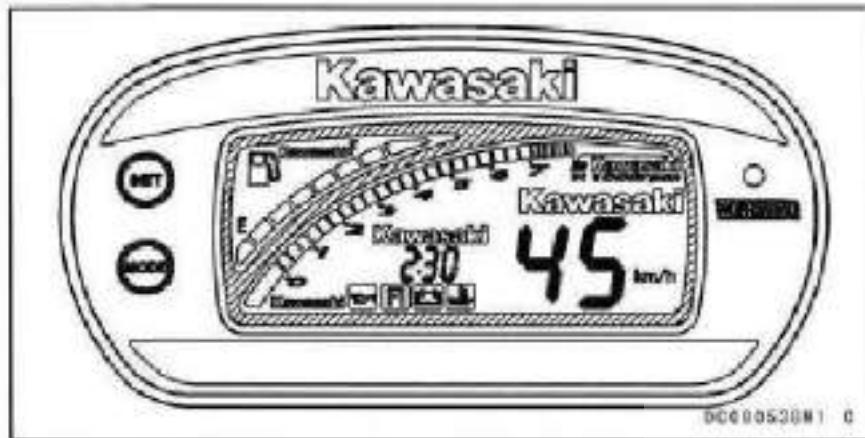
SLOモードからFPOモードへ又はその逆に切りかえる場合は“MODE”ボタンを7秒以上押します。

### 要点

- SLOモードへの切り替え時には電源投入時と同じ初期表示がなされ、ブザーが2回鳴ります。その後SLOの文字が時計／航走時間／航走路距離／積算航走時間メータディスプレーの表示の間に3秒毎に交互点滅表示されます。この表示はSLOモードで運転中は継続されます。
- SLOから通常モード(FPOモード)への切り替えの時にも初期画面が表示され、その後FPOの文字が2秒間点灯し消灯します。FPOの文字はそれ以降は表示されません。
- イグニッションスイッチを“OFF”にして再度“ON”した場合は“OFF”的時のモードが再び表示されます。
- 各種警告の作動、及びその他のメータ機能はSLOモード、通常モード(FPO)とも同じです。

### スピードメータ

スピードメータはウォータークラフトの時速を示します。急旋回をしている間は、実際の速度より10ないし20 km/h低い速度を示します。



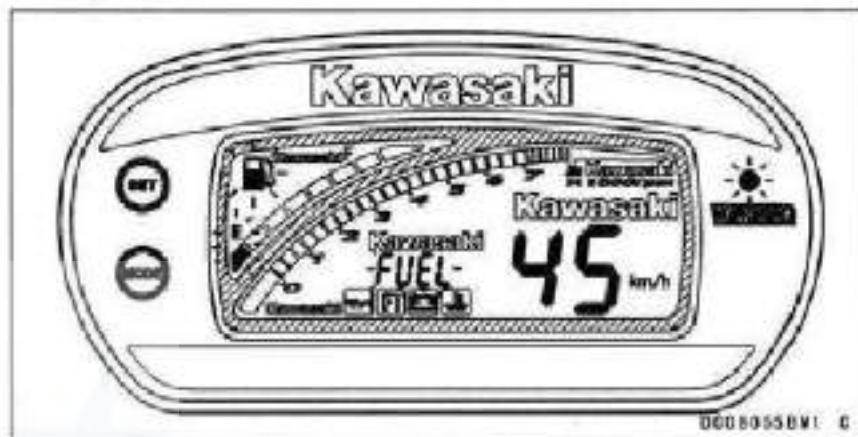
### 要点

- スピードメータの表示をKm/hおよびMile/hのいずれかに変えることができます。詳しくは積算航走時間メータ(HOUR)の項目を参照ください。

### 燃料レベル計／シンボル／"FUEL"文字／警告灯

燃料タンクの燃料は、表示されるセグメントの数によって示されます。燃料が満タンのときは、8つ全てのセグメントが表示されます。燃料が減るに従ってセグメントは上から順に消えて行き、タンク内の残量を示します。一番下(Eマーク)のセグメントだけになると、燃料シンボルとそのセグメントが点滅しはじめます。また、警告ブザーが鳴り "LED" (赤色) 警告灯と共にスピードメータの横に "FUEL" 文字が点滅して、操縦者に警告します。警告ブザーは、メータのどちらかのボタンを1秒以上押すと停止します。点滅が始まったときの残りの燃料は16 Lで、フルスロットル運転が約26分間できます。このウォータークラフトには

予備タンクがありませんので、できるだけ早く給油してください。（「燃料」と「操縦装置」の項目参照。）

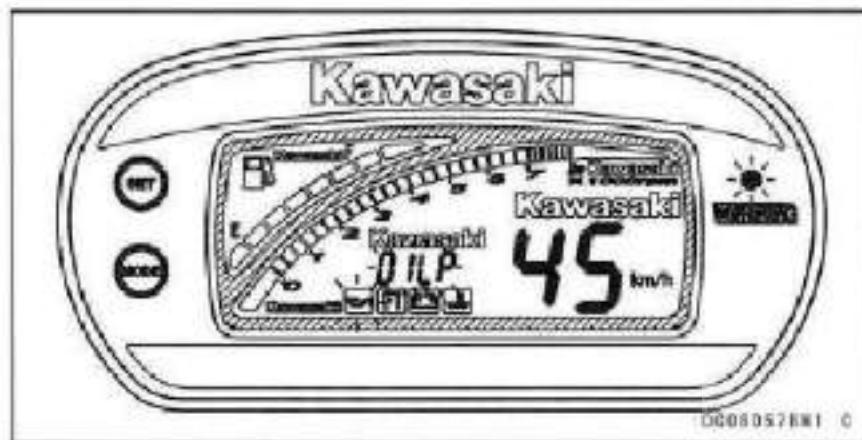


### オイル圧力シンボル／"OILP"文字／警告灯

エンジンオイルの量が減り、オイル圧力が低下するとブザーが鳴り、オイル圧力シンボル、警告灯、"OILP" 文字が点滅し、操縦者に警告します。同時にエンジンの回転数を自動的に3 000 rpm 以下に制御しますので、直に岸に戻り、できるだけ早くオイルを補充してください。（「エンジンオイル」の項目参照。）警告ブザーは、メータのどちらかのボタンを1秒以上押すと停止します。

### 要点

- ウォータークラフトが転覆して復旧した場合、イグニッショナスイッチがONになっていると警告灯が点滅したままになります。

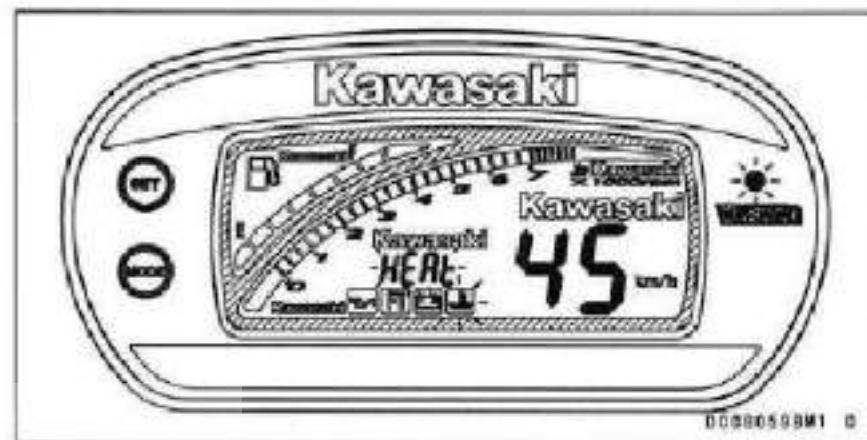


### 水温シンボル／HEAt文字／警告灯

冷却水の温度が高くなり過ぎると警告ブザーが鳴り、“LED”（赤色）警告灯、水温シンボルが点滅します。また、スピードメータの横に“HEAt”文字が点滅します。同時にエンジンの回転数を自動的に3,000 rpm以下に制御しますので、直ちに岸に戻り、冷却系統が詰まっていないか点検してください。警告ブザーは、メータのどちらかのボタンを1秒以上押すと停止します。（「操縦方法」の章の「特殊な手入れ」の項参照。）

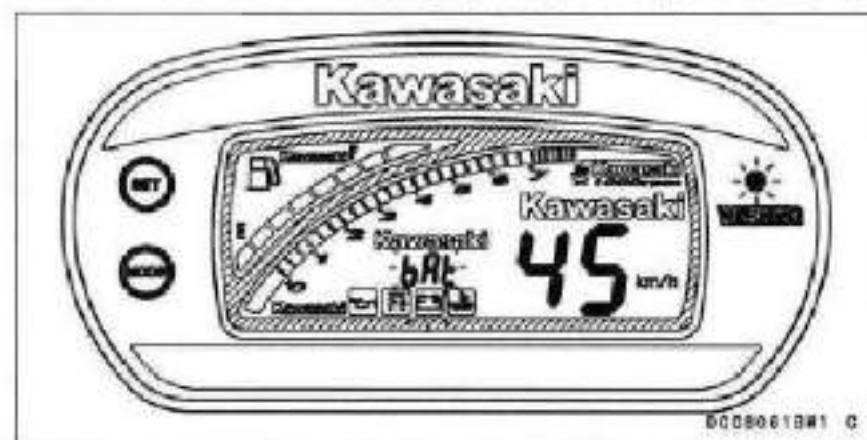
#### 注意

エンジンがオーバーヒートすると、警告ブザーが鳴り警告灯、水温シンボルが点滅すると共にスピードメータの横に“HEAt”文字が点滅してエンジンの回転が下がります。直ちに岸に戻り、冷却系統を点検してください。エンジンの損傷を防ぐため、オーバーヒートの原因を見つけて修理するまでウォータークラフトを操縦しないでください。



### バッテリシンボル／“bAt”文字／警告灯

バッテリ電圧が12V以下になると、警告ブザーが鳴り“LED”（赤色）警告灯、バッテリシンボルと共にスピードメータの横に“bAt”文字が点滅して操縦者に警告します。直ちに岸に戻り、バッテリの補充電を行ってください。警告ブザーは、メータのどちらかのボタンを1秒以上押すと停止します。

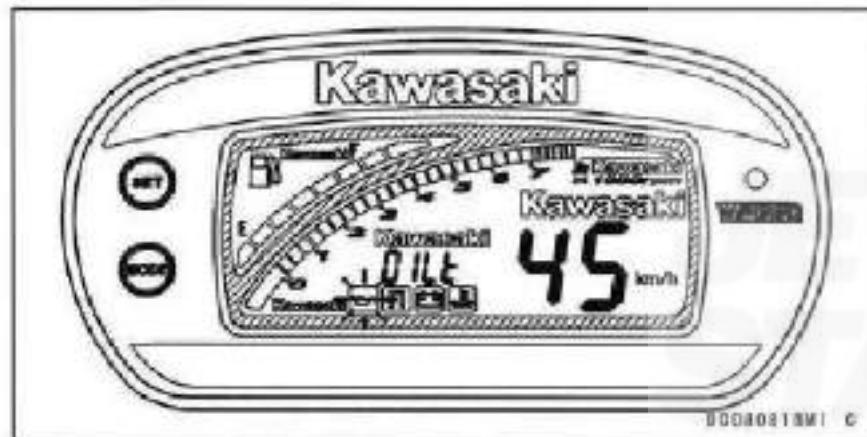


### 油温センサー異常警告／“OILt”文字／警告灯

エンジンの油温センサーが作動不良を起こすと警告ブザーが鳴り、LED（赤色）警告灯、エンジン油圧シンボル、及び“OILt”文字が点滅します。

同時にエンジンの回転数が自動的に3 000 rpm以下に制御されますので、直ち海岸へ戻り、「カワサキ正規取扱店」で故障修理を行ってください。

ブザーはSET又はMODEのボタンを1秒以上押すと作動を停止します。



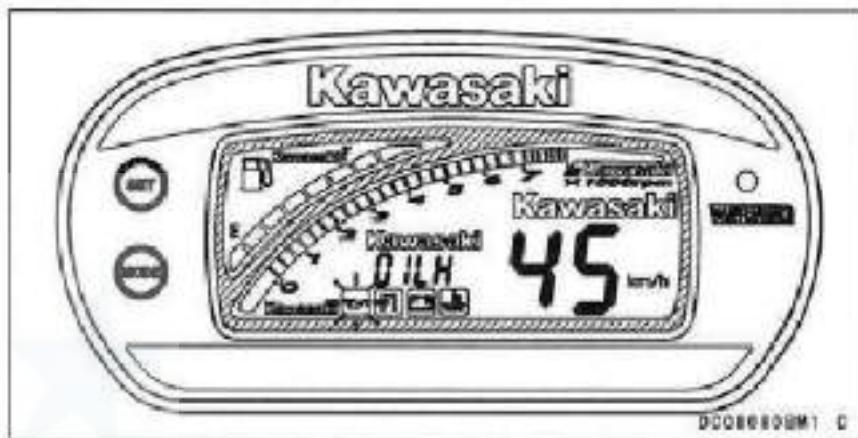
### 油温オーバーヒート警告／“OILH”文字／警告灯

エンジンオイルの温度が高くなりすぎると警告ブザーが鳴り、“LED”（赤色）警告灯、エンジンオイル圧力シンボル、及び“OILH”文字が点滅します。

同時にエンジンの回転数が自動的に3 000 rpm以下に制御されますので、直ちに岸に帰り冷却水系統のつまり、及びエンジンオイルの量を確認してください。上記以外の原因の場合は「カワサキ

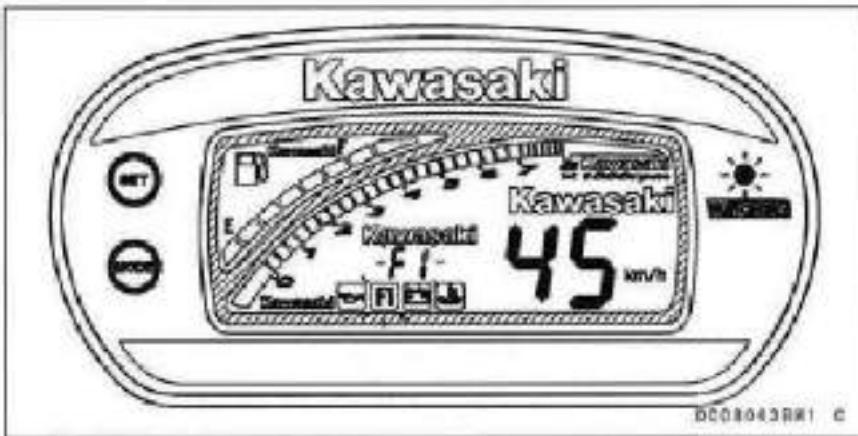
正規取扱店」で点検を受けてください。（「トラブルシューティング」の項の「エンジンの回転数が3 000 rpm以上に上がらないとき」の項参照。）

警告ブザーはSETまたはMODEのボタンを1秒以上押すと停止します。



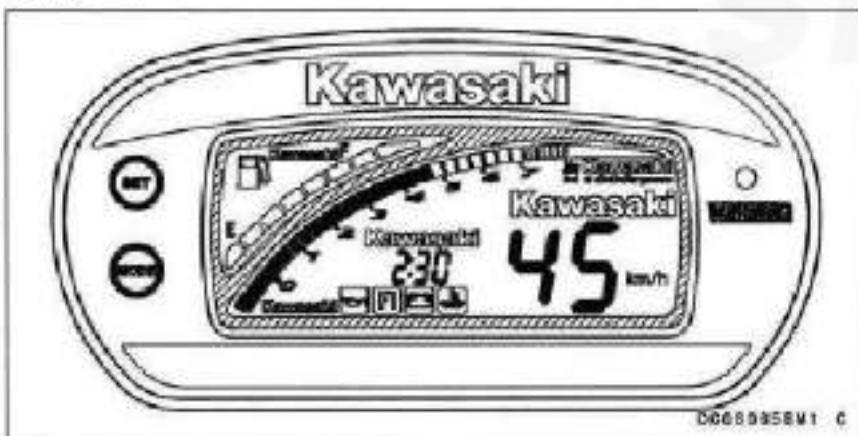
### FIシンボル／“FI”文字／警告灯

エンジン関連の部分の機能が損なわれると警告ブザーが鳴り、“LED”（赤色）警告灯、“FI”シンボル、及び“FI”文字が点滅します。直ちに海岸へ戻り、「カワサキ正規取扱店」で故障修理を行ってください。ブザーはメーターのどちらかのボタンを押すと作動を停止します。故障の原因によっては自動的にエンジンの最高回転を3 000 rpmに制限します。



## タコメータ

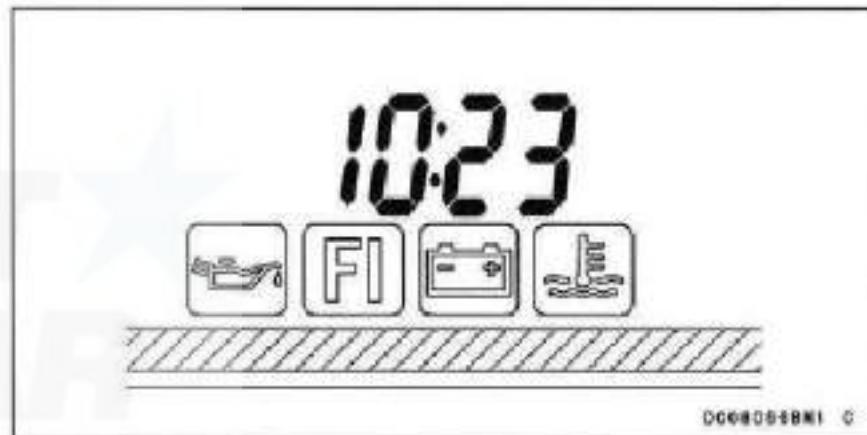
タコメータは毎分当たりのエンジン回転数 (rpm) を示します。0から7 000 rpm の間は333 rpmごとに、7 000から8 000 rpmまでは167 rpmごとに表示します。



## 時計／航走時間／航走路距離／積算航走時間メータディスプレー

マルチファンクションメータ下部のディスプレーに、時刻、航走時間、航走路距離、積算航走時間の4つのモードがこの順に表示されます。“MODE”ボタンを1秒以上押し続けると、これらのモードが連続的に移り変わります。

## 時 計

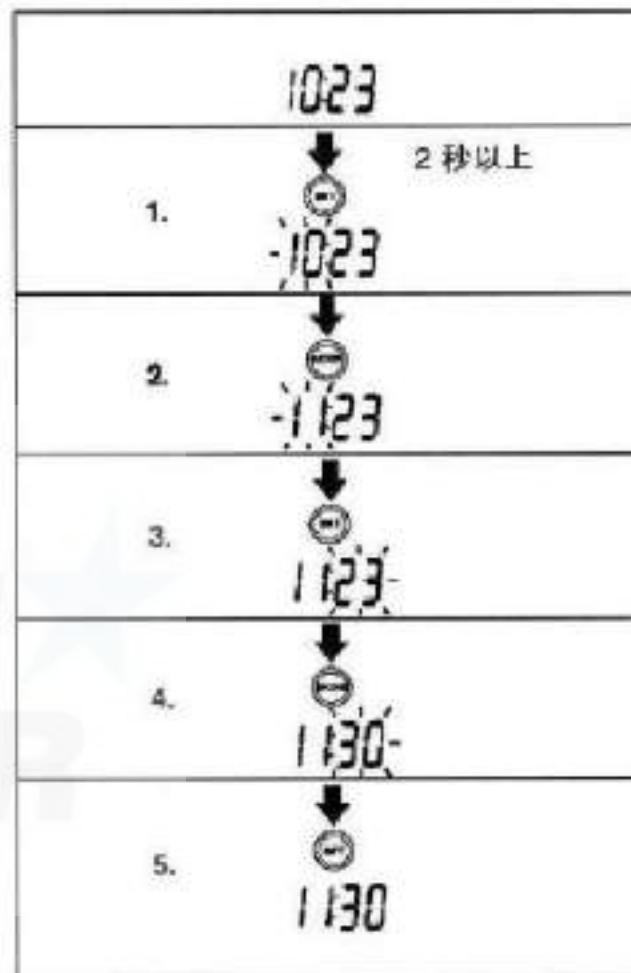


次のように時間を合わせます。

1. “SET”ボタンを2秒以上押す。時間表示が点滅を始める。
2. “MODE”ボタンを押して、時間表示を進める。
3. “SET”ボタンを押す。時間表示の点滅が止まり、分表示が点滅を始める。
4. “MODE”ボタンを押して、分表示を進める。
5. “SET”ボタンを押す。分表示の点滅が止まり、時計が動き出す。

## 要点

- "MODE"ボタンを瞬間的に押すと時間表示または分表示が一つづつ進み、押し続けると連続的に進みます。
- イグニションスイッチが"OFF"の間は、時計はバックアップ電力により正常に動きます。
- バッテリからリード線を外すと、時刻表示は12:00にセットされ、次に接続されたときから動き始めます。



## 航走時間メータ (TIME)

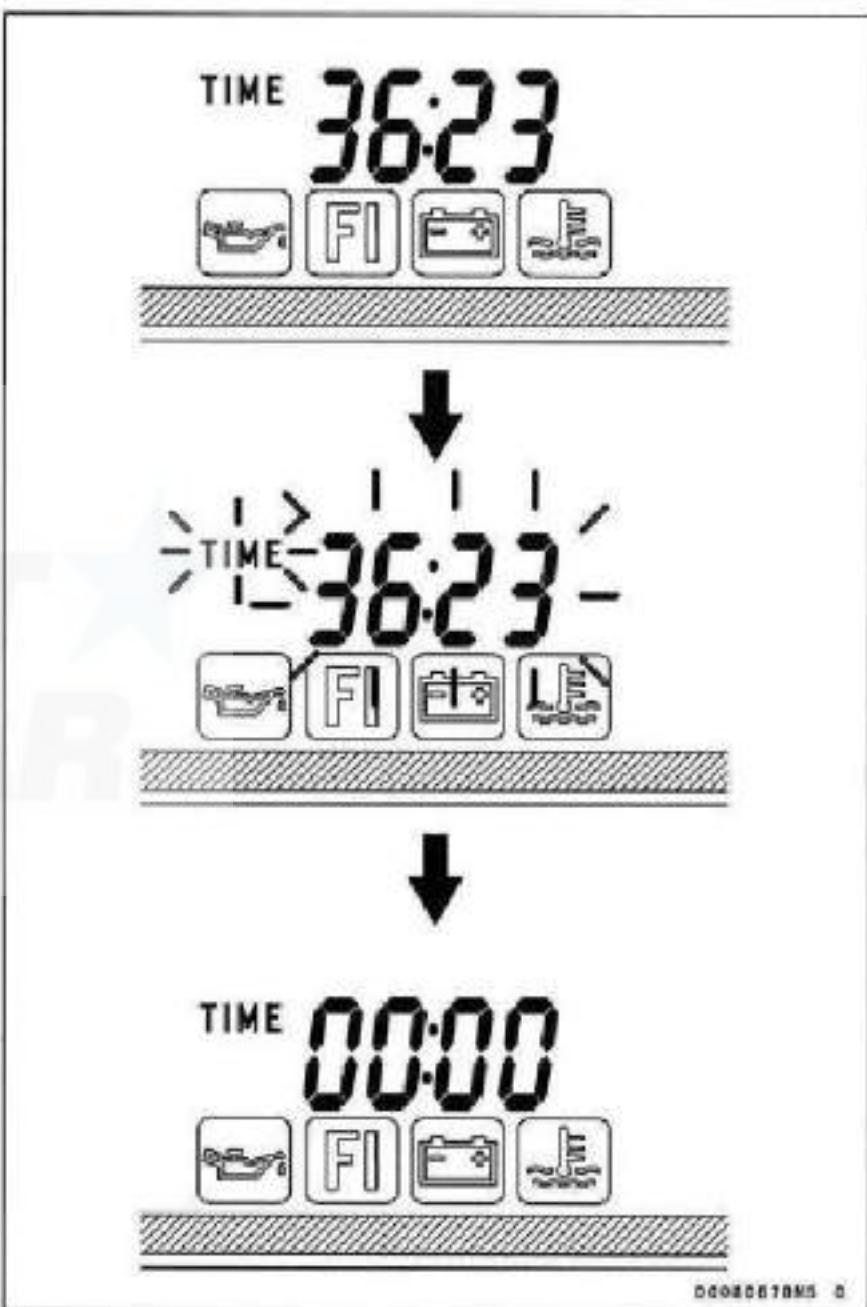
航走時間メータは、表示をゼロにリセットしてから経過した時間を示します。

次のようにリセットします。

1. “SET”ボタンを押し続ける。このモードのすべての表示が点滅を始める。
2. 2秒後表示の点滅が止まり、時・分表示が00:00に戻る。エンジンが回転中ならすぐに動き始める。イグニションスイッチを“OFF”にしない限り、メータは次にリセットする(ゼロに戻す)までカウントを続ける。

## 要点

- たとえイグニションスイッチをOFFにしても、表示データはバックアップ電力によって保存され、次回ウォータークラフトを使用したときに再びそこから動き始めます。
- エンジンが回転中に表示が99:59になると、いったん00:00に戻ります。そして、再び先へカウントを進め始めます。
- バッテリからリード線を外すと、表示は00:00にリセットされます。



### 航走距離メータ (TRIP)

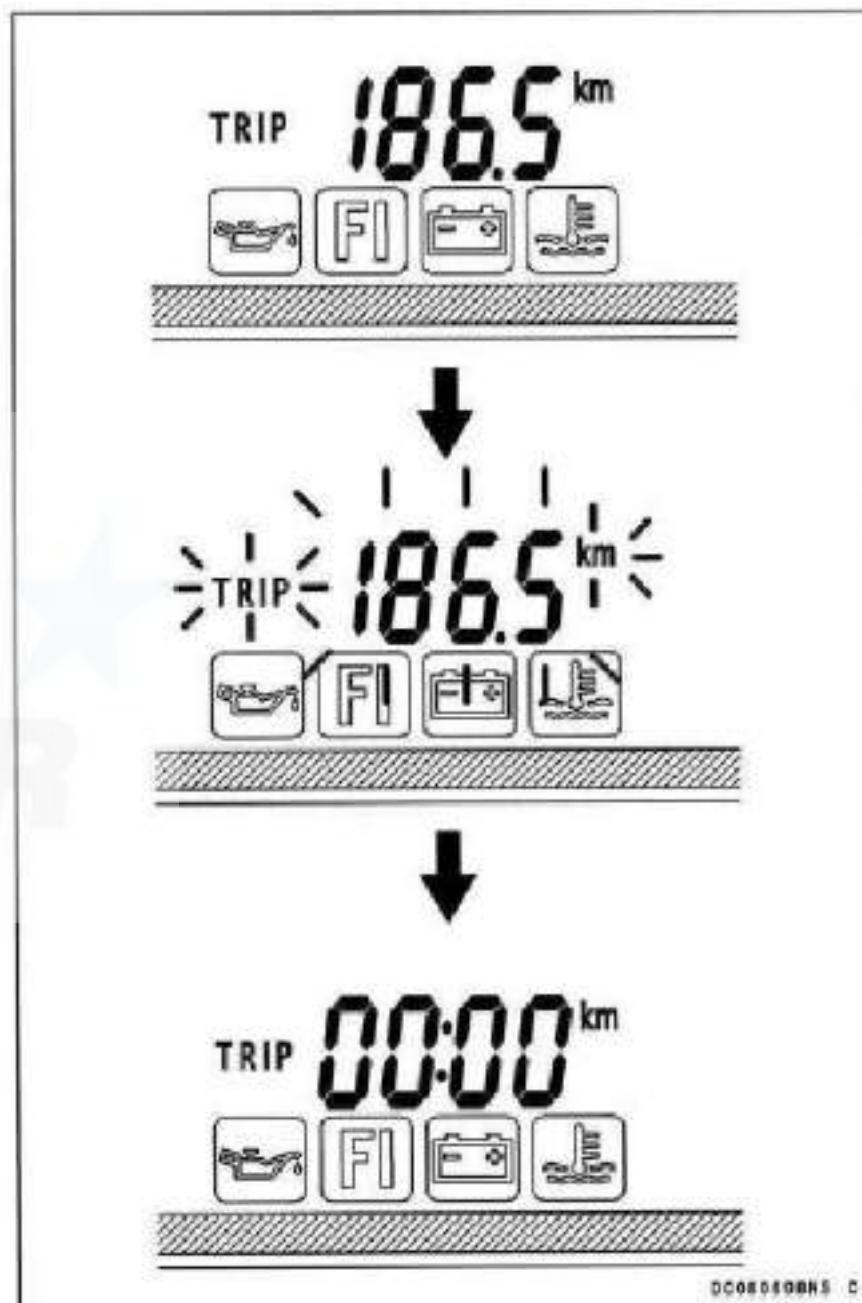
航走距離メータは、表示をゼロにリセットしてから航走した距離を示します。

次のようにリセットします。

1. "SET" ボタンを押し続ける。このモードのすべての表示が点滅を始める。
2. 2秒後表示の点滅が止まり、距離表示が000.0に戻る。航走中ならすぐにカウントを始める。イグニションスイッチを "OFF" にしない限り、メータは次にリセットする(ゼロに戻す)までカウントを続ける。

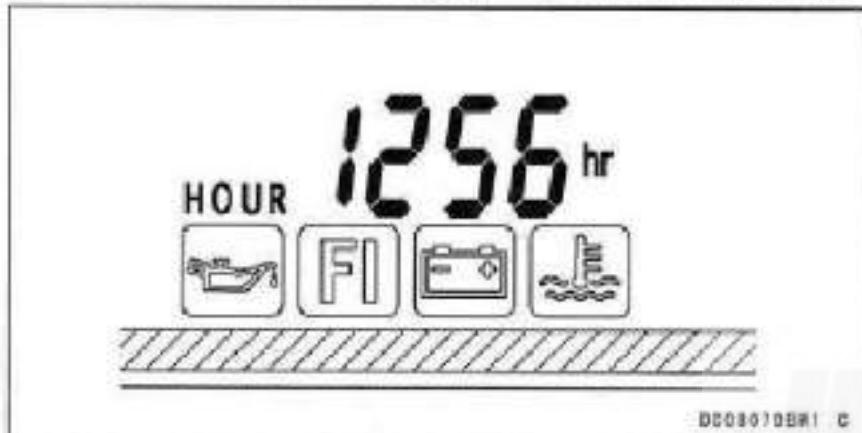
#### 要点

- たとえイグニションスイッチを "OFF" にしても、データはパックアップ電力によって保存されます。
- ウォータークラフトの停止中に航走距離メータをリセットしたときは、再び航走し始めたらすぐにカウントを始めます。
- 航走中に表示が999.9になると、いったん000.0に戻り再びカウントを始めます。
- バッテリからリード線を外すと、表示は000.0にリセットされます。



## 積算航走時間メータ (HOUR)

積算航走時間メータは、ウォータークラフトが今までに航走した全時間を示します。このメータはリセットする（ゼロに戻す）ことはできません。



## 要点

- たとえバッテリからリード線が外されても、データは保存されます。
- ウォータークラフトが航走中に表示が9999になると、いったん0000に戻り再びカウントを始めます。
- このメーターの表示状態で"SET"ボタンを3秒以上押すことでスピードメーターの表示をKm/hまたはMile/h表示に切り替えることができます。

## 燃料

- レギュラーガソリンを使用してください。

## 注意

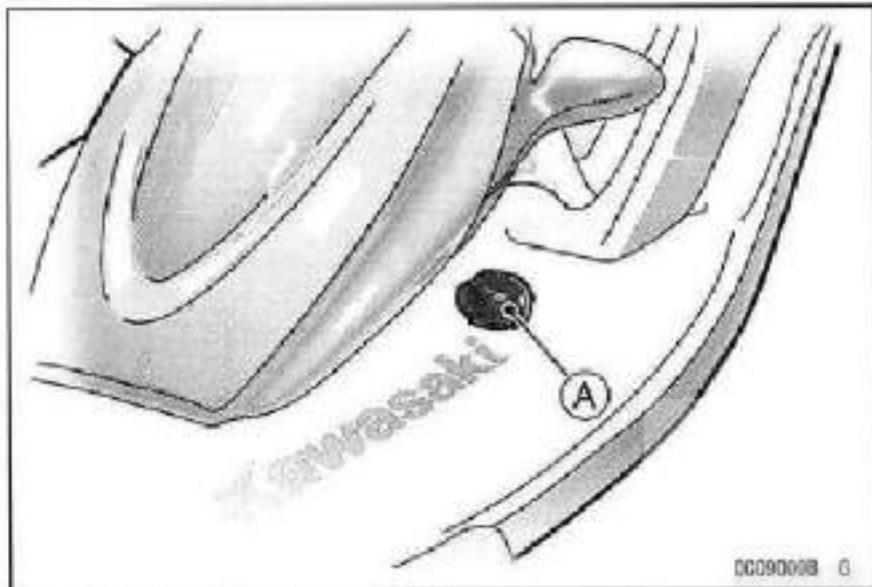
- 必ず無鉛ガソリンを使用してください。  
燃料を補給するときは、必ず無鉛ガソリンであることを確認してから行ってください。
- 高濃度アルコール燃料を使用しないでください。  
高濃度アルコール燃料を使用すると、エンジンや燃料系の部品を損傷させる原因となります。
- 粗悪ガソリンまたは燃料に不適切な添加剤を使用しないでください。  
粗悪ガソリンまたは不適切な添加剤を使用すると、エンジンに悪影響をおよぼすおそれがあります。

## 燃料の注入

## ⚠ 警告

ガソリンは非常に引火性が強く、条件によっては爆発する恐れがあります。キルスイッチコードキーをストップボタンから抜き、禁煙にしてください。作業する場所は換気が良く、火気がないかよく確かめてください。

- 雨の中、及びほこりっぽい中の注油は燃料に混入する恐れがありますのでしないでください。
- 燃料タンクはバウ（船首）内部にあり、燃料注入口は船首左側にあります。



A. 燃料注入口キャップ

- キャップを開き、燃料を注入してください。注入するときは、細いホース等を用いると容易に注入ができます。また、ゆっくり注入すると、燃料タンク内の空気を抜くことができます。

**⚠ 警告**

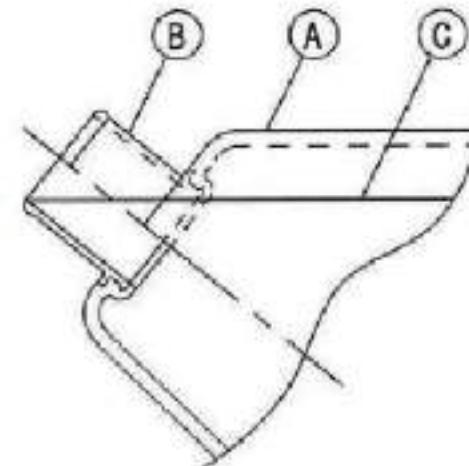
燃料をタンク一杯に注入しないでください。温度の上がったタンク内では燃料が膨張し、ベントチューブから溢れることがあります。注入後はキャップを確実に閉めてください。

- 輸送したり、燃料を注入した後では、エンジンをかける前に備品入れのふたを開け、シートを外し、小物入れ（後部）を取り出して数分間換

気してください。（「シートラッチ」と「備品入れ」の項参照。）

**⚠ 警告**

気化したガソリンがエンジルームにたまると、火災や爆発の原因となることがあります。



00060068M2 D

- A. 燃料タンク  
B. 燃料注入口  
C. 燃料油レベル

**注意**

燃料に不純物が入らないよう、雨及びほこりの中での注油はしないでください。

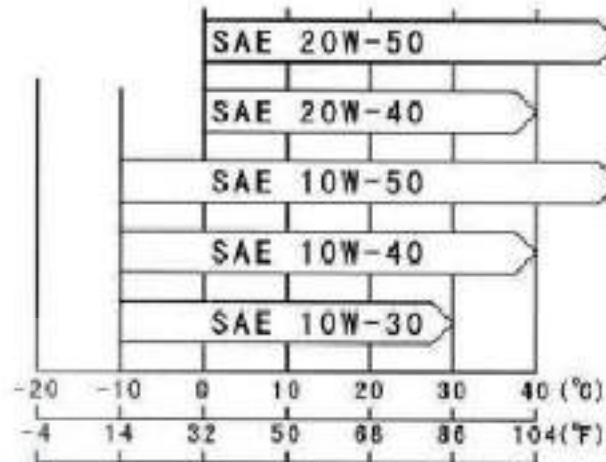
## エンジンオイル

エンジンには適量のエンジンオイルを保つことが不可欠です。「調整方法」の章の「エンジンオイル系統」に従ってエンジンオイル及びオイルフィルターを交換してください。エンジンオイルにはごみ等が溜まる他、長時間使用によりオイル自体が劣化します。

### オイルの必要特性

タイプ:	API SE, SF またはSGJASO MA API SH またはSJ SAE 10W-40
必要量:	4.0 L(通常の入替時) 5.0 L(エンジンを完全に空にした時)

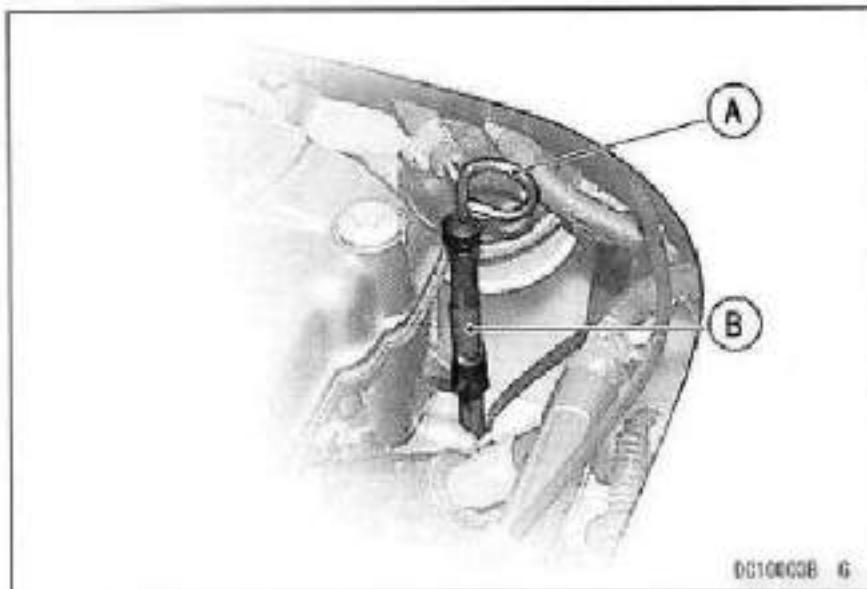
通常10W-40が推奨オイルですが、使用環境状況によってはオイル粘度を次の表により変える必要があります。



0610007BM2.C

### エンジンオイルレベルの計測:

- 毎回使用前にはオイル油面を計測してください。不足している場合には補給してください。「操作方法」の章の「乗る前の点検項目」を参照してください。
- オイルレベルを計測する時は必ずウォーターラフトを極力、前後・左右方向に水平にしてください。
- 計測ゲージを引抜き、きれいな布でふき取り、ゲージパイプに差込みます。再びゲージを引抜きオイルレベルを調べます。



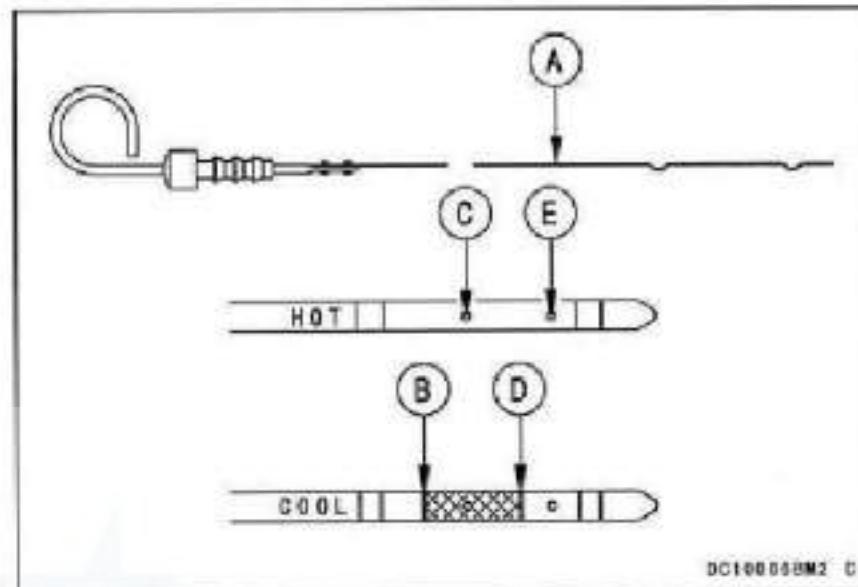
DC100038 6

A. 計測ゲージ  
B. ゲージパイプ

- オイルレベルは “H”（ハイレベル）と “L”（ローレベル）の間でなければなりません。ゲージ表面の冷間時の計測用レベルマークを使用してください。

#### 要点

- ゲージ表面には温感用・冷間用の2種のマークがあります。エンジンオイルが温まってているか否かで読み取るマークを選んでください。次のイラストを参照ください。



A. 計測ゲージ  
B. 冷間時の “H”（ハイ レベル）  
C. 温感時の “H”（ハイ レベル）  
D. 冷間時の “L”（ローレベル）  
E. 温感時の “L”（ローレベル）

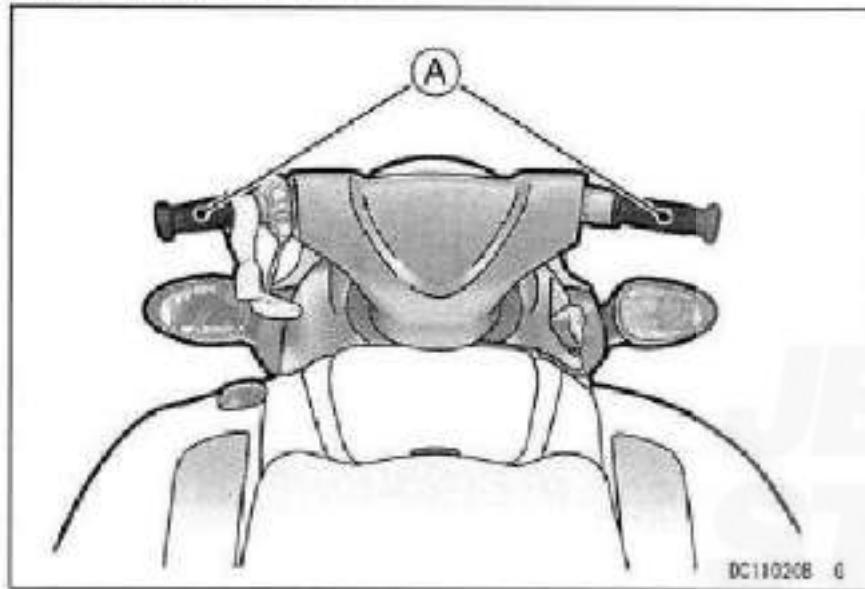
- オイルレベルが “L”（ローレベル）を下回っている時は “L”（ローライン）迄補給してください。補給するオイルは既にエンジンの中にあるものと同じタイプ・銘柄を使用してください。
- エンジンオイルの補給方法に関しては「整備と調整」の章の「エンジンオイル系統」を参照ください。

#### 注意

エンジンの中にごみ等が入らないよう注意してください。

## 操縦装置

### ステアリングハンドルバー



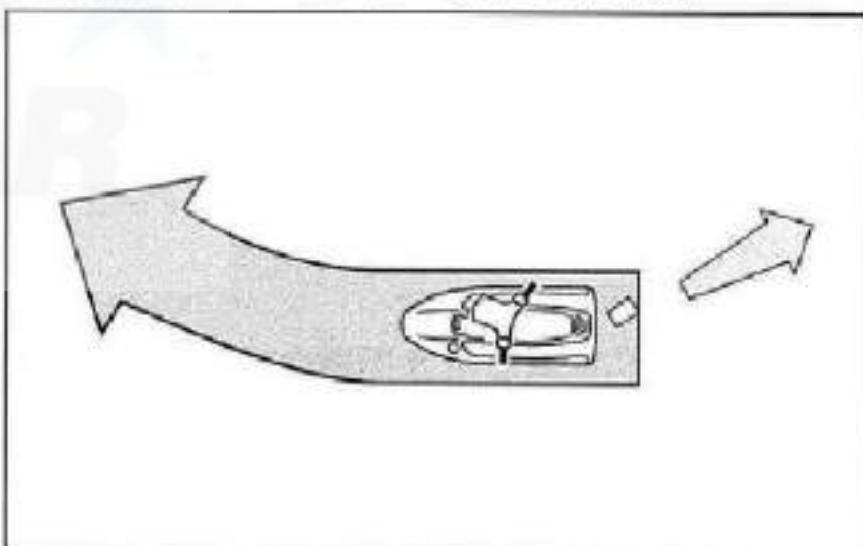
A. ハンドルバー

- ステアリングハンドルバーは自転車のハンドルと同じ機能を持っています。エンジンが回転しており、かつ、スロットルレバーを引いているときのみ、ハンドルバーを動かす事によってウォータークラフトを旋回させる事ができます。ハンドルバーはコントロールケーブルでウォータークラフト後部のステアリングノズル（ジェットノズル）とつながっています。

### カワサキスマートステアリングシステム

旋回するためには、ジェットノズルに推力が必要です。カワサキスマートステアリングシステムの働きにより、スロットルレバーを放したときでも、特定の条件下においてハンドルを切れば旋回します。これは、操縦者が旋回操作を学ぶことを手助けする補助的な舵とりシステムです。

カワサキスマートステアリングシステムは、ハンドル操作と船の速度を絶えず検知しています。スロットルを放しても、船の速度が速い場合、ハンドルを右または左に操作すれば、システムが働き、自動的にエンジン回転数が高くなり、推力が増加します。エンジンを止めたり船の速度が遅い場合は、このシステムは働きません。



## 重要

緊急に旋回するには大きな推力が必要です。適度にスロットルを開けてジェットノズルに必要な推力を与えてください。

必要に応じてスロットルを開ければより速く旋回できますので、カワサキスマートステアリングシステムに頼らないでください。

カワサキスマートステアリングシステムは、以下の条件を全て満足したときに機能します。

- 一定時間の平均エンジン回転数が 3,000 rpm 以上である

- スロットルレバーを完全に放している
- ハンドルを右か左に一杯切っている

## スマートラーニングオペレーションモード(SL0モード)

このウォータークラフトには最高速度を約30%制限する機能、SL0(スマート・ラーニング・オペレーション)モードの機能がついています。

マルチファンクションメータにはこの機能はSL0と表示されます。また、この速度制限の無い通常モードである、FP0(フル・パワー・オペレーション)モードはFP0と表されます。

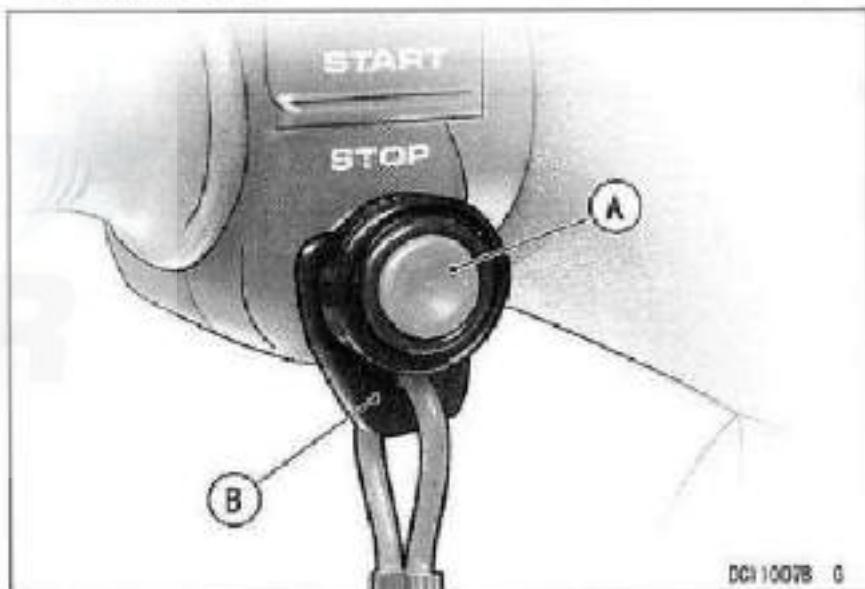
SL0モードでもメーターの各種作動・警報機能及びKSS機能等は通常モード(FP0)とまったく同じように作動します。

FP0モードからSL0モードへの切り替え及びその逆は、MODEボタンを7秒以上押してください。詳細は「一般事項」の章の「マルチファンクションメータ」の項目をご覧ください。

初心者及経験の浅い運転者がウォータークラフトの操縦技能を安全に習得できるよう、ウォータークラフトの所有者及び運転者はこのSL0機能について熟知してください。

## ストップボタン

- ストップボタンはハンドルバーの左側グリップの横に取り付けられています。ストップボタンは赤色で、上方に"STOP"と表示されています。ストップボタンを押すとエンジンは停止します。
- キルスイッチコードキーをストップボタンから抜いても、エンジンは停止します。
- 下船後は子供や他の人が使えないように、キルスイッチコードをウォータークラフトから外してください。



A. ストップボタン  
B. キルスイッチコードキー

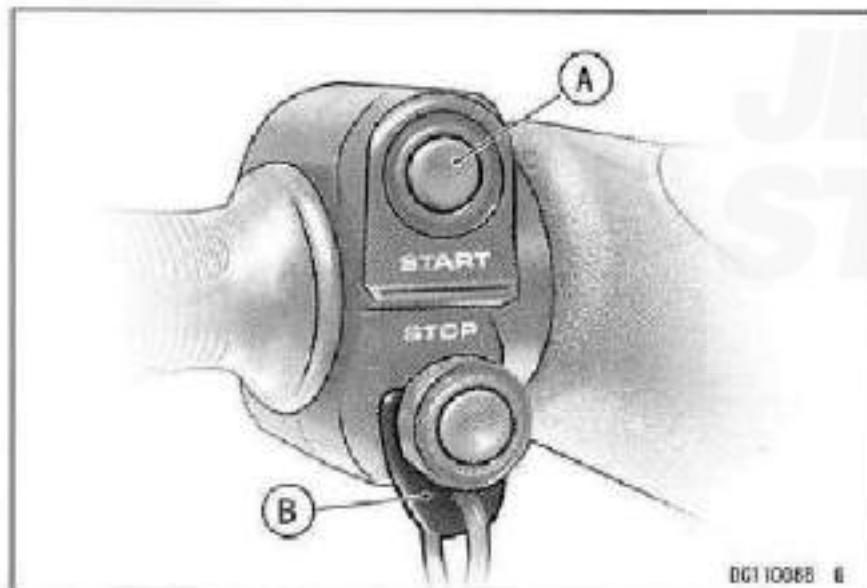
## スタートボタン

- スタートボタンはハンドルバーの左側グリップの横に取り付けられています。スタートボタンは緑色で、"START"と下方に表示されています。キルスイッチコードキーをストップボタンの下

に差し込み、スタートボタンを押すとエンジンが始動します。エンジンが始動したらボタンを放してください。キルスイッチコードキーを差し込んでいないと、エンジンは回転も始動もしません。

### 注意

エンジンが回転しているときや、スタートがまだ回っているときに、スタートボタンを押さないでください。スタートの摩耗を早め、また、スタートの故障の原因になります。



A. スタータボタン  
B. キルスイッチコードキー

### 要点

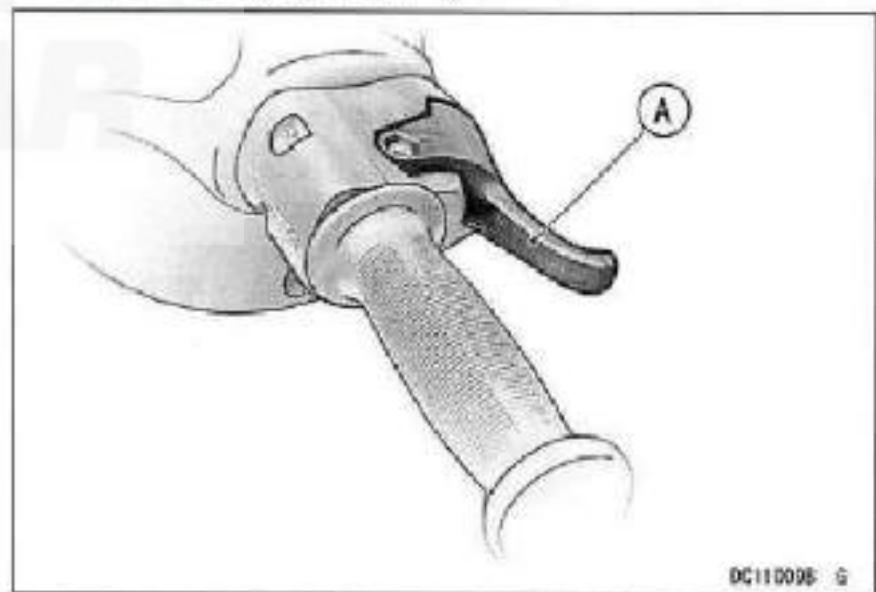
- エンジンが始動するためには、イグニションスイッチが“ON”的位置になっており、キルスイッチコード

キーがストップボタンの下に差し込まれていなければなりません。

- 「操縦方法」の章の「エンジンの始動」の項を参照してください。

### スロットルレバー

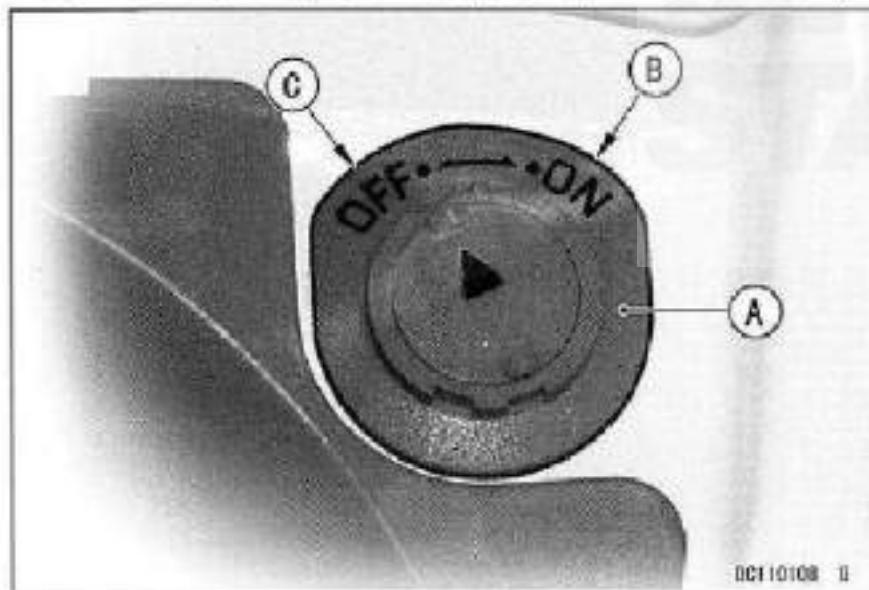
- スロットルレバーはハンドルバーの右グリップに付いています。レバーを手前に引くとエンジンの回転が上がります。レバーを放すとスプリングにより前方に戻ります。エンジン始動前に、スロットルレバーが通常の位置に戻るか必ず点検してください。更にスロットルケーブルには適正な遊びがなくてはなりません。スロットルケーブルの調整方法については「整備と調整」の章をご参照ください。



A. スロットルレバー

### イグニションスイッチ

- イグニションスイッチはステアリングハンドルバーの手前、小物入れ（前部）カバーの下にあります。小物入れ（前部）カバーを開け、イグニションスイッチキーの矢印を前方にしてはめ込み、“ON”または“OFF”的位置に切り替えます。キーは“OFF”、“ON”的どちらの位置でも外すことができます。
- スイッチを“ON”にしたらすぐにキーを外して、小物入れ（前部）に収納してください。
- バッテリ上りを防ぐために、エンジンを止めたら必ずスイッチを“OFF”にしてください。
- 知らない間に他人に使われないように、ウォーターカラフトの使用後はイグニションスイッチを“OFF”にし、キーを外しておいてください。



A. イグニションスイッチ  
B. “ON”  
C. “OFF”

### 注意

イグニションスイッチを“ON”にしたら必ずキーを外し、携帯するか、小物入れ（前部）に収納してください。

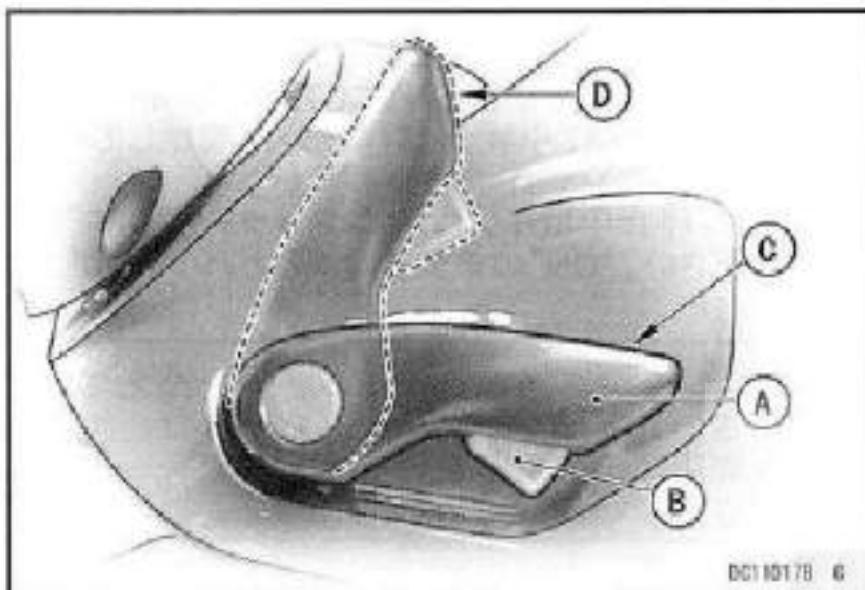
エンジン停止中はイグニションスイッチを“OFF”にしてください。“ON”的まま放置するとバッテリが上がりります。

イグニションスイッチキーの番号を控えておいてください。万一キーを紛失したときは、カワサキの販売店にその番号をいって、同じキーを求めてください。

キー番号	
------	--

### シフトレバー

- このウォーターカラフトは、スター（船尾）のステアリングノズルについていたバケットの作用で後進ができます。前進、後進切換のシフトレバーは、ステアリングハンドルバーの右下側にあります。シフトレバーは“F”（前進）と“R”（後進）の二段階になっています。



DG11017B-6

- A. シフトレバー
- B. ノブ
- C. "F" (前進)
- D. "R" (後進)

- 前進から後進に切換えるには、シフトレバーのノブを押し込みながらレバーを上へいっぱい引き上げます。
- 前進へ戻すには、ノブを押し込みながらレバーを下へいっぱい押し下げます。
- 前進から後進へ切換える場合は、その前に必ずスロットルレバーをゆるめて船の速度を落としてください。（「操縦方法」の章の「後進」の項参照。）

### ⚠ 警告

高速航走中、急にシフトレバーを前進から後進に操作してはいけません。また、ブレーキとして後進を使ってはいけません。ウォータークラフトのバウ（船首）が水中に突っ込んで乗船者がけがをする原因となることがあります。シフトする前に必ず船が停止するまで減速し、また、同乗者に安全のための注意を呼びかけてください。

## シートラッチ

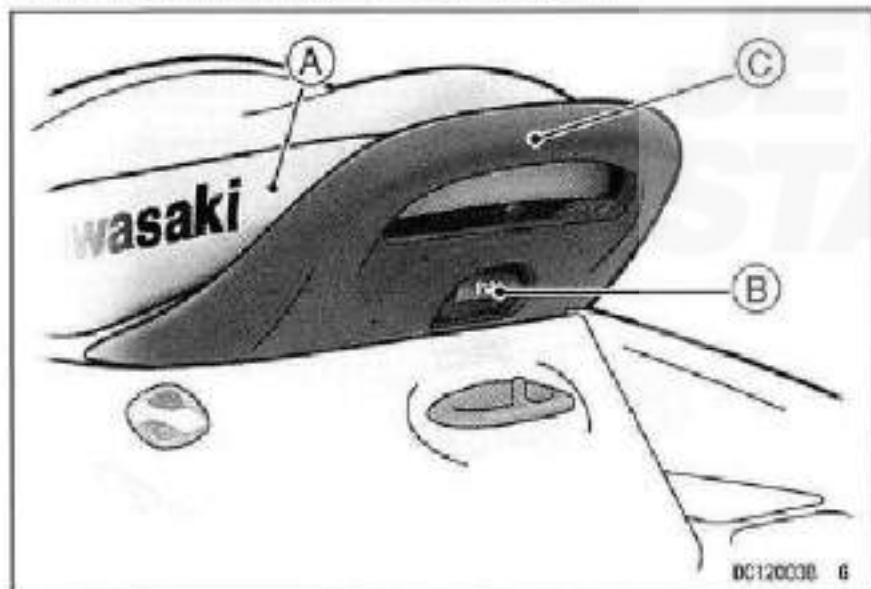
- シートは後部のラッチを外すことにより、取り外すことができます。

### シートの外し方

ラッチハンドルを引き、シートを後方へ外します。

### シートの取り付け方

シート先端を所定の位置にきっちりと合わせ、シートの後端を前方へいっぱい押します。シートの後部を押し下げ、ロックします。



A. シート  
B. ラッチハンドル  
C. ハンドレール

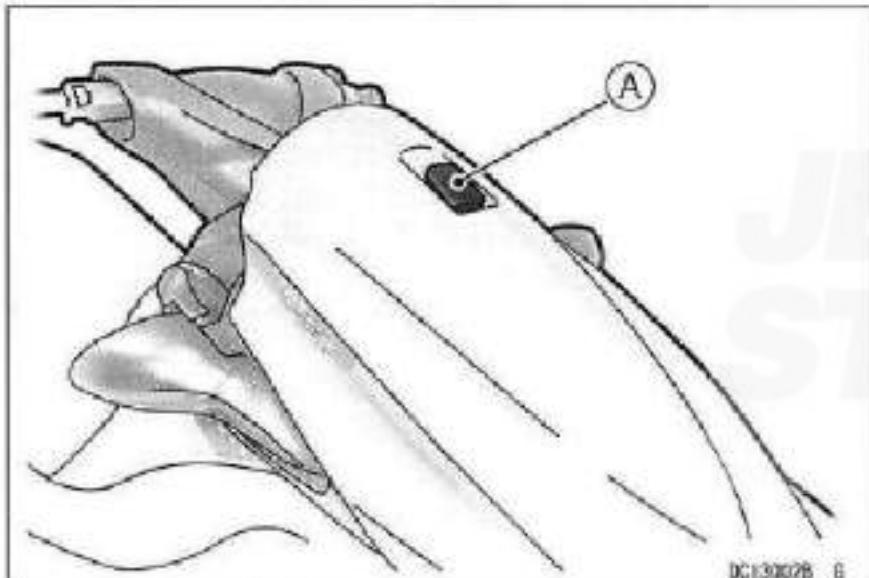
- ウォータークラフトを輸送するときは、シートがガタついて損傷しないようにラッチを完全にロックしてください。
- シート後方のハンドレールは、水深の深い場所から船に上がるためのものです。また、水上スキーヤー等を引っ張っているとき、同乗者は見張りのために後方に向き、シート後方のハンドレールをつかみます。これら以外の目的に使ってはいけません。（「操作方法」の章の「けん引ロープをかける場所」の項参照。）

### 注意

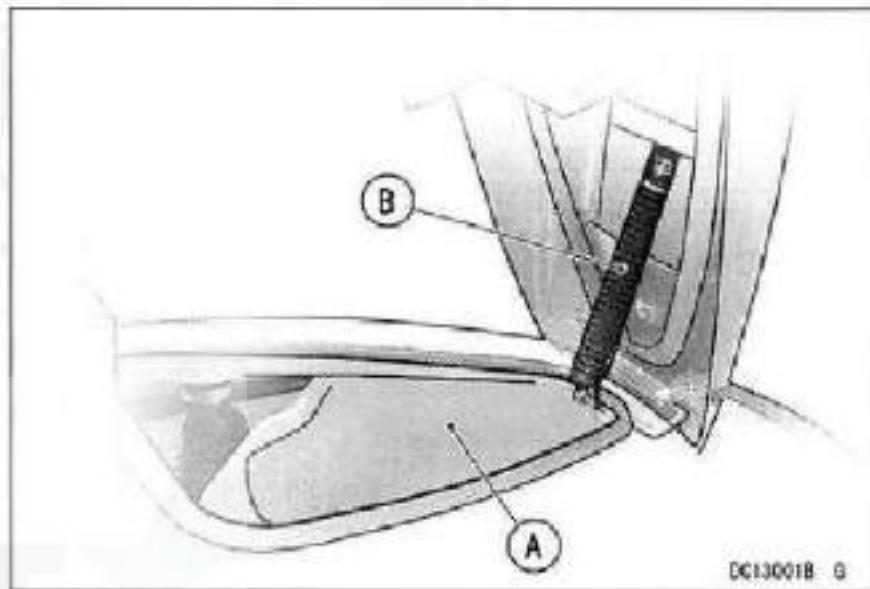
シート後方のハンドレールやけん引フックを使ってウォータークラフトを持ち上げたり、他の船をけん引したり、あるいは船体固定用ベルトでしばりつけたりしないでください。

## 備品入れ

- 備品入れは船首にあります。この取扱説明書を防水の袋に入れて、ここに保管してください。開けるときは、ノブを引き上げ、ふたがロックするまでいっぱい開きます。閉めるときは、ふたをおろしノブのまわりを押して、ロックします。

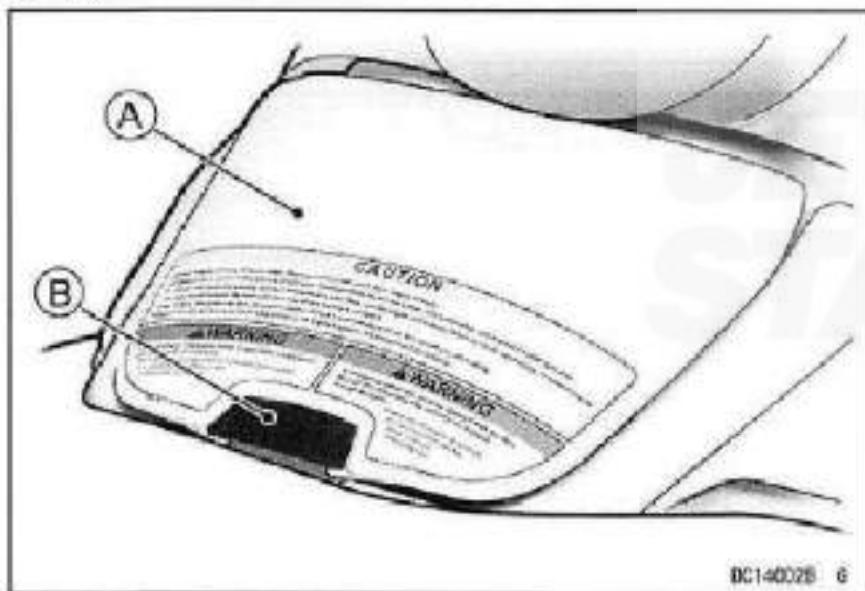


A. ノブ

A. 備品入れ  
B. ダンバ

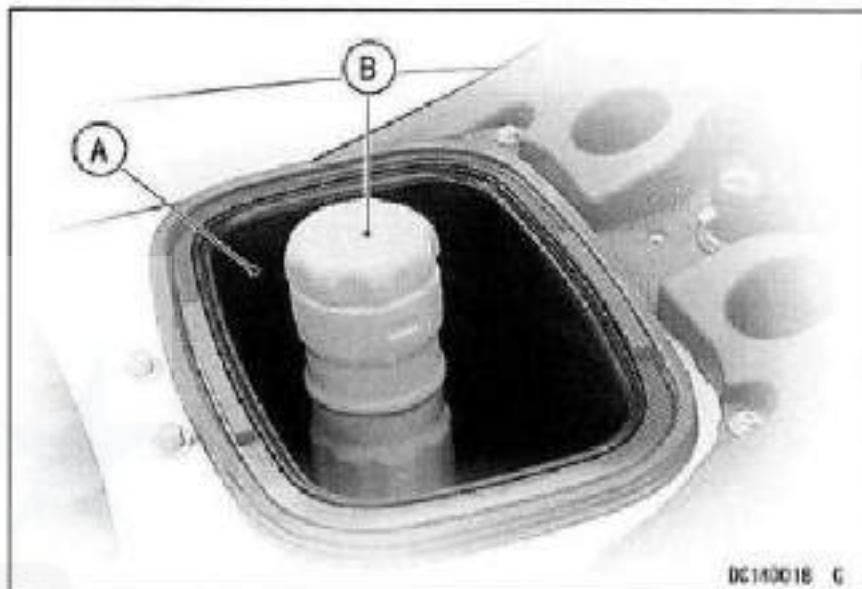
## 小物入れ

- シートのすぐ前に小物入れ（前部）があります。イグニションスイッチを“ON”にした後で、イグニションスイッチキーを外して入れてください。  
開けるときは、ふたのノブの下に指を入れ引き上げます。  
閉めるときは、ノブのまわりを押してロックします。



A. 小物入れ（前部）  
B. ノブ

- シートの下に、小物入れ（後部）があります。両方の小物入れには、ごく軽量の物だけを入れてください。



A. 小物入れ（後部）  
B. 消火器格納

消火器を格納する容器が後部小物入れに装備されています。（消火器は標準装備ではありません。）

## 工具

- 工具はシートの裏側に収納されています。工具袋はゴムバンドを外して取り出します。



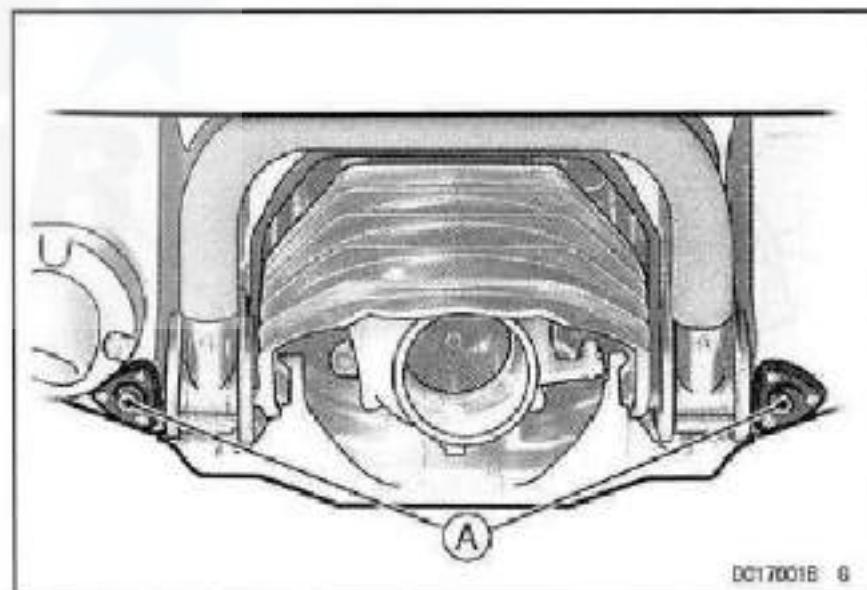
A. 工具袋  
B. ゴムバンド

## ドレンプラグ

- スター（船尾）には、エンジンルームにたまつた水を排出するため2つのドレンプラグがあります。ウォータークラフトを陸上に引き揚げたときだけドレンプラグを外してください。

### 注意

ウォータークラフトを水上に降す前に、エンジンルームに浸水しないようにドレンプラグをしっかりと締めてください。



A. ドレンプラグ

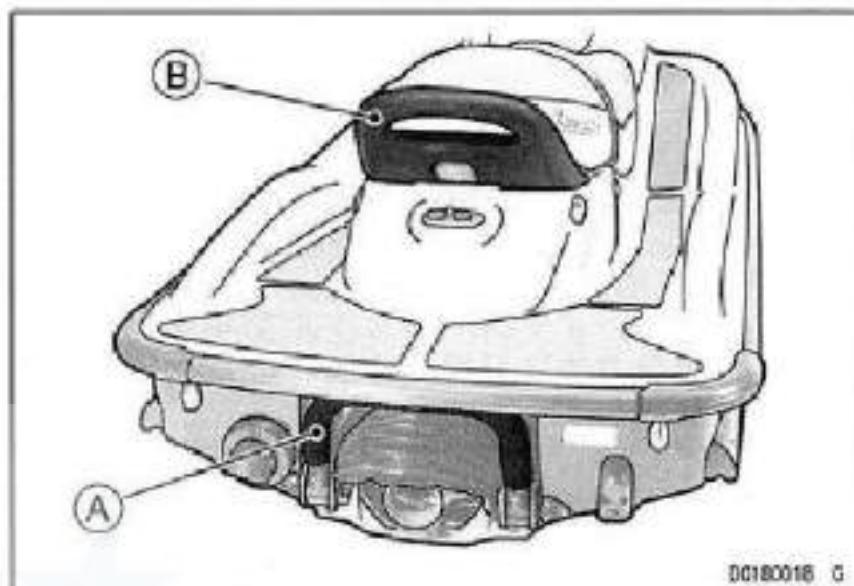
## リボーディングステップ

- このウォータークラフトには、船尾に折りたたみ式のリボーディングステップが取り付けられています。船尾から乗船するときは、ステップを下へ引き降ろします。放すとスプリングの力でもとの位置に戻ります。このステップとシート後端のハンドレールを使うと、水中からより容易に船に上ることができます。（「操縦方法」の章の「安全な操縦」と「発進」の各項参照。）

また、このステップは、水深の深い場所から船に上がるためだけに設計されているので、人をこれにつかまらせて航走しないでください。

### ⚠ 警告

誰かがリボーディングステップにつかまっているときは、けがを避けるため彼等を水中で引っぱらないでください。

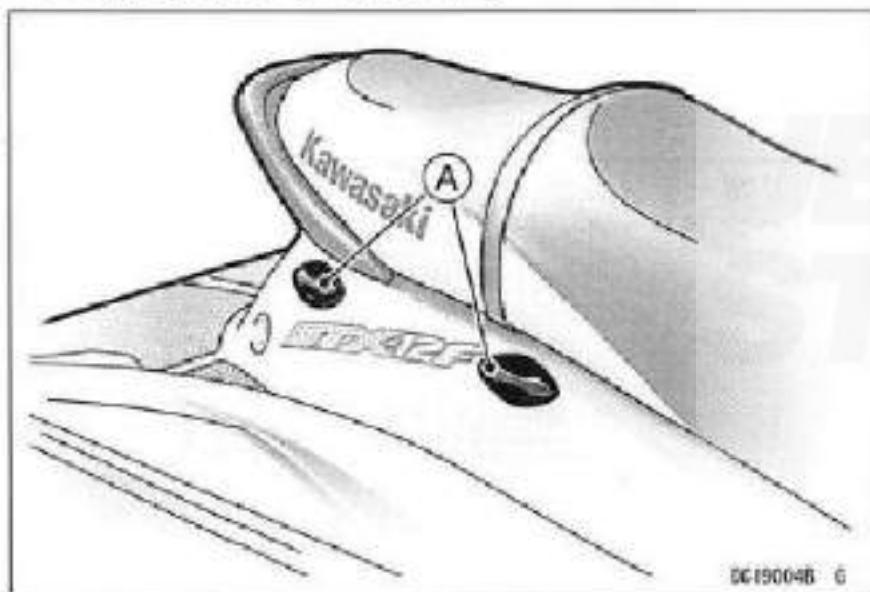


A. リボーディングステップ  
B. ハンドレール

00180016 6

## リセスドフック

- リセスドフックはシート後部のウォーターカラフト両側に各2個設けられています。シートまたは後部デッキに荷物を積むとき、カーゴネット（標準装備部品ではありません。）か他の適当なロープを使いリセスドフックに荷物を固定します。詳細な方法は「操作方法」の章の「積載」の項を参照してください。



A. リセスドフック

# 操縦方法

## 安全な操縦

### 経験の浅い運転者による操縦

このウォータークラフトには最高速度を約30%制限する機能、SL0(スマート・ラーニング・オペレーション)モードの機能がついています。

経験の浅い運転者の方はウォータークラフトの操縦に慣れるまで、このSL0機能を使って操縦してください。

詳しくは「一般事項」の章の「マルチファンクションメータ」および「操縦装置」の項をご覧ください。

### 乗船者の水泳能力

#### ⚠ 警告

道具(たとえ浮袋のような簡単なものでも)を使って水上で遊ぶ人は泳ぎができなければなりません。また、泳いで戻ってくることができる範囲より沖合に出でていけません。

## 安全運転規則

#### ⚠ 警告

ウォータークラフトを操縦するには、特殊小型船舶操縦士免許以上が必要です。海技免状を持って乗船してください。ウォータークラフトを操縦する際は、必ず安全規則、各地方の条例等をよく確認し、これらに従ってください。

- 航走を始める前には必ず当地の天気予報を確認して、気象の変化に注意しておきます。

#### 注意

一般に陸上より海上の方が気象変化の程度が大きいので、変化には十分注意してください。気象情報のみにたよらず、観天望気により突風、霧の前兆があれば直ちに帰港してください。観天望気:雲ゆきや空模様を見るとか、日がさ、月がさ、朝やけ、夕やけ、山の上の笠雲などを観測して判断することです。狭い地域の天気を予測するのに役立ちます。

- このウォータークラフトの定員は3名です。定員以上乗ってはいけません。また、水上スキーを引っ張っているときは、操縦者以外に同乗者は1名しか乗ってはいけません。そして、定員と荷物の合計最大積載量は、225kgです。定員または制限荷重を超えると、操縦安定性に悪影響し、事故になる恐れがあります。

## 44 操縦方法

- エンジンを始動する前に、スロットル、ステアリングおよびシフトレバーが正常に動くか点検してください。これらが故障していると、事故につながることがあります。
- 操縦者は遊泳者、障害物、周囲の船舶等から回避できる安全な速度、距離を保って航走してください。
  - 他のウォータークラフトや船舶などの後を追走しない。
  - 周囲のものに水しぶきが掛かるような距離まで近づかない。
  - 急旋回など周囲の操縦者が避けられないあるいは予測できない航走はしない。
  - 浅瀬や暗礁のある水域は航走しない。
- 発進や急旋回するときは、周囲に十分注意してください。ウォータークラフトは旋回性能が良く、操縦性も良いので、周囲の人が思っているより早く旋回できるからです。旋回する前にいつも後から他のボートなどが近づいて来ていなかいか、ふり返って確かめてください。パックミラーだけに頼ってはいけません。ボートの方向、距離、スピードを誤って判断したり、または全く見えなかつたりするかも知れません。
- 操縦者は早めに行動を起こし、衝突防止に努めてください。ウォータークラフトも一般船舶と同様にブレーキ装置はありません。
- 航走中ずっと同乗者はバランス保持のため両足をデッキにおき、すぐ前の人の体につかまるか、シートバンドをつかんでおいてください。そうしないとバランスを失ってけがをすることがあります。決して同乗者は操縦者の前に乗せないでください。
- 操縦者は落水したときエンジンが停止するようキルスイッチコードを手首にはめ、ハンドルバー等に絡まないようにしてください。下船後は子供や他の人が使えないように、キルスイッチコードをウォータークラフトから外してください。（「エンジンの始動」の項参照。）
- 酒気を帯びたり、または正常な運転や判断を妨げる恐れのある薬物を服用して、ウォータークラフトを運転してはいけません。
- 乗船者は、JCI（日本小型船舶検査機構）認定のライフジャケットを必ず着用してください。ライフジャケットは身体に合ったものを使用してください。
- 乗船者は身体を保護できる衣服を着用してください。落水時の衝撃による水圧やジェットノズルの近くで強い水圧を受けた場合、体腔内に水が入り負傷する恐れがあります。通常の水着では身体を十分に保護できません。身体を保護できるウェットスーツパンツ等を必ず着用してください。
- ウォータークラフトが航走中、波しぶき等で一瞬目が見えなくなることがあります。適当なゴーグル等をかけて安全をはかってください。
- 水深の浅い場所で水中に降りたとき、水中にかくれている貝がらや岩などにより、足にけがをすることがあります。操縦者も同乗者もデッキシューズ、テニスシューズ等を履いて、足の保護をはかってください。
- ウォータークラフトを前進中に後進へシフトするときは、徐々に減速してからシフトレバーを操作してください。また、シフトする前に同乗者に知らせて、安全のための注意を呼びかけて

- ください。そうしないと、船首が水中に突っ込んで、同乗者がけがをする恐れがあります。
- 旋回するためにはジェットノズルからの推力が必要です。スロットルレバーを完全に放すと旋回能力が落ち、障害物を避けようとしても避けられない恐れがあります。
  - 他のウォータークラフトをけん引しているときは、注意が必要です。けん引はハンドル操作に影響があり、危険な状態を引き起こす恐れがあります。
  - このウォータークラフトは転覆しても自動復元しません。従って、操縦する人は誰でも船の正しい起こし方を知っていなければなりません。（ウォータークラフト“ジェットスキー”の乗り方の転覆したウォータークラフトの起こし方の項参照。）
  - ウォータークラフトは日没後、繰綻しないでください。夜間も操縦できるように設計されていませんし、灯火もありません。
  - ジェットポンプが詰まり、事故の原因となるので、雑草・海草や浮遊物の多い所で操縦しないでください。
  - インペラが損傷したり、砂で冷却ホースが詰まることがあるので、浅瀬で操縦しないでください。
  - 他のボート、特に水上スキーをしているボートには注意してください。
  - 決して水上スキー用のジャンプ台をとび越えないでください。ウォータークラフトの損傷や、操縦者と同乗者のけがのもとになります。

- 悪天候や荒波では危険ですからウォータークラフトを運転しないでください。重大な海難事故につながることがあります。
- 波を横切る前に、速度を落としてください。荒波の中を高速で航走すると、脊髄、腰や足をいためることができます。
- 同乗者がリボーディングステップを使う前に、操縦者は必ずエンジンを止め、キルスイッチコードキーを抜いてください。同乗者がリボーディングステップの上で足をすべらせて、すき間にさまれた状態で水中を引きずられると、けがをする恐れがあります。同乗者は、エンジンの回転中はリボーディングステップを使用しないでください。
- 操縦者は、視界の良し悪し、他の船の往来、天候、波の状態などを考えて安全なスピードを判断しなければなりません。波がぶつかり合うような水面では、ウォータークラフトの航走特性はかなり影響されることがあります。操縦者や同乗者が落水する原因になることがあります。さらに、悪条件のもとでフルスピードで航走しようとすると、船が予想外の動きをする原因になり、乗船者がけがをする恐れがあります。

### 注意

波に向かってぶつかる乗り方をすると、ウォータークラフトに過激な力がかかり、船体の破損の原因になります。

## ジェットポンプに関する注意

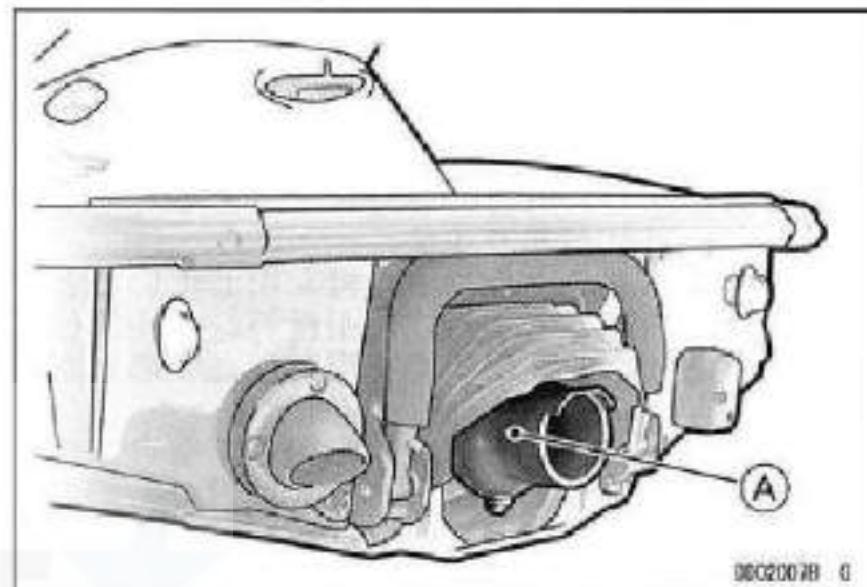
ジェットポンプはもともとプロペラ推進より安全になっていますが、次の特別な注意が必要です。

## ⚠ 警告

エンジンが回転中は、けがをする恐れがありますので、ジェットポンプの吸水口（船底の中央後部）に手、足、衣類等を近づけたり、船尾のステアリングノズル（ジェットノズル）に物をさし込まないでください。

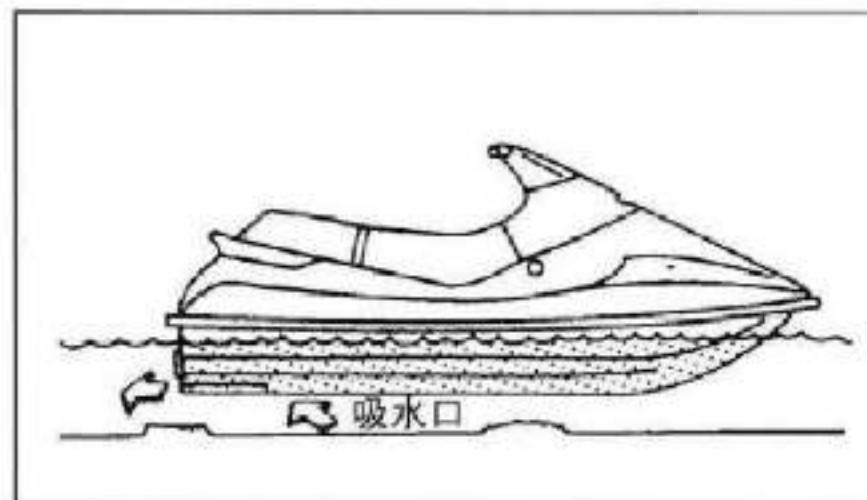
ウォータークラフトの背後に人がいるときはスロットルを開けないでください。エンジンを停止させるか、アイドルスピードにしてください。スロットルを開けると、ジェットノズルから排出される水や異物でけがをする恐れがあります。

エンジン運転中はジェットポンプの吸水口に近づかないでください。長い髪、だぶついた衣服、ライフジャケットの紐等が巻き込まれて、けがをしたり、漏れたりする恐れがあります。



0602007B 0

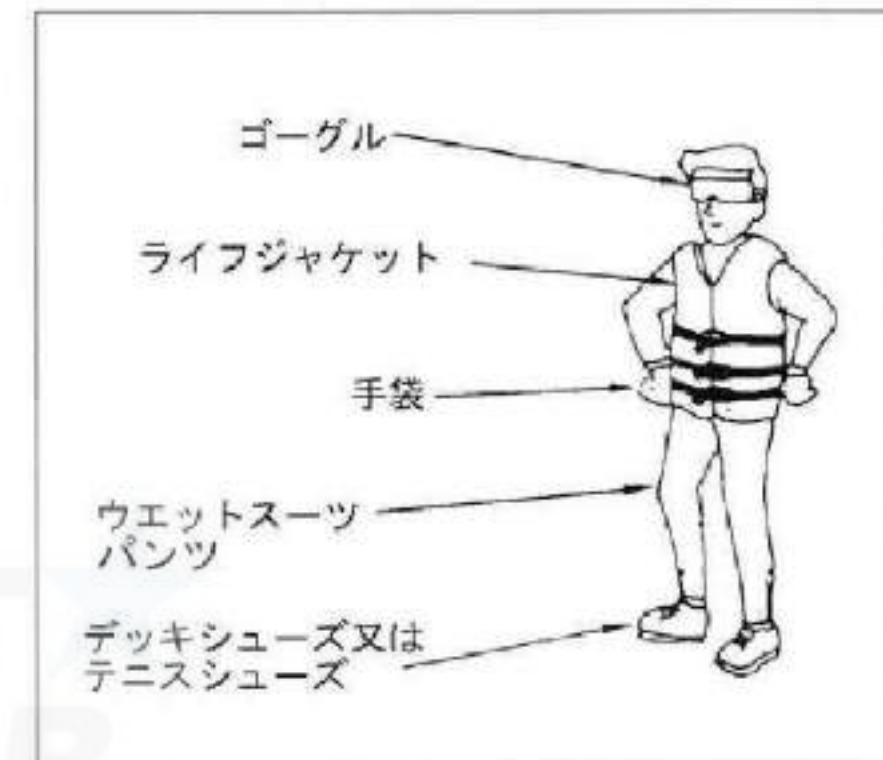
A. ステアリングノズル



## 乗船者の安全装備

**⚠ 警告**

乗船者は、JCI(日本小型船舶検査機構)認定のライフジャケットを必ず着用してください。ライフジャケットは身体に合ったものを使用してください。乗船者は身体を保護できる衣服を着用してください。落水時の衝撃による水圧やジェットノズルの近くで強い水圧を受けた場合、体腔内に水が入り負傷する恐れがあります。通常の水着では身体を十分に保護できません。身体を保護できるウェットスーツパンツ等を必ず着用してください。シューズ、手袋、ゴーグル(保護眼鏡)も着用してください。

**⚠ 警告**

ウォータークラフトが航走中、波しぶき等で一瞬目が見えなくなることがあります。適当なゴーグル等をかけて安全をはかってください。水深の浅い場所で水中に降りたとき、水中にかくれている貝がらや岩などにより、足にけがをすることがあります。乗船者はデッキシューズ、テニスシューズ等を履いて、足の保護をはかってください。

## ヘルメット着用の選択

ウォータークラフトでヘルメットを着用する場合は、その安全性と危険性をよく考慮して選択してください。

### 安全性:

ヘルメットはレース中の転倒等、固いものにぶつかった際、頭部を保護します。

### 危険性:

ヘルメットの着用は周りの視野を制限し、その重みで疲れを増すことがあります。また、水中に転落したとき頸部との間に負担をかけ、重大なけがをする原因になる恐れがあります。

## 積載

### ⚠ 警告

不適切な荷物の積載やアクセサリーの使用、またはウォータークラフトの改造は、船の操縦安定性に悪い影響を与え、航走条件を危険にします。乗る前に積載過剰になっていないか、また、以下の指示に従っているか、必ず確認してください。

### 最大積載量

- 3名または225 kg(荷物を含む)以内。
- 後部デッキに積む荷物は23 kgを超えないこと。

### 重要

カワサキウォータークラフト用純正アクセサリーはその製品及びカワサキのウォータークラフトへの取り付けに関して安全に設計されています。アクセサリーを装備される時は必ずカワサキの純正部品をご使用ください。

純正以外のアクセサリーを使用されると、カワサキはその安全性に関して確認することが出来ません。また純正以外のアクセサリーの不適切な取りつけ・使用及びウォータークラフトへの改造はウォータークラフトに事故及び不具合を生じる危険性があり、保証の対象にならない場合があります。

このようにカワサキの純正以外のアクセサリーを使用したり装備をする場合は、あなた自身及び

あなたの周りの人達への安全に関して、十分な責任をお持ちください。

ウォータークラフトは重量配分の変化に敏感です。荷物を積んだり、同乗者を乗せるときや、アクセサリーをつけるときは、最大の注意を払ってください。以下の一般的なガイドラインを参考にして決めてください。

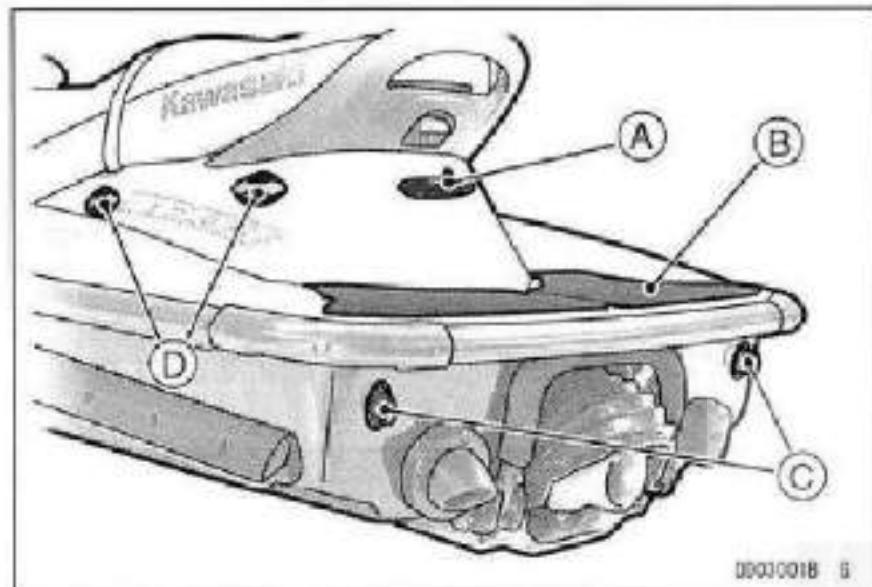
- 同乗者が不適切な座り方をしたり、突然動いたりすると、ウォータークラフトのコントロールに影響を与えることがあります。航走中は、同乗者はじっと座って操縦の邪魔をしないことが重要です。また、船に小動物を乗せてはいけません。
- 乗船する前に、操縦者は同乗者に対してすぐ前の人につかまるかシートバンドやハンドレールをつかむように、また、バランス保持のため両足をデッキにおくように指示しなければなりません。
- シート後部の広いデッキを荷物の積載に使ってください。ばらばらの荷物は船から落ちて紛失しないように、浮力のある容器に必ず収納してください。ばら積みの荷物やロープは海に落ちて、吸水ロの格子やポンプにからみつく恐れがあります。
- カーゴネット(標準装備部品ではありません。)や適当なロープを使って荷物を後部デッキに固定してください。リセストフック、けん引用フックや船尾のえい航用フックを利用します。後部

デッキには最大23kgを超えて荷物を積んではいけません。

- 航走中に荷物が動くことがないことを確認してください。できるだけ何回も荷物の固定具合を点検し、必要ならば締め直してください。
- 視界をさまたげたり、操縦者の船のコントロール能力に影響を与えるような大きい、またはかさばった荷物を積まないでください。また、船の性能を落とすようなアクセサリを付けたり、荷物を運ばないでください。

### ⚠ 警告

後部デッキに積んだ荷物は、乗船を妨げ、バランスをくずす恐れがあり、そのためかがをすることがあります。乗船の妨げにならないように、荷物を積んでください。



- A. けん引フック
- B. 後部デッキ
- C. えい航用フック
- D. リセスドフック

## トーリング(ウェイクボード/水上スキー等の定員1名のけん引物)

トーリングは3人で行うスポーツです。

バックミラーがプレーヤー（ウェイクボード／水上スキー等の定員1名のけん引物に乗っている者、以下プレーヤーと言う）の見張りに使えると考えてはいけません。操縦者、後方を向いて座る見張り役の同乗者およびプレーヤーは、3人のそれぞれの装備、航行規則、責任、合図、そしてこのスポーツの基本を知っていなければなりません。

他のボートや建造物および遊泳者と衝突する危険を減らすために、混み合った水域では行わないでください。岸や浅瀬から少なくとも使用するトーリング用ロープの2倍の距離を保ってください。

トーリングしている状態で他のボートの前方を横切ってはいけません。ゲレンデの中には、それぞれ決められた条例、規則がありますので遵守してください。

### 操縦者の役割

操縦者はトーリングの全ての行為と安全に責任があります。トーリングをしているときは、細心の注意を払ってください。他の船は、あなたのウォータークラフトがトーリングしているとは思っていないかもしれません。プレーヤーが転倒した場合、直ちにその場所に戻りゆっくりと近づいてください。トーリングロープがぴんと張るまでアイドリング速度で航行します。プレーヤーが準備完了の合図をしたら操縦者はウォータークラフトの前方および周囲の安全を確認し、プレーヤーを引き起こせる様に速度を調整します。プレーヤー

を引き起こせたら一旦スロットルをゆるめ、もう一度前方及び周囲にボートや障害物が無いかを確認します。またトーイング用ロープがプレーヤーに巻きついていないか見張り役に確認します。常にプレーヤーの能力に応じた速度で航行してください。初心者に適した速度は概ね30から40km/hです。プレーヤーが楽しくトーイング出来る様に常に見張り役と協力しプレーヤーからの合図を確認してください。プレーヤーが旋回する際にプレーヤーの体重と速度がウォータークラフトの操縦に影響することがありますので充分注意してください。操縦者は、常にトーイングしている事を考え、安全でゆとりのある航行に心掛けてください。また見張り役やプレーヤーがトーイング用ロープを手繩り寄せている等、不安定な態勢の時はウォータークラフトを加速したり航行してはいけません。

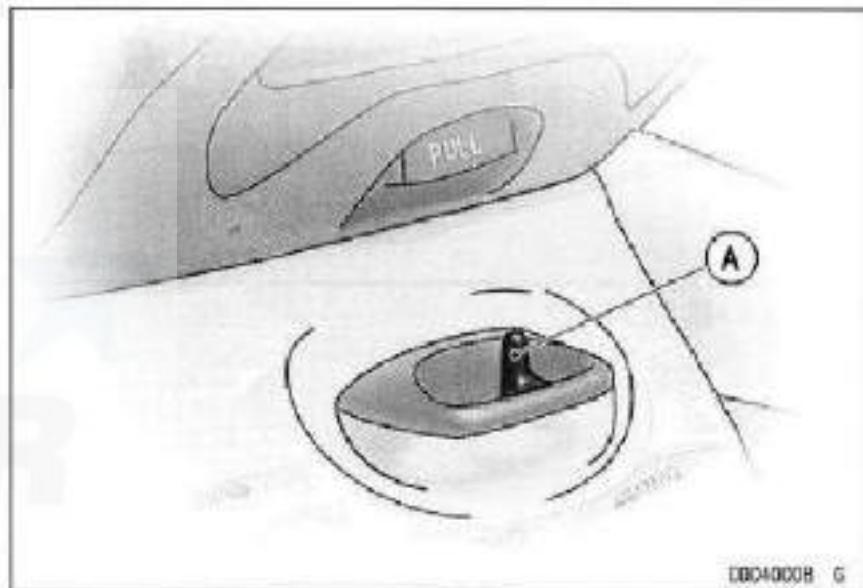
### 見張りの役割

見張りの役割は、プレーヤーのすべての合図を操縦者に伝えプレーヤーに転倒等の危険が生じた場合は直ちに操縦者に知らせることです。見張り役は、プレーヤーを見張るために後方を向いて座りハンドレール（グリップ）をしっかりとつかんでいなければなりません。また見張り役は、トーイング用ロープが吸水口に吸い込まれない様に注意しなければなりません。

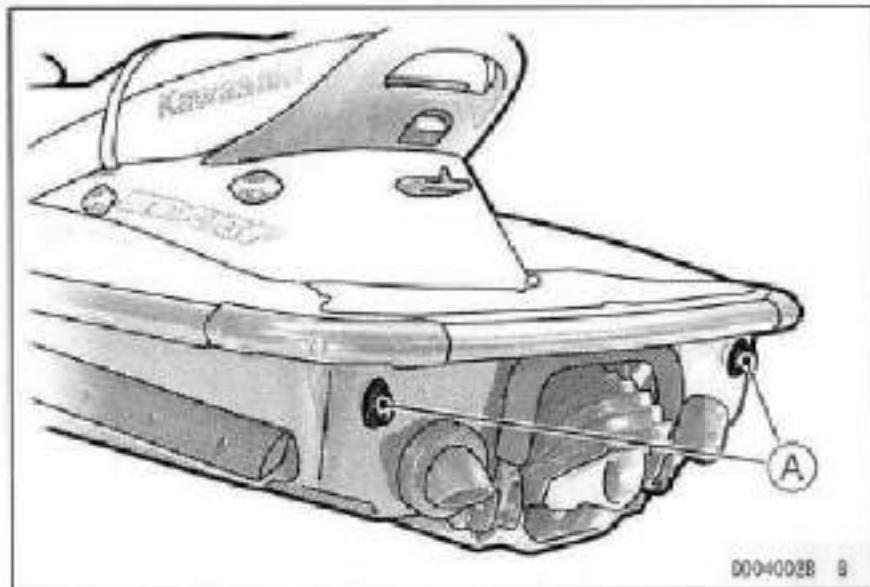
### トーイング用ロープをかける場所

トーイングするときは、シート後端下部にあるトーイング用フック以外にロープをつないではい

けません。えい航するときは、船尾のえい航用フックにロープをつないでください。えい航するときは細心の注意を払ってください。ウォータークラフトの操作性に影響し、危険な状態を生じる可能性があります。また他の船は、あなたの運転するウォータークラフトがえい航しているとは思っていないかもしれません。



A. トーイング用フック



A. えい航用フック

## 乗る前の点検項目

- 毎回ウォータークラフトを使用する前に、必ず次の事項を点検してください。

### ウォータークラフトの外側

- 1) ポンプの清掃: 吸水口、ジェットポンプ、ドライブシャフト等から異物を取り除いてください。
- 2) ポンプカバー: ジェットポンプカバー、吸水口格子に緩みがないか点検し、必要なら取付けボルトを締めてください。
- 3) 船体の損傷: 船体の損傷を点検してください。
- 4) ドレンプラグ: スターン(船尾)のドレンプラグが確実に締められているか確認します。

### ウォータークラフトの内側

- 5) ステアリング: ステアリング系統にひっかかりがないか、ガタつく箇所がないか、過度の遊びがないか点検してください。必要であればケーブルを調整してください。（「整備と調整」の章参照。）ステアリングケーブルは両端をシールしてあり、潤滑は不要です。もし、シールが破損していれば、ケーブルごと交換してください。
- 6) シフトレバー: シフトレバーを "F" (前進)、"R" (後進) のそれぞれの位置に動かしてみて、ひっかかりがないか、ガタつく箇所がないか点検します。また、スターン(船尾)のリバースパケットが、シフトレバーの動きと正常に対応して動くか点検します。（「整備と調整」の章参照。）

- 7) スロットルコントロール:スロットル系統にひっかかりがないか、ガタつく箇所がないか、過度の遊びがないか点検し、必要であれば調整します。（「整備と調整」の章参照。）スロットルレバーは手を放すと完全にもとの状態に戻らなければなりません。

**⚠ 警告**

もし、スロットルレバーがなめらかに、完全に戻らないと、操縦不能になる恐れがあります。

- 8) エンジンルームの換気:備品入れのふたを開け、シートを外し、小物入れ(後部)を取り出して、数分間エンジンルームの換気をします。

**⚠ 警告**

気化したガソリンがエンジンルームにたまると、火災や爆発の原因となることがあります。

- 9) バッテリーターミナル:バッテリーターミナルのスクリュがしっかりと締まっているか、また、ターミナルカバーが確実に取り付いているか点検します。

**⚠ 警告**

バッテリード線の取り付けが緩むとスパークが発生し、火災や爆発が起こり、負傷や死亡する恐れがあります。バッテリーターミナルのスクリュはしっかりと締め付け、カバーをターミナルにかぶせてください。

- 10) 燃料タンク内の圧力:燃料注入口キャップを開き、タンク内の圧力を逃がします。キャップはしっかりと閉めてください。
- 11) 燃料:燃料タンク内の量を点検します。必要ならば燃料を補給します。
- 12) エンジンオイル:エンジン内のオイルを点検します。必要ならば補充します。
- 13) 燃料漏れ:エンジンルーム内に燃料漏れがないか点検してください。
- 14) オイル漏れ:同時にオイル漏れがないか点検します。
- 15) ファスナ:ボルト、ナット、クランプ等に緩みがないか点検し、緩みがあれば締めてください。
- 16) ホースの接続:すべてのホースが確実に接続され、また、すべてのホースのクランプがしっかりと締められているか確認してください。また、すべてのホースを点検し、劣化やひび割れがあれば交換してください。
- 17) ビルジ(あか)の排水:エンジンルームに水がたまつていれば、ドレンプラグを外して水を出して下さい。排水後、ドレンプラグをしっかりと締めます。
- 18) キルスイッチコード:エンジンを始動して、数秒間回転させます。（「エンジンの始動」の項参照。）コードキーをストップボタンから抜いて、エンジンが停止するか確認します。

**⚠ 警告**

密閉された場所でエンジンを運転しないでください。排気ガスは、無色無臭で有毒な一酸化炭素を含んでいます。従って、排気ガスを吸うと一酸化炭素中毒を起こし、仮死状態を経て死亡する結果となります。

**注意**

水から引き揚げたウォータークラフトのエンジンを、続けて15秒間以上運転しないでください。オーバーヒートして、エンジンや排気系統の重大な損傷の原因になります。

- 19) **ストップボタン:** 再びエンジンを始動して数秒間回転させます。ストップボタンを押して、エンジンが停止することを確認します。
- 20) **シート:** シートのラッチが完全にロックされているか確認します。
- 21) **乗船者の安全装備:** 操縦者と同乗者は常にライフジャケットを着け、その他安全装備をしてください。
- 22) **マルチファンクションメータ:** 各メーター類の作動を確認します。「一般事項」の章を参照してください。

---

## ならし運転

- 新しいウォータークラフトは、ならし運転が大切です。これは、機械部品の各摺動部になじみをつけ、偏摩耗を防ぎ、また、表面を滑らかにするためです。エンジン始動後、最初の5分間はエンジン回転を2 500 rpm以上に上げないでください。最初の5時間は急激な加速や長時間の全開運転をしないでください。この間は全開の3/4以下で運転してください。一定の速度で長く運転せず、ひんぱんに速度を変えて運転してください。
- ならし運転期間中、ウォータークラフトを注意深く取り扱うと、より効率よく、信頼性の高い性能が確保でき、長持ちにつながります。
- 上記ならし運転に加えて、最初の10時間運転後、整備工場で定期点検整備を受けてください。「整備と調整」の章の「定期点検整備表」をご参考ください。

## エンジンの停止

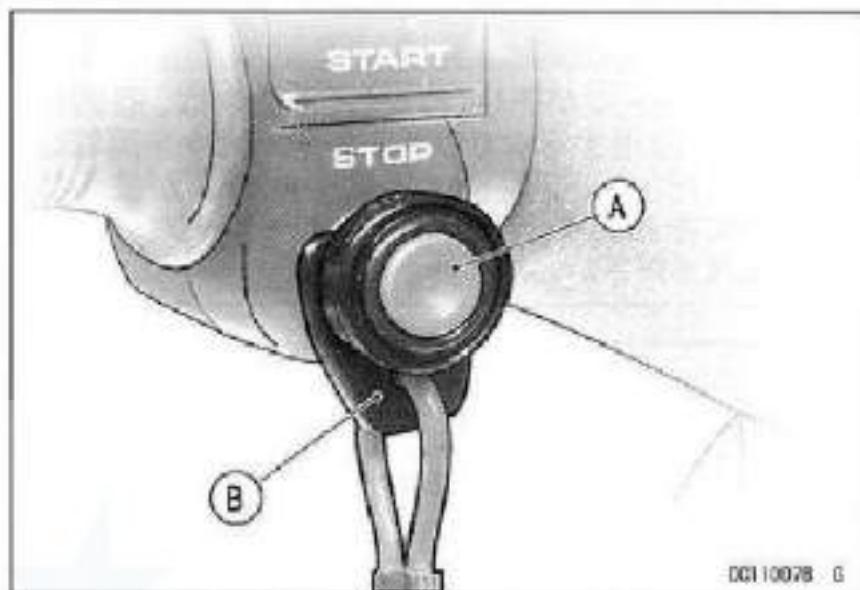
エンジンは次の二つの方法のどちらか一つによつて、止めることができます。

- 赤色のストップボタンを押します。押し続ける必要はありません。エンジンが停止すると、ストップボタンはもとに戻り、始動できる状態になります。
- キルスイッチコードキーをストップボタンから抜きます。エンジンを再び始動させるためには、コードキーをストップボタンの下に差し込むねばなりません。どちらの方法でエンジンを止めても、イグニションスイッチを“OFF”の位置に切り替えてください。



### 警告

エンジンが停止すると、ウォータークラフトの進路変更ができなくなります。



00110028-0

A. ストップボタン  
B. キルスイッチコードキー

- もし、緊急にエンジンを停止しなければならないときは、赤色のストップボタンを押すか、またはコードキーを抜いてください。

考えられる緊急事態とは：

- \* エンジンの回転をコントロールできなくなったとき。
- \* スロットルレバーが指を放しても完全に戻らないとき。

**⚠ 警告**

もし、スロットルが正しく作動しないときは、原因を見つけて修理するまでウォータークラフトを運転しないでください。下船後は子供や他の人が使えるないようにキルスイッチコードをウォータークラフトから外してください。

**注意**

エンジン停止中はイグニションスイッチを"OFF"にしてください。"ON"のまま放置するとバッテリが上がりります。

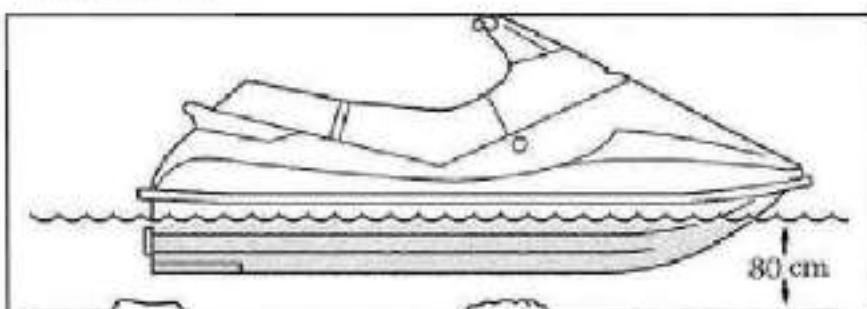
**エンジンの始動**

- ウォータークラフトを水上に下ろす前に、この章の「乗る前の点検項目」の項をよく読み、その指示に従ってください。
- 輸送したり、燃料を注入した後では、エンジンをかける前に備品入れのふたを開け、前後シートを外し、小物入れ(後部)を取り出して数分間換気してください。

**⚠ 警告**

気化したガソリンがエンジルームにたまると、火災や爆発の原因となることがあります。

- 雑草・海草や浮遊物のない水深80cm以上の所に船体を浮かべます。前方に泳いでいる人達がないか、また、ボートや障害物がないかよく確認します。



### 注意

ウォータークラフトを始動するときは、異物を船底から吸い込んでジェットポンプが損傷するのを防ぐため、少なくとも水深が80cm以上の所で行ってください。

- シートに座り、コードキーをストップボタンの下に差し込み、落水したときにエンジンが停止するつようコードのもう一方の端を手首にはめ、ハンドルバー等に絡まないようにします。コードを引っ張ってみて、しっかりと手首にはまっているか確認してください。

### 要点

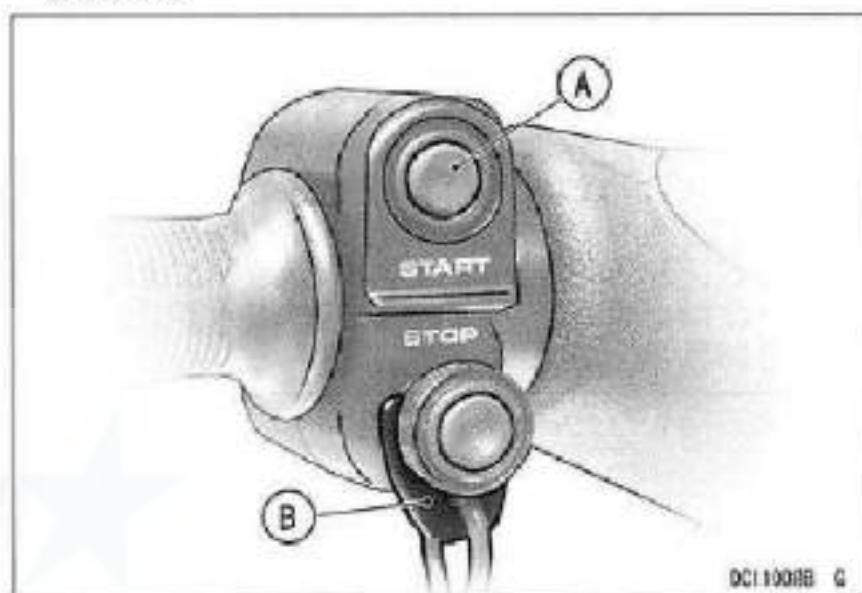
- キルスイッチコードキーがパストップボタンに差し込まれていないと、エンジンは回転も始動もしません。
- イグニションスイッチキーの矢印を前方に向けてスイッチにはめ込み、押し込みながら“ON”的位置へまわします。そして、すぐにキーを外し、小物入れ（前部）に入れます。

### 注意

イグニションスイッチを“ON”にしたら必ずキーを外し、携帯するか、小物入れ（前部）に収納してください。

- 左手で緑色のスタータボタンを押し、エンジンが始動したら放してください。もし、エンジンが5秒以内に始動しないときは、スタータボタンを放してください。15秒間待って再び始動させてください。数回試みても始動しないときは、

「トラブルシューティング」の章を参照してください。



DCI100BB G

- A. スタータボタン  
B. キルスイッチコードキー

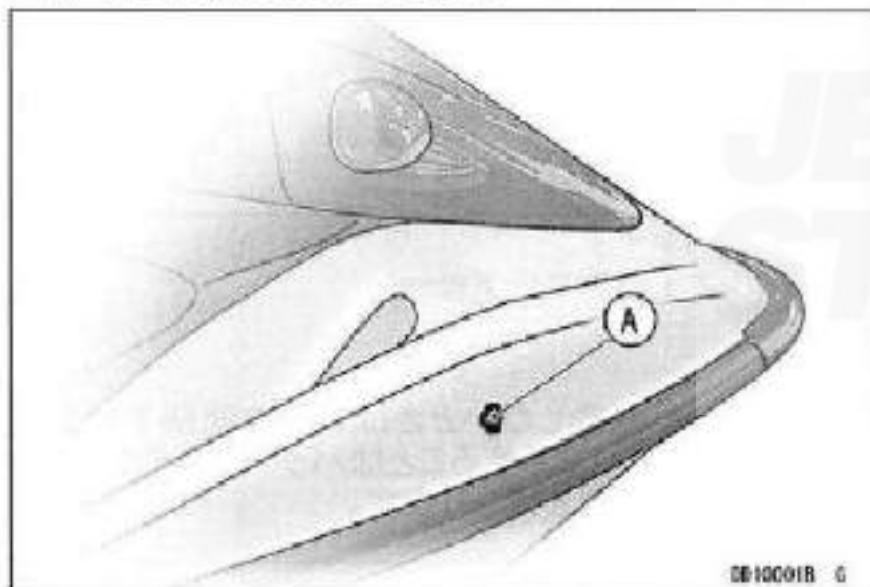
### 要点

- エンジンが始動しないときは、15秒間隔で始動を行ってください。こうすることはバッテリやスタータの寿命を延ばすことになります。

### 注意

エンジンが回転しているときや、スタータがまだ回っているときに、スタータボタンを押さないでください。スタータの摩耗を早め、故障の原因になります。

- エンジン始動後、約1分間暖機運転をします。ときどきスロットルレバーを少し引いて回転を上げます。長時間のアイドリングはスパークプラグを汚すことになります。
- スロットルレバーを引いたとき、船体の右側のバイパス出口から水が出てくるか確認してください。これは冷却水が循環していることを示しています。もし、水が出てこなければエンジンを停止し、原因を調べます。排気系統に水が入っていないときは、バイパス出口に水が出てくるまで15秒ほどかかります。



A. バイパス出口

## 発進

### 桟橋からの発進

- 桟橋からウォータークラフトの上に飛び降りてはいけません。
- まず桟橋側のデッキに片足をおき、次にハンドルバーをもち体重を移動させて船のバランスをとりながらシートにまたがって座ります。
- シフトレバーが前進しようとする場合は“F”に、後進の場合は“R”になっているか確認します。
- 桟橋を離れるときは、船を押してもらうか、または船尾の水面に十分余裕ができるまで桟橋から浅い角度で船を動かします。ウォータークラフトは船首で回るのではなく船尾で回るので、桟橋に当たらないように十分注意してください。
- 前方に障害物等がないか確認して、ハンドルバーを走る方向に向けます。

### ⚠ 警告

進行方向にいるボートや障害物に注意してください。これは危険防止のため、初心者には特に重要なことです。

- スロットルレバーを引いて旋回ができる推力を出します。

### 注意

桟橋から離れるときは、急旋回や急加速を避けてください。そうしないと船尾が桟橋に当たり、損傷するかも知れません。操縦者は急激な操作をする前には、旋回する余裕が水面にあるか必ず確認してください。

- 広い水面に出ていくに従って、徐々に加速します。
- スピードが上がるにつれてウォータークラフトは水平になって滑走します。
- いったん滑走状態になったらスロットルを戻し、好みのスピードで走ってください。
- 進行方向のボートや泳いでいる人達、また、障害物に絶えず注意してください。

### ランプからの発進

- ウォータークラフトを水上に降ろす前に、「乗る前の点検項目」の項の各項目を確認してください。
- 同時に、ランプの表面の状態、傾斜及び幅が、トレーラやけん引車に適しているか点検してください。

### 注意

ウォータークラフトが漫水しないように、スタン(船尾)のドレンプラグがしっかりと締められているか点検してください。

- 適当なロープをウォータークラフトが遠くに行かないよう取り付け、トレーラに縛り付けられたひもをときます。

- ウォータークラフトをトレーラと共に水中へ入れます。
- ウィンチのロックを外し、ウォータークラフトをゆっくり押してトレーラから離します。
- トレーラを水中から引き揚げます。

### 水深の深い場所での発進

#### 一人乗りの場合

- ウォータークラフトの後部へまわります。
- エンジンが止まっていることを確認します。
- シート後端のハンドレールか、またはその下のトeing用フックをつかみ、リボーディングステップを下ろします。はじめに片ひざ、次に片足または両足をステップにおいて体をデッキの上へ引き上げます。次に片ひざづつデッキ後部にのせます。船に上がるとき、ステップや船上ですべらないように注意してください。
- シート中央のバンドをつかんで、船のバランスをとりながらデッキに両足をおきます。
- シートにまたがって座ります。

#### 二人または三人乗りの場合

- 操縦者が船のバランスをとっている間に、同乗者は後部から一人乗りの場合と同じ要領でウォータークラフトに上がります。

**⚠ 警告**

同乗者がリボーディングステップを使う前に、操縦者は必ずエンジンを止め、キルスイッチコードキーを抜いてください。同乗者がリボーディングステップの上で足をすべらせて、すき間にはさまれた状態で水中を引きずられると、けがをする恐れがあります。  
同乗者は、エンジンの回転中はリボーディングステップを使用しないでください。

- 船の左右どちら側からでも、また、後部からでも乗ることができます。どの場合でも、乗るときはウォータークラフトが安定するようにバランスをとってください。

### 水深の浅い場所での発進

- ウォータークラフトを浅瀬にけい留するときはいつも砂や岩場を引きずらないでください。これは船体の傷を減らし、砂や岩がジェットポンプの中に入り、再始動時、ジェットポンプが損傷することを防ぎます。
- 海岸に引きあげたウォータークラフトの中に砂や岩が入ったときには、水中にて船尾を何回も大きく上下させ、ジェットポンプの中を洗浄します。

**注意**

ウォータークラフトを始動するときは、異物を船底から吸い込んでジェットポンプが損傷するのを防ぐため、少なくとも水深が80cm以上の所で行ってください。

## 停止

### 通常停止

#### ⚠ 警告

フルスピードで滑走中は、動いている物や止まっている物から100m以内に直進して近づかないでください。止まりたい場所に近づく前に必ずスロットルレバーを戻してスピードを落としてください。ウォータークラフトにブレーキをかけるつもりで後進ヘシフトしてはいけません。バウ(船首)が水中に突っ込んで乗船者がけがをする原因となることがあります。

このウォータークラフトは、次の順序で水の抵抗を利用して停止します。

1. 止めようとする区域に到着する前に、スロットルレバーを放します。
2. アイドリング状態のまま、停止区域へ向かって進みます。

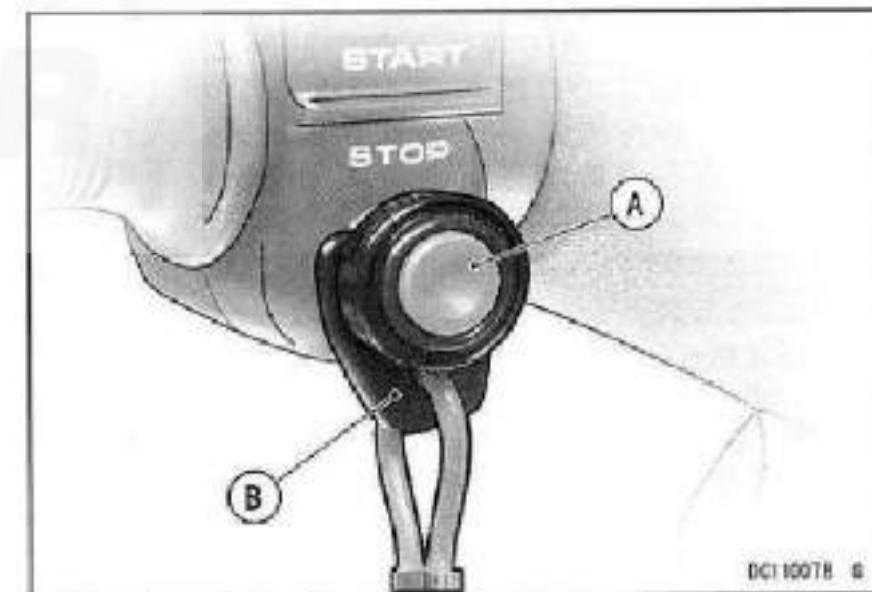
#### 注意

異物を船底から吸い込んでジェットポンプが損傷するのを防ぐため、水深が80cm以下になる前にエンジンを止めてください。

3. 完全に停止させるため、ストップボタンを押すか、またはコードキーをストップボタンから抜きます。



A. スロットルレバー



A. ストップボタン  
B. キルスイッチコードキー

スロットルレバーを放すと前進速度は落ちますが、エンジンがまだ回転しているので、再びスロットルレバーを引いてウォータークラフトの進行方向を変えることができます。

この方法でウォータークラフトを旋回させ、障害物から離れることができます。

### 警告

スロットルレバーを完全に放すと、ウォータークラフトの進路変更能力が低下します。そのため、避けようとしている障害物にぶつかることになります。旋回には推力が必要なので、スロットルレバーを常に少し引き続けているか、または、ジェットノズルにいつも推力があるようにスロットルレバーを必要に応じて引いてください。

岸辺に近づいてきて停止したいときには、ストップボタンを押してください。エンジンが直ちに止まるので、砂や異物がジェットポンプに入り損傷をうけることを防ぎます。水深80cm以下のところでエンジンを回転させてはいけません。

### 警告

再びスロットルレバーを使ってウォータークラフトをすばやく旋回させる必要がある場合は、エンジンを止めないでください。エンジンが止まると、方向を変えることができません。

### 停止技術：

停止距離は操縦者と同乗者の体重や乗船位置、アイドリング速度、滑走速度等によって変わります。熟練した操縦者はいろいろな操縦技術を使って停止距離を短縮することができます。停止するときに急旋回（スロットルレバーを使って）することは、停止距離を短くするための一つの方法です。

### 最短停止距離：

3人乗りで、最高速度からの最短停止距離は86mです。

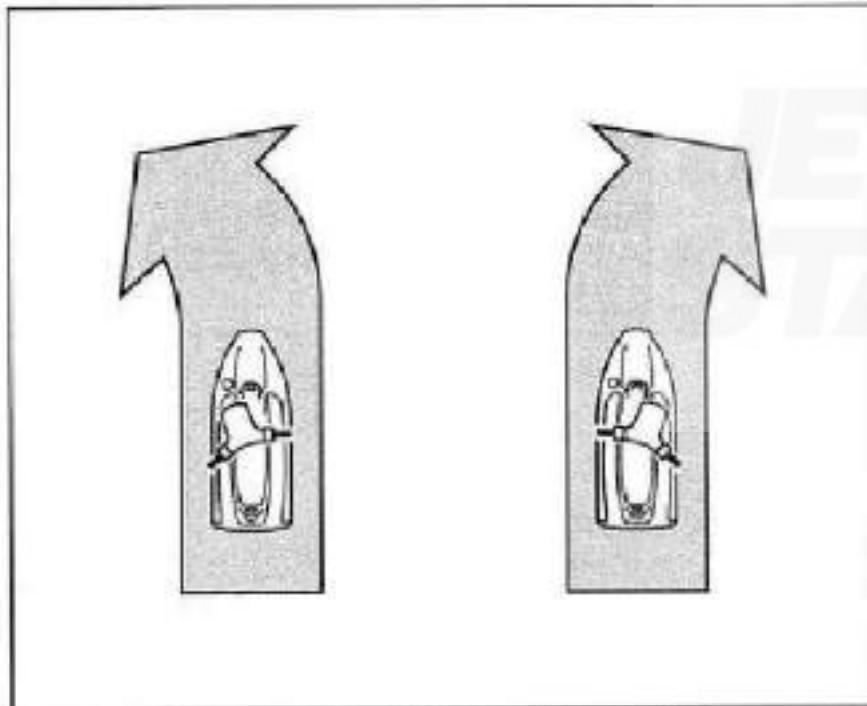
この数字は、一定の条件の下で測定されたものです。従って、条件が変わればこの数字も変わってきます。

## 旋回

ウォータークラフトを旋回させるには、次の二つの動作の組み合せが必要です。

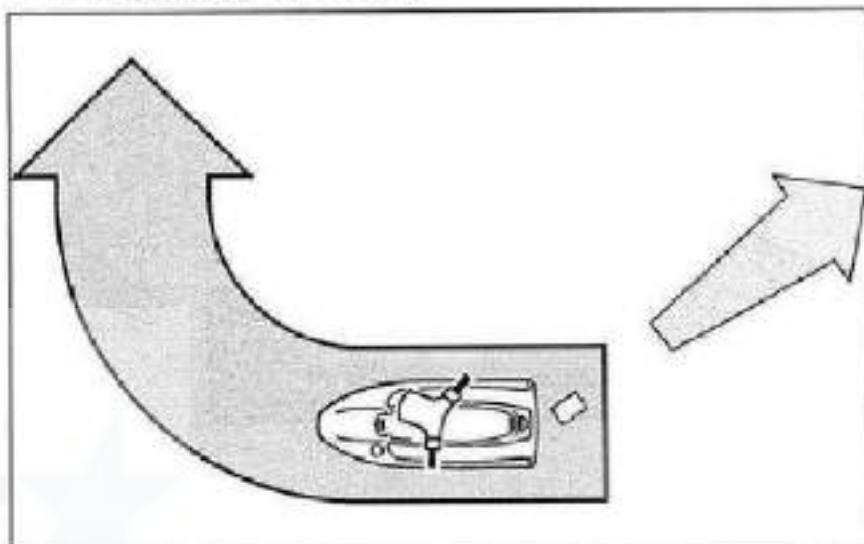
- ハンドルバーを回す。
- スロットルレバーを使う。

左旋回するためにはハンドルバーを左に向ける。右旋回するためにはハンドルバーを右に向ける。

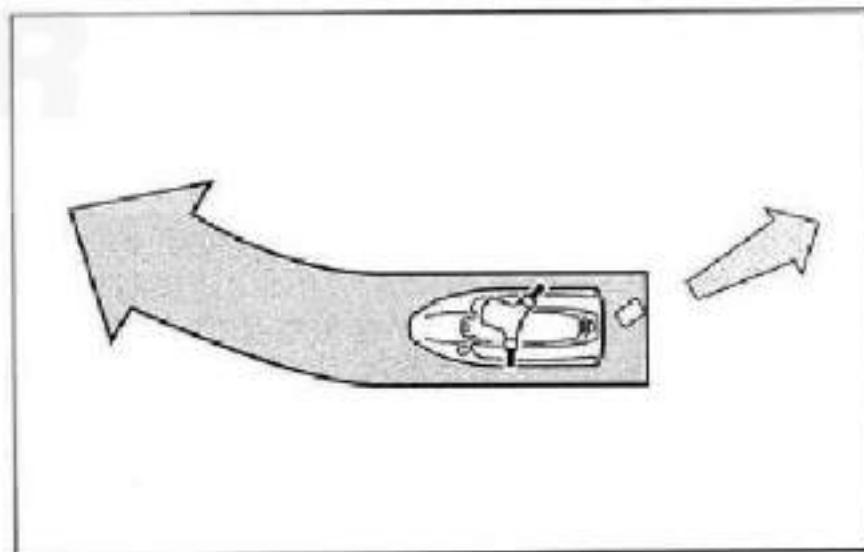


スロットルレバーを使うことも、もう一つの旋回方法の重要な要素です。スロットルレバーを引くとジェットポンプにより推力が生じ、進路変更ができるようになります。

ジェットポンプの推力が強いとウォータークラフトは鋭く旋回します。

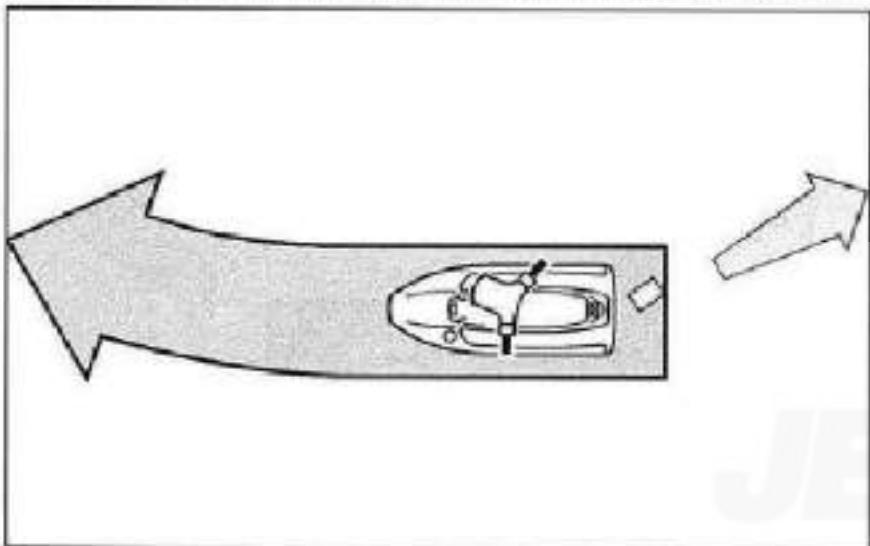


ジェットポンプの推力が弱いと緩く旋回します。



## 64 操縦方法

スロットルレバーを完全に放すとジェットポンプの推力が殆どなくなります。ウォータークラフトはゆっくりとまわり、旋回能力は低下します。

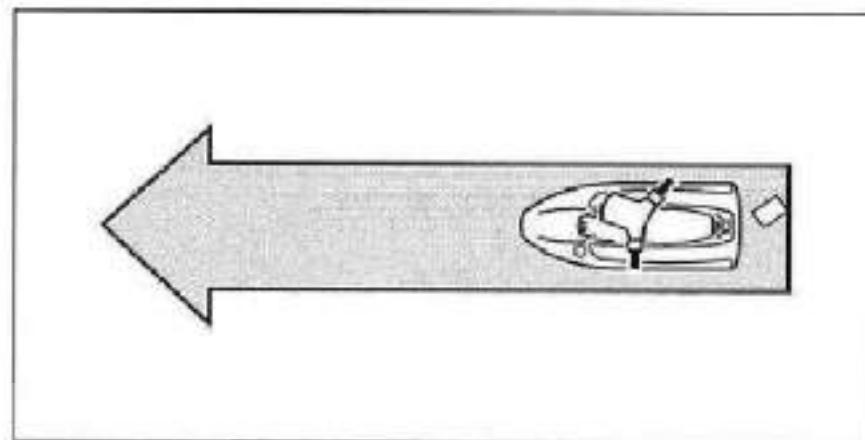


アイドリング=ゆっくりと徐々に旋回

### ⚠ 警告

スロットルレバーを完全に放すと、ウォータークラフトの進路変更能力が低下します。そのため、避けようとしている障害物にぶつかることになります。また、スロットルレバーを常に少し引き続けているか、または、ジェットノズルにいつも推力があるようにスロットルレバーを必要に応じて引いてください。

航走中にエンジンを停止すると、ジェットポンプの推力がなくなり、ハンドルバーを回してもウォータークラフトは真っすぐに進みます。



無推力=旋回不可

### ⚠ 警告

再びスロットルレバーを使ってウォータークラフトをすばやく旋回させる必要がある場合は、エンジンを止めないでください。エンジンが止まると、方向を変えることができません。

次のことは緊急操作をするときに覚えておくことが大切なジェット推進ボートの特徴です。

旋回するには推力が必要なこと。

従って、スロットルレバーを常に少し引き続けているか、または、ジェットノズルにいつも推力があるようにスロットルレバーを必要に応じて引いてください。

- 旋回に入る前に、スロットルレバーをゆるめてスピードを落としてください。

## ⚠ 警告

このウォータークラフトは旋回性能が良く、操縦性も良いので、急旋回や急加速したときに同乗者が船外に投げ出され、他のボートに当たって事故になる恐れがあります。操縦者は急旋回等する前にまわりのボートに注意してください。また、同乗者は航走中必ずすぐ前の人との体につかまるか、シートバンドをつかんでいてください。

このウォータークラフトにはカワサキスマートステアリングシステムが設けられています。「一般事項」の章の「操縦装置」の項を参照してください。

## 後進

- 離着岸時等、やむを得ない場合を除いて、なるべく後進は使わないでください。
- 前進から後進に移る前に必ず船が止まるまで減速してください。スロットルレバーを充分ゆるめるか、または完全に放します。減速するまで待ってからシフトレバーを“R”（後進）に入れます。

## ⚠ 警告

高速航走中、急にシフトレバーを前進から後進に操作してはいけません。また、ブレーキとして後進を使ってはいけません。ウォータークラフトのバウ（船首）が水中に突っ込んで乗船者がけがをする原因となることがあります。シフトする前に必ず減速し、また、同乗者に安全のための注意を呼びかけてください。

- 後進方向の水面に他のボート、泳いでいる人達、または障害物等がないか確認し、目標を定めます。バックミラーだけに頼ってはいけません。よく見えないか、または全く見えないかも知れません。
- 徐々にスロットルレバーを引いて、ゆっくりと後進を始めます。

## 着岸

- 着岸するときは、ウォータークラフトのスピードと方向をコントロールするために、スロットルを効果的に使ってください。
- 停止したい砂浜や岸辺に近づいてきたら、ストップボタンを押してください。砂がジェットポンプに入って損傷されることを防ぎます。水深80cm以下のところでエンジンを回転させてはいけません。

### 注意

ウォータークラフトを岸に乗り上げないでください。インペラや船体がひどく損傷することがあります。また、船尾の速度検知用水車が損傷して、スピードメータが作動しなくなることがあります。浅瀬や浮遊物の多い所で操縦しないでください。インペラが損傷したり、砂で冷却ホースが詰まることがあります。

- エンジンを止めると進路変更のコントロールが不可能になることを忘れないでください。従って、ウォータークラフトのスピードが充分落ち、停止位置寸前になってからエンジンを止めてください。いったんエンジンを止めると、非常事態の緊急回避ができなくなります。

## ウォータークラフト"ジェットスキー"の乗り方

初めてウォータークラフトに乗ったときは、シートにまたがって座ります。ウォータークラフトの扱い方に慣れてください。スロットルレバーを操作してエンジンスピードをいろいろ変え、スロットルレバーの操作が旋回にどう影響するか感触をつかんでください。

ウォータークラフトの船首が連続的に上下する状態（ポーポイジング）が起きたら、体重をさらに前方へ移動してください。

### ⚠ 警告

ハンドルバーの真上にあごがくるような乗り方をしないでください。波にぶつかったとき、けがをすることがあります。

エンジン関連部分の機能が損なわれるか、エンジンオイル温度計に異常が起こるとエンジンの回転数が自動的に3000 rpmに制限されます。警告ブザーが鳴り、“LED”（赤色）警告灯が点滅しさらに“FI”シンボル及び“FI”文字が点滅するか、又はエンジン油圧シンボル及び“OIL”文字が点滅すれば、直ちに海岸へ戻り、[カワサキ正規取扱店]で故障修理を行ってください。

水温や油温の警告灯等が点滅してもエンジン回転数は3000 rpmに制限されますので、すぐ海岸へ戻り冷却系統の詰まりを調べるか又はエンジンオイルを補給してください。

冷却系統およびオイル量以外の問題があるようであれば[カワサキ正規取扱店]で故障修理を行ってください。

燃料シンボル、燃料レベル計、“FUEL”文字と“LED”警告灯が点滅し始めると残りの燃料が16Lになり、フルスロットルで約22分間走れます。このウォータークラフトには予備タンクはありませんので、できるだけ早く給油してください。

(「一般事項」の章の「マルチファンクションメータ」の項を参照。)

常に他のボート、泳いでいる人達や、障害物に注意し航走してください。

### 落水

操縦者がウォータークラフトから転落すると、コードキーがストップボタンから抜けて、エンジンは直ちに停止します。

#### ！ 警告

ウォータークラフトから落ちるとき、ハンドルバーにしがみつかないでください。ウォータークラフトにぶつかってけがをする恐れがあります。

- 落水の最良の方法は、両足をそろえ、腕を頭上に上げ、尻部から先に水面に落ちることです。
- ウォータークラフトの後部から上がります。コードキーをストップボタンの下に差し込み、スタートボタンを押してエンジンを始動します。

### 転覆したウォータークラフトの起こし方

万一ウォータークラフトが転覆したときは、コードキーが操縦者に引っ張られてストップボタンから抜け、エンジンは停止します。

直ちに次の手順で船体を起こしてください。

#### ！ 警告

このウォータークラフトは転覆しても自動復元しません。操縦者は適切なウォータークラフトの起こし方を知っているなければなりません。さもないと立ち往生することがあります。

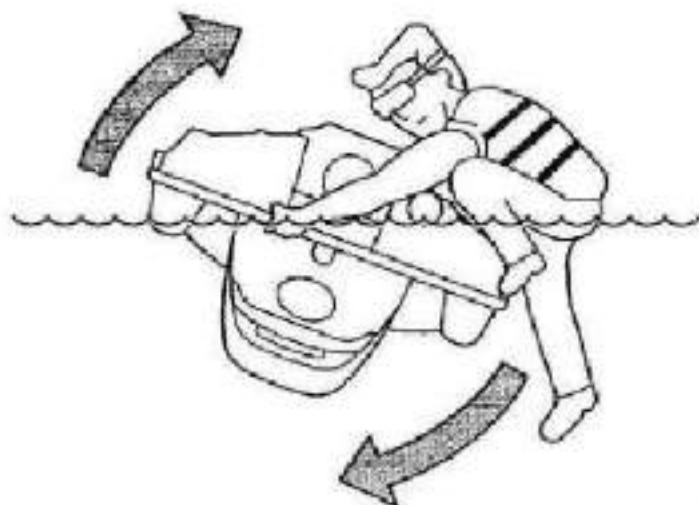
- エンジンが停止したか確認します。もし、停止していないければ、すぐにコードキーをストップボタンから抜くか、またはストップボタンを押してエンジンを停止させます。

#### 注意

もし、ウォータークラフトが転覆したままでエンジンが回転し続けると、スロットルボディやエンジンに水が入る恐れがあり、エンジンの内部部品の損傷の原因になります。

もし、エンジンに水が入ったら「浸水後の処置」の項に述べられた方法に従ってください。

- 転覆した船の後部の角に泳いで行きます。
- 片手で左舷を押し下げ、もう一方の手を斜めに伸ばしてデッキの後部をつかみ、船底に伸び上がるようになります。



- 次に片方の足で船体後部の角を押し下げ、体重をかけながら手前へ回転させます。
- 船体が起き上がってきたら、必要ならばできるだけ遠くの船体をつかんで船を完全に引き起こします。

### 注意

転覆した船は常に左舷を下側にして右回しに起こしてください。反対に回すと、マフラの水がエンジンの中に入り、エンジンの損傷を招く恐れがあります。

- オータークラフトは転覆して起こした後、エンジルームに水が入っています。更に水がエンジルームに入らないよう注意して、船尾から上ります。

### 要点

- 同乗者がおれば、他のオータークラフトに乗移ることで荷重を減らし、水が更に入ることを防止できます。
- コードキーをストップボタンに差し込み、スタートボタンを押してエンジンを始動します。
- オータークラフトをゆっくり運転して海岸に帰り、ビーチに引き揚げ、エンジルームの水を抜きます。これはエンジン内に水が入って、エンジン内部が損傷することを防ぎます。

### 漫水後の処置

#### 注意

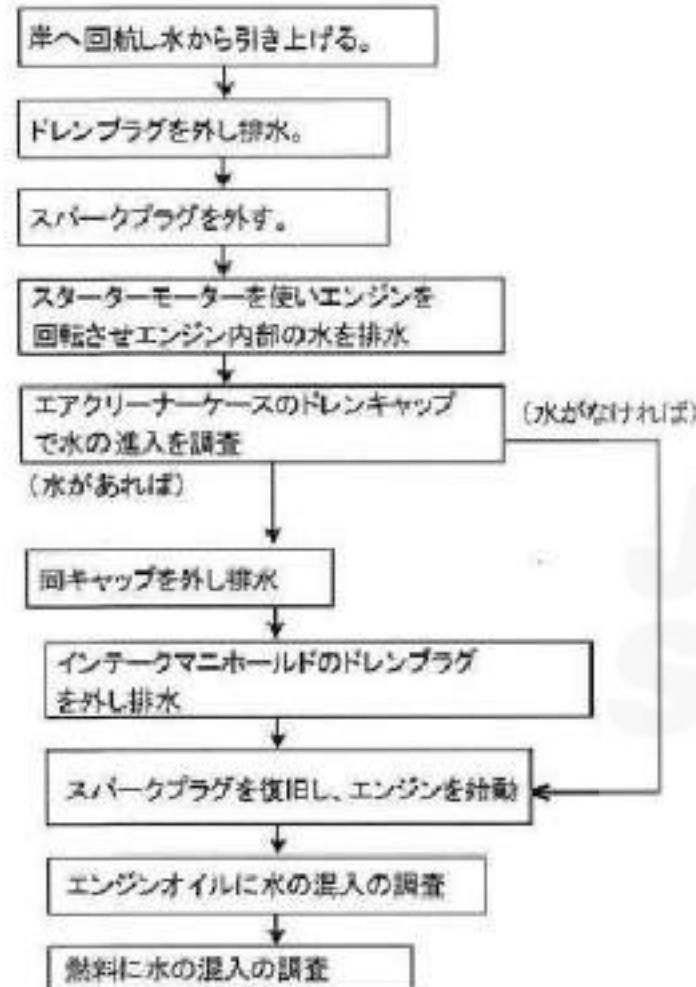
エンジン内に水が入ったままで、オータークラフトを運転しないでください。エンジン内の水を完全に排出するまで、エンジンを始動しないでください。エンジン内部の部品が激しく、しかも急に損傷する恐れがあります。

もし、エンジン内に水が入ったならば、直ちに次の処置をしてください。エンジン内に数時間以上水が残ったままになると、クランクシャフトペアリングやエンジンの内部部品を傷めます。

もし、オータークラフトが水没したら、スロットルボディの吸気口からエンジン内に水が入ることがあります。また、燃料タンクやオイルタンクにも水が入ることがあります。

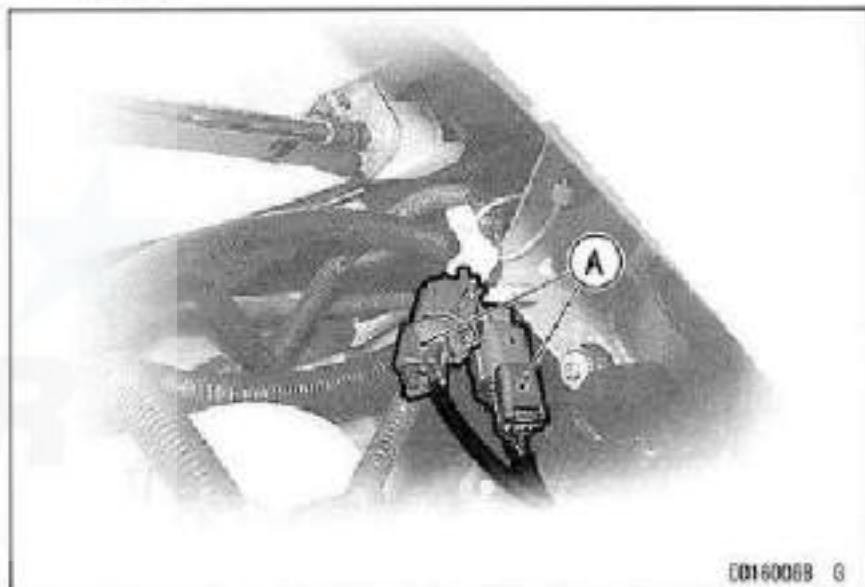
エンジルームに漫水したオータークラフトは以下に述べる手順に従がって調査、処置を実施してください。まず以下の手順の概略をその後で各詳細をよく読んでください。

## 概略手順



## 詳細手順

- ウォータークラフトを水から引き上げ、シートを外します。
- ドレンプラグを外し、エンジンルームの排水をします。
- イグニションコイル手前にある一次側イグニッションケーブルの二つのコネクターをはずします。



A. ケーブルコネクター

- 上記の作業のために前部の小物入れを外してください。コネクターは小物入れの下にあります。



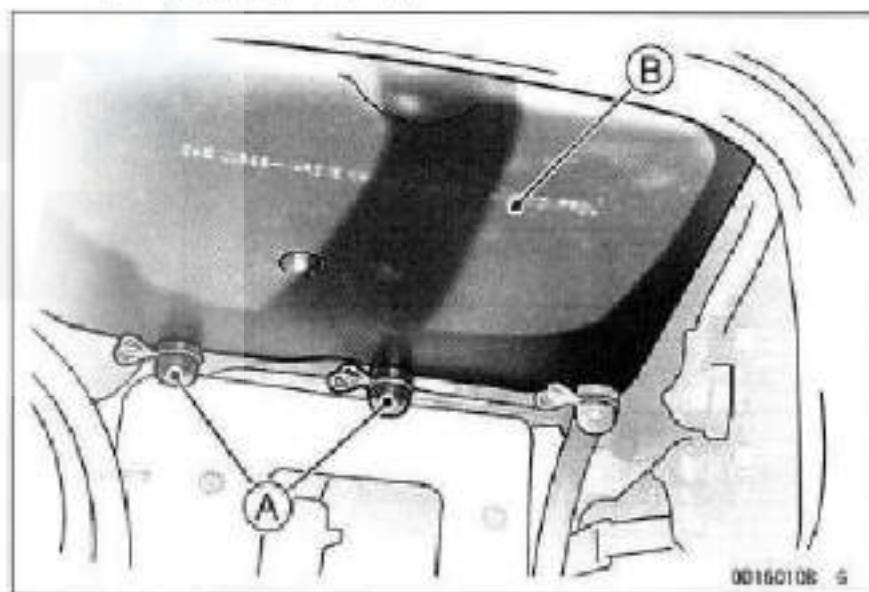
A. 前部小物入れ

5. すべてのスパークプラグキャップを外してください。
6. すべてのスパークプラグを外してください。
7. イグニッショナースイッチをONにし、ストップボタンの下にコードキーを差込みスタートボタンを押します。
8. もしエンジン内に水が入っていればプラグホールから排出されます。エンジン内部の水は完全に排水してください。スタータは5秒以上運転しないでください。再始動は15秒待ってからしてください。

## ⚠ 警告

この作業中は、エンジンの上にかがみこまないでください。スパークプラグ穴から水とガソリンの混合物が勢いよく噴出し、目に入る恐れがあります。もし、少しでも目に入ったら、すぐに水道水を十分使って目を洗ってください。そして、できるだけ早く医者の診察を受けてください。

9. 後部小物入れをはずし、エアフィルタに付いているプラスチックのドレンプラグに水が入っているか調べます。



A. ドレンキャップ  
B. エアフィルタ

10. もし上記のキャップに水があればキャップを外して水を排出してください。油水が出ることがありますので布きれ等をキャップの下に敷いてください。この後、項目11に進みます。

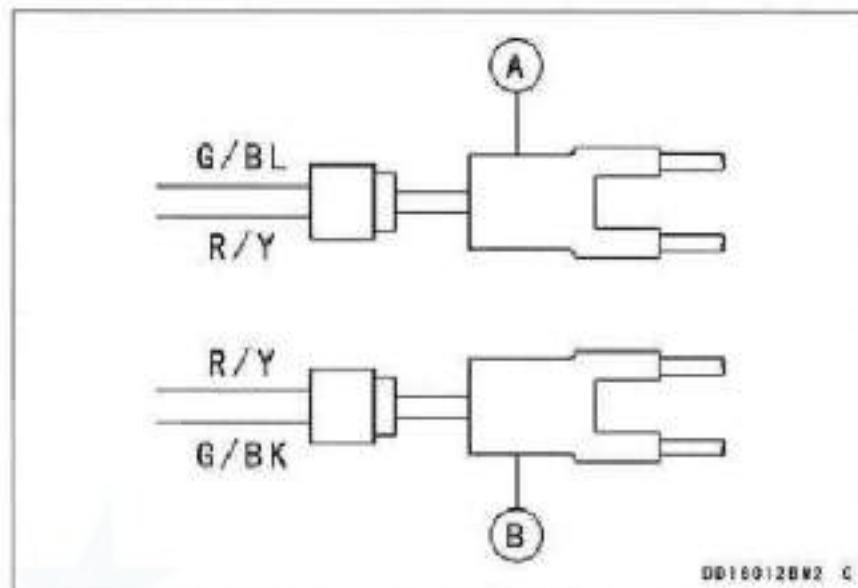
### 要点

- もしキャップの中に水があれば、インテークマニホールドにも浸水した可能性が高いです。この場合には一部部品を取り外して排水する必要がありますので、近くのカワサキの販売店へウォータークラフトを運んで処置を受けてください。もし、キャップに水がなければ項目12へ進んでください。

- インテークマニホールドのプラグを外し内部の水を排水してください。油水が出ることがありますので布きれ等をキャップの下に敷いてください。(エアフィルタのドレンプラグに水が入ってなければこの項目は省略して項目12へ進んでください。)
- スパークプラグの電極から水気をよくふき取り、プラグとプラグキャップを取りつけます。
- イグニションコイルの一次側ケーブルコネクター(2個)を接続します。

### 要点

- #1 & #4(A)と#2 & #3(B)のイグニッションコイルコネクターを確認の上、相手方のイグニッションコイルの一次側リード線コネクタを接続する。
- #1 & #4用コイルコネクタはメインハーネスからの赤/黄、緑/青のリード線の付いたコネクタに、#2 & #3用コイルコネクタはメインハーネスからの赤/黄、緑/黒のリード線の付いたコネクタに接続すること。



- A. #1 & #4用コイルコネクタ  
B. #2 & #3用コイルコネクタ

- スタートボタンを押してエンジンを始動させます。但し、15秒以上運転しないようにしてください。

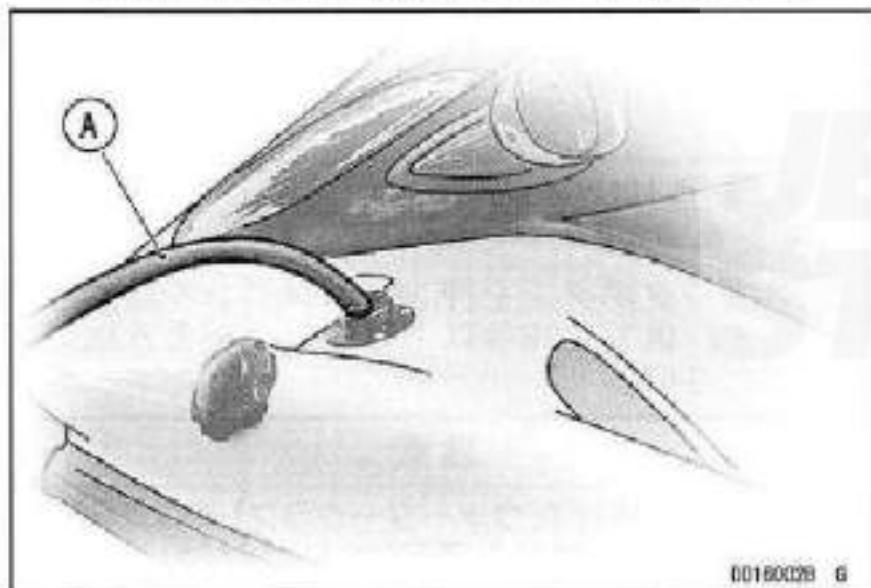
### 注意

水から引き揚げたウォータークラフトのエンジンを、続けて15秒間以上運転しないでください。オーバーヒートして、エンジンや排気系統の重大な損傷の原因になります。水から引き揚げた状態では、エンジンを最大速度で回転させないでください。エンジンの重大故障の原因になります。

- オイルレベル計測ゲージを引抜いてオイルの中に水が混入しているか調べます。(混入ていれば、オイルが白濁します。)

## 72 操縦方法

16. オイルが白濁しておれば新しいオイルと入替えてください。その上で上記項目14と15の作業内容をオイルが白濁しなくなるまで繰り返してください。
17. もし、エンジンが始動しないようであれば燃料の中に水が混入した可能性があります。
18. もし、燃料タンクの中に水が混入しておればポンプかサイホンで燃料を抜き取り、新しい燃料を入れてください。抜き取った燃料は指定された方法以外で廃棄しないでください。



A. サイフォン

### ！警告

ガソリンは非常に引火性が強く、条件によっては爆発する恐れがあります。キルスイッチコードキーをストップボタンから抜き、禁煙にしてください。作業する場所は換気が良く、火気がないかよく確かめてください。

### 注意

油脂類の廃液は法令で適切な処置を行うことが義務づけられていますので、「カワサキ正規取扱店」に相談してください。

### 要点

- エンジンから全く水がなくなるまで、この方法を繰り返してください。繰り返しトラブルが起きるときは、水を排出するため燃料系統の掃除が要求されます。「カワサキ正規取扱店」に相談してください。
- 19. シートを復旧し確実にラッチをロックします。
- 20. ドレンスクリューを船尾に取りつけます。
- 21. 最後にウォータークラフトを水上に戻し、10分間以上走らせて残っている水を完全に乾かし、塩などの異物を排気口から排出します。

### 要点

- 上記の作業が困難と思われる時は「カワサキ正規取扱店」に相談してください。

## 航走終了後の手入れ

ウォータークラフトは、長期間水中に置いておくようにはなっていません。定期的に水中から引き揚げ、船底をこすって、汚れを防ぐ塗料にて塗装してください。また、ジェットポンプは電気分解等によって金属の腐食を招いて行きます。

### 第1: 排気系統の水抜き

- ウォータークラフトを水から引き揚げます。
- 余分な水を排気系統から出すためにエンジンを始動し、数秒間回転させます。排気口から水が出なくなるまで、繰り返しエンジンを吹かしてください。

#### 注意

水から引き揚げた状態では、エンジンを最大速度で回転させないでください。エンジンの重大故障の原因になります。

水から引き揚げたウォータークラフトのエンジンを、続けて15秒間以上運転しないでください。オーバーヒートして、エンジンや排気系統の重大な損傷の原因になります。

- 海上で操縦した後は、そのたびに真水で冷却系統を洗浄してください。（「整備と調整」の章の「冷却系統の洗浄」の項参照。）これは、塩の固着による冷却系統の詰まりを防ぐのに役立ちます。

### 第2: エンジルームの清掃

- シートを取り外します。

- エンジルームに水がたまっていたら、ドレンプラグを外して水を出して下さい。排水後、ドレンプラグをしっかりと締めます。
- 海上でウォータークラフトを使用した場合はエンジルーム内部を清水であらいます。

#### 注意

水洗いする時は電気部品に水を掛けないように注意してください。またエアークリーナーケースに水が入らないよう、エアインテークホールにカバーを取りつけてください。また、清掃後には必ず同カバーを取り外してください。

- ウォータークラフトを一週間以上使用しない時は、エンジン各部の発錆を防ぐため、防錆剤を塗布します。
- ウォータークラフトを2週間以上使用しない時は、バッテリーを取り外し、充電器を使って充電します。「整備と調整」の章の「バッテリー」の項を参照ください。
- エンジルーム拭いて乾かし、シートを取り付けます。
- ウォータークラフトを保管する場合は、エンジルームの換気ができ、また、結露を防ぐためにシートを外しておくか、またはシートの下に木片等をおいて、隙間をあけておきます。

### 第3: 船体外部の清掃

- 船外、デッキ、給水口及び推進装置を清水で洗います。

## 要点

- ウォータークラフトは、長期間水中に置いておくようになってしまふ。長期間水にさらすと、船体の塗装のバブルやはくりの原因になります。また、ジェットポンプの金属が電解腐食を招き、ウォータークラフトの寿命を短くします。水中に放置された船は定期的に引き揚げ船底をこすり、汚れを防ぐ塗料にて塗装しなければなりません。それによって、水中の金属は電解腐食を減らします。ウォータークラフトは使用する毎に、水中から引き揚げると、より長く、よりきれいな外観を保ちます。

## 特殊な手入れ

## インペラの清掃

時折、海草や他の浮遊物がインペラやジェットポンプに詰まり、性能が低下することがあります。ジェットポンプを正常に作動させるために、これらの異物を完全に取り除く必要があります。

- エンジンを止め、ウォータークラフトを水から引き揚げます。

## ⚠ 警告

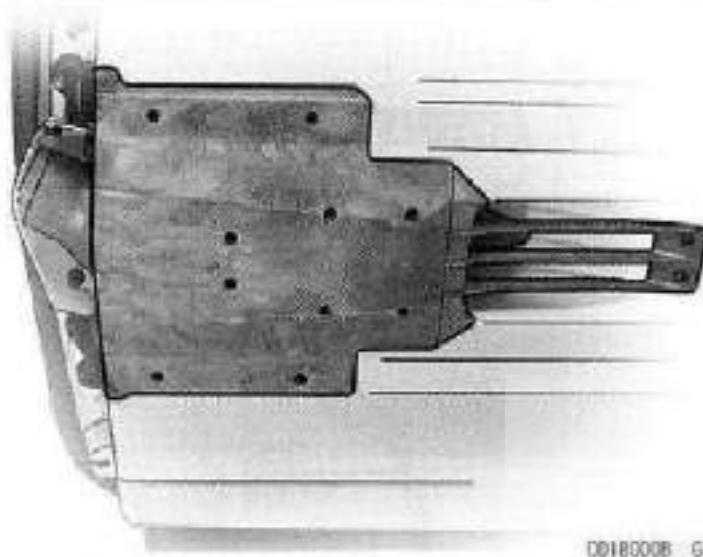
エンジンが回転中にジェットポンプの清掃をしないでください。けがをする恐れがあります。ポンプを点検する前にエンジンを止め、キルスイッチコードキーをストップボタンから抜いておいてください。

- コードキーを抜きます。
- タオルかパッドをウォータークラフトの横におきます。
- ウォータークラフトを左側に傾け、必要ならばジェットポンプの格子及びカバーを取り外してください。

## 注意

ウォータークラフトは必ず左側に傾けてください。右側に傾けると、排気系統内の水がエンジン内に入り、エンジン損傷の原因になります。

- 吸水口、ドライブシャフト、インペラ、ジェットポンプハウジング、ポンブロ、ステアリングノズルから海草やゴミを取り除きます。



001B000B-G

### 注意

ポンプのある場所や、関連部品がきれいになっているか確認してください。エンジン冷却水はジェットポンプによって供給されるので、ポンプの性能の低下はオーバーヒートの原因になります。

- ジェットポンプカバーと格子を取り付け、ボルトにネジロックを付けてしっかりと締めます。

**ボルト締付トルク: 7.8 N·m (0.8 kgf·m)**

### 汚れたスパークプラグの清掃

スパークプラグの汚れはいくつかの原因で起こります。低いアイドリング速度や長時間のアイドリング運転をした場合等です。また、燃料に水が混じっていたり、エンジン内部に水が入っている場合も、スパークプラグが汚れる原因になります。

- 汚れたスパークプラグを取り外し、きれいな乾いたプラグを取り付けてください。汚れたスパークプラグはプラグクリーナで清掃してください。また、水の付いたスパークプラグは、浸透性防錆剤で清掃します。

### スパークプラグ締付トルク:

11 ~ 15 N·m (1.1 ~ 1.5 kgf·m)

- スロットルレバーをほんの少し開いて、エンジンを始動します。

### ウォータークラフトのえい航

燃料切れ、エンジントラブル、また、その他問題が起きた場合には、ウォータークラフトをえい航してもらうことができます。6 mのえい航用ロープの一端を船首の穴に結びつけ、もう一方の端をえい航ポートに結びつけます。えい航はゆっくりと行い、8 km/h以上のスピードを出さないでください。

### 注意

このえい航要領は重要ですから必ず守ってください。そうしないとエンジルームに漫水し、ウォータークラフトの一部が沈むことがあります。

### ジャンプコードによる始動

バッテリが上がった場合、取り外して充電する必要があります。それができないときは、他のウォータークラフト等の正常なバッテリとジャンプコードを使って始動することができます。その

場合、ウォータークラフトのバッテリと同じ電圧(12 V)のものを使用してください。

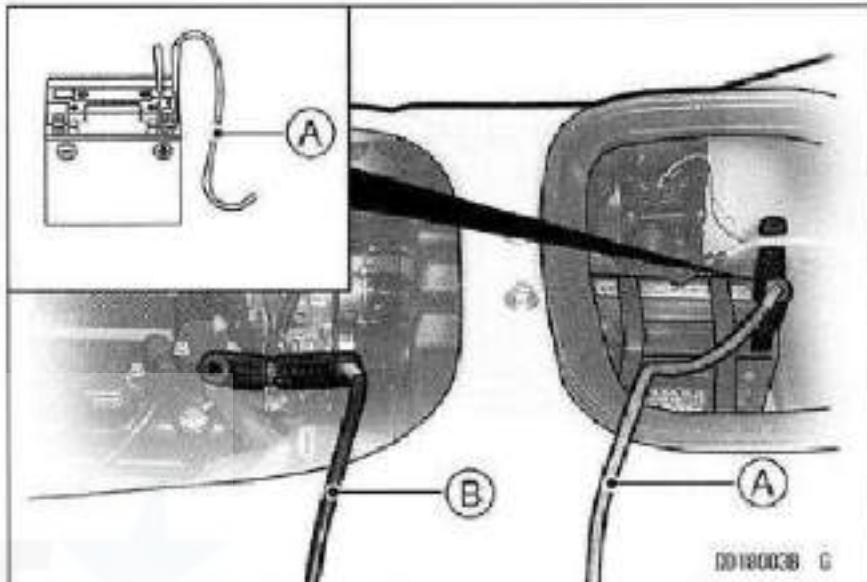
### ⚠ 警告

バッテリ液は条件によって引火性および爆発性がある水素ガスを発生します。このガスは常時バッテリ内にあり、完全放電していても残っています。火気や火花をバッテリから遠ざけてください。また、バッテリを取り扱っているときは、保護メガネを着用してください。バッテリ液が皮膚や目、衣類に付着したときは、直ちにその部分を水で5分以上洗い、医者の診察を受けてください。

- ・イグニションスイッチを"OFF"にします。
- ・シートを外し、小物入れ(後部)を取ります。
- ・両方のバッテリの(+)ターミナル間をジャンプコードで接続します。
- ・他のジャンプコードの一端を他の船のバッテリの(-)ターミナルに接続します。

### 注意

バッテリを反対の極[(+)から(-)]へ接続すると、電気系統に大きな損傷が生じます。



A. (+) コード  
B. (-) コード

- ・もう一方の端をエギゾーストパイプのボルトに接続します。

### ⚠ 警告

最後の接続を間違ってスロットルボディ、インジェクタやバッテリへしてはいけません。コードをショートさせないように注意し、上記の最後の作業をするときは、バッテリの上に体を乗り出さないでください。また、凍結したバッテリをジャンプコードで始動させてはいけません。爆発する恐れがあります。

### 注意

5秒間以上連続してスタータを回さないでください。スタータがオーバーヒートします。スタータが冷えるように15秒間待ってから、再度回してください。

- エンジンを始動させた後、上記の逆の順序でジャンプコードを取り外してください。

### エンジンのオーバーヒート

このウォータークラフトには、冷却水およびエンジンオイルの温度センサが設けられています。エンジンがオーバーヒートしたときには“LED”（赤色）警告灯が点滅しブザーがなります。

さらに原因によって、水温シンボル及びスピードメータの隣の“HEAt”“文字が点滅するか、または油温シンボル及び“OILH”文字が点滅します。

同時にエンジン回転が自動的に3 000rpm以下に制御されます。

- 警告灯、水温シンボル、油温シンボル、及び“HEAt”又は“OILH”文字が点滅してウォータークラフトのスピードが落ちたときは、直ちに岸に戻って、冷却水系統に詰まりがないか、エンジンオイルの量は十分か点検してください。それ以外の原因の場合には「カワサキ正規取扱店」へ相談ください。

### 注意

エンジンがオーバーヒートすると警告灯、水温シンボル、“HEAt”文字が点滅、もしくは油温シンボル、“OILH”文字が点滅してエンジンの回転がさがります。直ちに岸へ戻り、冷却系統、エンジンオイルを点検してください。  
エンジンの損傷を防ぐため、オーバーヒートの原因を見つけて修理するまでウォータークラフトを操縦しないでください。

### 運搬

- ウォータークラフトをトレーラ等でけん引するときは、けん引に関する諸法規、規則を必ず守ってください。
- ウォータークラフトの重量と形状に合ったトレーラを使用してください。不適格なトレーラで運搬することは安全面で問題があります。
- トレーラの上でウォータークラフトが動かないようしつかり固定してください。

### 注意

シート後方のハンドレールや、その下のけん引用フックに船体固定用ベルト等をかけないでください。

船尾の速度検知用の水車に、ものがあたらないように注意してください。

# 保管

冬の間や、一ヶ月以上の長時間ウォータークラフトを使用しないときは、適切な保管が必要です。無くなつた部品がないか点検し、摩耗した部品を交換したり、防錆のために各部への注油、潤滑、また、一般的には次回ウォータークラフトを使用するとき、最良のコンディションにしておくための準備をしておきます。「カワサキ正規取扱店」でしてもらうか、または次の事項を実施してください。

## 要点

- ウォータークラフトは、長期間水中に置いておくようになっていません。長期間水にさらすと、船体の塗装のバブルやはくりの原因になります。また、ジェットポンプの金属が電解腐食を招き、ウォータークラフトの寿命を短くします。水中に放置された船は定期的に引き揚げ、船底をこすり、汚れを防ぐ塗料にて塗装しなければなりません。それによって、水中の金属は電解腐食を減らします。ウォータークラフトは使用する毎に、水中から引き揚げると、より長く、よりきれいな外観を保ちます。

## 保管する前の作業

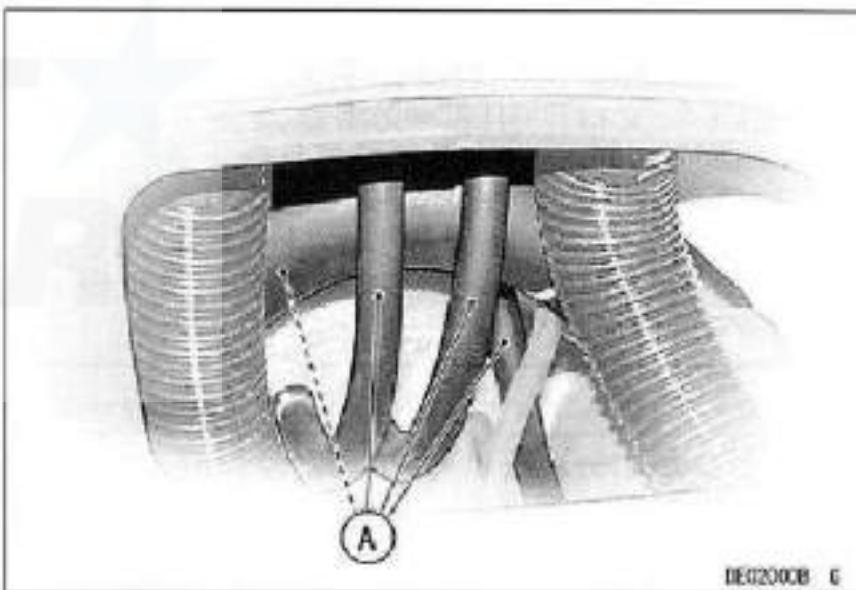
### 冷却系統

- 冷却系統を洗浄します。（「整備と調整」の章の「冷却系統の洗浄」の項参照。）

## ビルジ系統

- ビルジ系統を洗浄します。（「整備と調整」の章の「ビルジ系統の洗浄」の項参照。）このとき、ホースをプラスチックのブリーザに再び接続する前に、両方のホースに圧縮空気を吹き込んで、ビルジ系統から水を完全に押し出してください。

## エンジンオイル



DE020008-6

- A. 両方のホースに空気を吹き込む。

### エンジンオイル

- エンジンオイルを入れ替えます。（「整備と調整」の章の「エンジンオイル系統」の項を参照。）

## 燃料系統とエンジン

- エンジンルームを水洗いし、船尾のドレーンブラングを外して水を抜きます。エンジンルームに水が残っていれば拭きとります。

### ! 警告

ガソリンは非常に引火性が強く、条件によっては爆発する恐れがあります。キルスイッチコードキーをストップボタンから抜き、禁煙にしてください。作業する場所は換気が良く、火気がないかよく確かめてください。

- 燃料タンクの底の燃料と水とが燃料注入口の方にいくよう船尾を少し上にあげ、サイフォンまたはポンプで燃料タンクからそれらを完全に抜きます。

### 注意

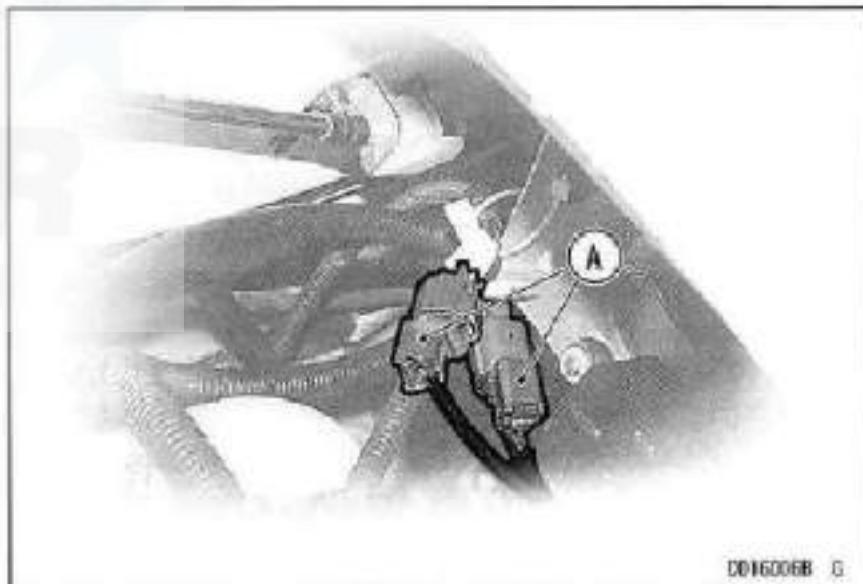
油脂類の廃液は、法令で適切な処置を行うことが義務づけられていますので、「カワサキ正規取扱店」にご相談ください。

- 約10 Lの新しい燃料を燃料タンクに入れます。
- イグニションスイッチを“ON”にします。
- キルスイッチコードキーをストップボタンに差し込んでエンジンを始動し、燃料系統内の燃料が新しい燃料と入替るまで、15秒間づつ回転させます。各回転は5分間隔で行います。

### 注意

水から引き揚げたウォータークラフトのエンジンを、続けて15秒間以上運転しないでください。オーバーヒートして、エンジンや排気系統の重大な損傷の原因になります。

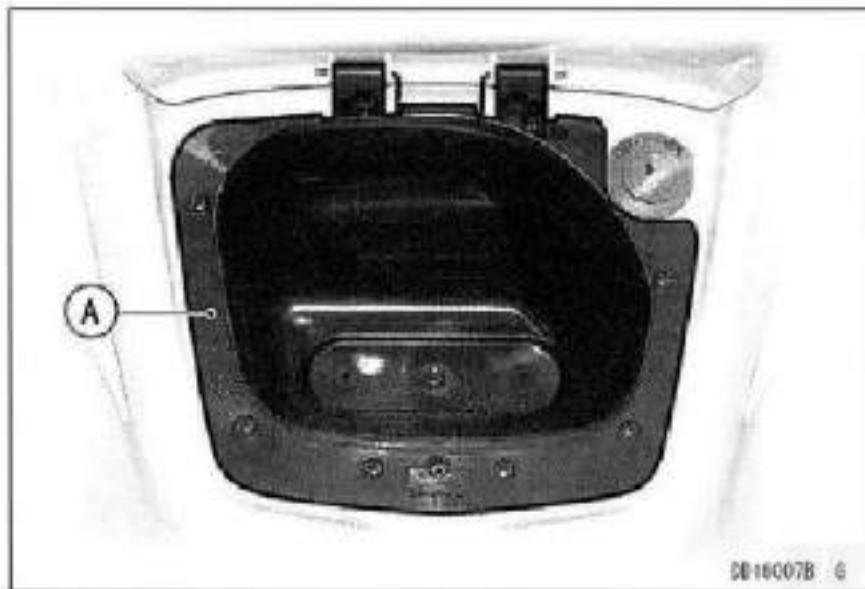
- 燃料タンクから先に述べた方法で燃料を抜きます。
- タンク内の結露を防ぐため、燃料注入口キャップを暖めておきます。
- イグニッションコイル手前にある一次側イグニッションケーブルの二つのコネクターをはずします。



001600BB 6

#### A. ケーブルコネクター

- 上記の作業のために前部の小物入れを外してください。コネクターは小物入れの下にあります。



A. 前部小物入れ

- スパークプラグを取り外します。
- 各シリンダ内に浸透性防錆剤をスプレーします。
- スタータボタンでエンジンを数回回転させ、シリンダの内側にオイルを行きわたらせます。

### ⚠ 警告

この作業中は、エンジンの上にかがみこまないでください。スパークプラグ穴から防錆剤が霧状になって勢いよく噴出することがあり、目に入る恐れがあります。もし、少しでも目に入ったら、すぐに水道水を十分使って目を洗ってください。そして、できるだけ早く医者の診察を受けてください。

- スパークプラグに浸透性防錆剤をスプレーし、シリンダーヘッドに取り付けます。

#### スパークプラグ締付トルク:

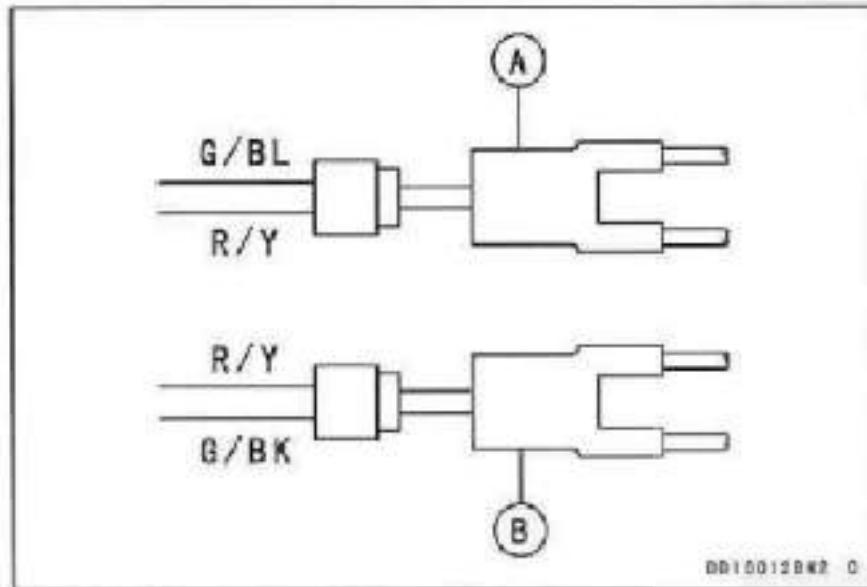
11 ~ 15 N·m (1.1 ~ 1.5 kgf·m)

コードキーをストップボタンから抜き、イグニションスイッチを“OFF”にします。

- プラグキャップを取り付けます。
- イグニッションコイルの一次側ケーブルのコネクター（2個）を接続します。

#### 要点

- #1 & #4(A)と#2 & #3(B)のイグニッションコイルコネクターを確認の上、相手方のイグニッションコイルの一次側リード線コネクタを接続する。
- #1 & #4用コイルコネクタはメインハーネスからの赤/黄、緑/青のリード線の付いたコネクタに、#2 & #3用コイルコネクタはメインハーネスからの赤/黄、緑/黒のリード線の付いたコネクタに接続すること。



- A. #1 & #4用コイルコネクタ
- B. #2 & #3用コイルコネクタ

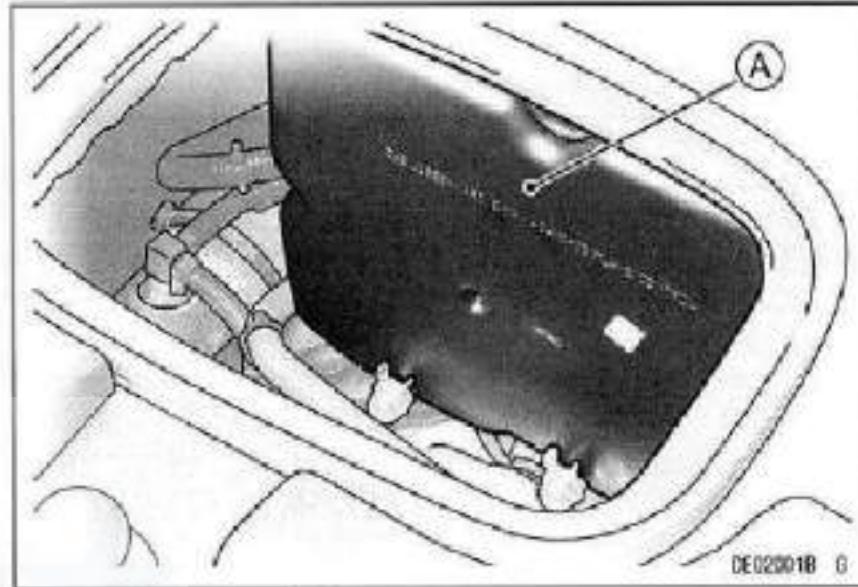
- 前部小物入れを復旧します。

#### エアフィルタ

- エアフィルタのケースを開放する。
- ケース内のエアフィルタを取り外し洗浄・乾燥させる。
- エアフィルタを元通りに組み立てる。

#### 要点

- この作業はエアフィルタケースの取り外しがいるため、「カワサキ正規取扱店」に相談してください。



A. エアフィルタケース

#### バッテリ

- バッテリを取り外します。（「整備と調整」の章の「バッテリ」の項参照。）
- 重ソウと水の溶解液で外部を清掃します。水でよくゆすぎます。

#### 注意

密封栓は絶対に取り外さないでください。バッテリが損傷します。

- 両方のターミナルにグリースを塗ります。
- バッテリを乾燥した涼しい場所に保管します。温度が氷点下になる場所にはおかないでください。また、保管中は大体月に1回補充電してください。

## 洗浄

- 船体の外部を水洗いし、完全に乾かします。

## 注意

ウォータークラフトを洗う場合は、洗浄力の弱い洗剤を水に混ぜたものだけを使用してください。強力な溶剤は化学作用で塗装表面を変色させることができます。

- 良質のワックスを船体の外面全体に塗ります。
- すべての露出している金属部品に、錆や腐食防止のため浸透性防錆剤を軽くスプレーします。
- 適当な換気が行われ、結露を防ぐためにシートを外しておくか、またはシートの下に10 mm位の木片等において隙間をあけておきます。
- ウォータークラフトにカバーを掛け、ほこりのない乾燥した場所に保管します。

## 要点

- ウォータークラフトを外に保管すると、シート両側のデッキに水がたまります。その水は塗装のバブルやはくり、更にはデッキマットのはくりの原因になります。もし、ウォータークラフトをトレーラに載せたまま保管するならば、デッキの水が流出するように船首を上げておいてください。

## 潤滑

- すべての推進潤滑方法を実施してください。（「整備と調整」の章の「潤滑」の項参照。）

## 保管後再使用する前の作業

以下の作業は保管期間終了後、ウォータークラフトを使用できる状態に戻すために必要な手順です。「カワサキ正規取扱店」で行ってもらうか、または次の事項を実施してください。詳細については、「整備と調整」の章を参照してください。

- すべての推進潤滑方法を実施してください。（「潤滑」の項参照。）
- スロットル、ステアリングおよびシフト機構が動かなかったり、途中でひつかつたりしないか点検します。スロットルレバーは放すと完全にもとの位置に戻らなければなりません。
- スパークプラグを清掃し、ギャップを点検します。（「スパークプラグ」の項参照。）
- すべてのゴムホースに風化、ひび割れ、ゆるみがないか点検します。
- 保護パッドを敷いてウォータークラフトを左へ傾け、ジェットポンプカバーを取り外します。冷却ホースとビルジホースに風化、ひび割れ、ゆるみがないか点検します。
- 必要なら良品と交換してください。カバーを取り付け、ボルトにネジロックを塗布してしっかりと固定します。

**ボルト締付トルク: 7.8 N·m (0.8 kgf·m)**

- ドレンプラグがしっかりと取り付けられているか点検します。
- バッテリのターミナルを清掃し、必要ならば補充電します。バッテリを取り付けてください。（「バッテリ」の項参照。）

- 燃料タンクにガソリンを入れ、燃料注入口キャップをしっかりと締めます。

### ⚠ 警告

ガソリンは非常に引火性が強く、条件によっては爆発する恐れがあります。キルスイッチコードキーをストップボタンから抜き、禁煙にしてください。作業する場所は換気が良く、火気がないか確かめてください。

- 輸送したり、燃料を注入した後では、エンジンをかける前に備品入れのふたを開け、シートを取り外し、小物入れ（後部）を取り出して、エンジンルームを数分間換気してください。

### ⚠ 警告

気化したガソリンがエンジンルームにたまると、火災や爆発の原因となることがあります。

- 燃料漏れを点検し、必要があれば修理してください。
- オイルフィルタを点検、清掃します。
- オイルの量を調べ、少なければ規定のオイルを補充します。

### ⚠ 警告

密閉された場所でエンジンを運転しないでください。排気ガスは、無色無臭で有毒な一酸化炭素を含んでいます。従って、排気ガスを吸うと一酸化炭素中毒を起こし、仮死状態を経て死亡する結果となります。

- エンジンを始動し、15秒間運転します。燃料、オイルおよび排気ガス漏れを点検してください。漏れがあれば必ず修理してください。

### 注意

水から引き揚げたウォータークラフトのエンジンを、続けて15秒間以上運転しないでください。オーバーヒートして、エンジンや排気系統の重大な損傷の原因になります。

水から引き揚げた状態では、エンジンを最大速度で回転させないでください。エンジンの重大故障の原因になります。

- シートを取り付け、ラッチをロックします。

## 整備と調整

### 定期点検整備表

#### 要点

- 毎日乗る前には必ず「乗る前の点検項目」の点検を実施してください。

実施項目	頻度	最初の 10時間後	25時間毎	50時間毎	100時間毎
すべてのホース、ホースクランプ、ナット、ボルト及びファスナを点検する。	●	●			
スロットルボディ部のスロットルボディケーブル取付部を潤滑する。		●			
スロットルコントロールケーブル及びスロットルレバーのケーブル取付部を潤滑する。		●			
スパークプラグを清掃し、ギャップを点検し、必要ならば交換する。		●			
ステアリングケーブルジョイント(ステアリングシャフトの下部)、シフトケーブルのボールジョイントと、ステアリングノズル、リバースパケットのピボットを潤滑する。		●			
※ ハンドルバーピボットを潤滑する。		●			
※ 燃料ポンプスクリーンを清掃する。		●			
※ 燃料ベントチェックバルブを点検する。		●			
スロットルコントロール系統を点検する。		●			

実施項目	頻度	最初の 10時間後	25時間毎	50時間毎	100時間毎
※ バルブクリアランスを点検調整する。					●
インレットサイレンサーのドレンプラグを点検清掃する。		●			
エンジンオイルを交換する。				●(1)	
エンジンオイルフィルターを交換する。					●
ビルジ系統及びフィルタを洗浄する。		●			
冷却系統を洗浄する(海上で操縦したときは使用後毎回)。		●			
※ エアサクションバルブを点検する。					●
※ インペラのブレードの損傷を点検する。					●
※ カップリングダンバを点検、交換する。					●
※ スロットルシャフトのスプリングを点検する(もし必要ならばスロットルアッセンブリを交換する)。					●
※ ステアリングケーブル、シフトケーブルを点検する。					●
船尾ドルンプラグの損傷を点検する(もし必要ならば交換する)			●		
バッテリーターミナルの点検		●			

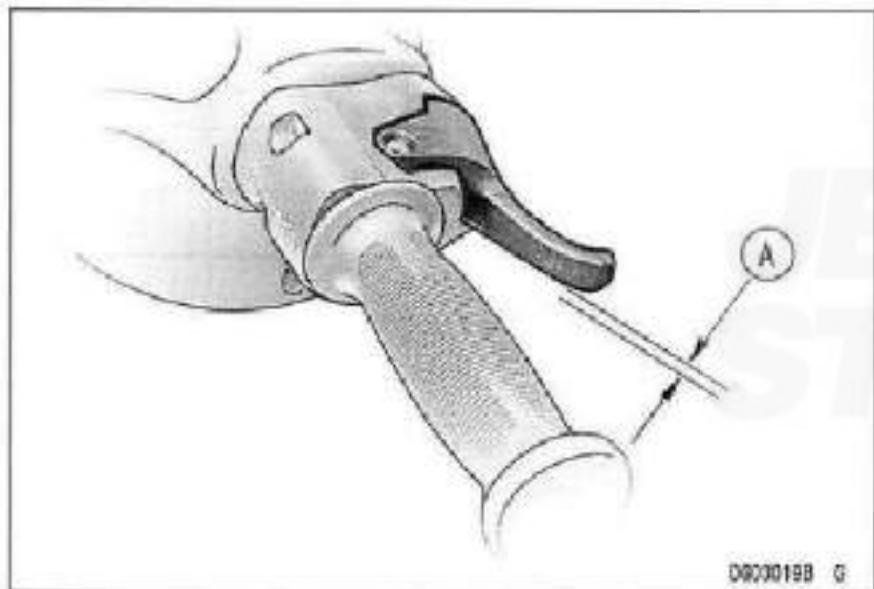
※ これらの項目は適正な工具を用いて行わなければなりません。適切な設備がなく、また、機械の取り扱いに熟練していないければ、「カワサキ正規取扱店」で実施してもらってください(サービスマニュアル参照)。

(1) または毎年1回

## コントロールケーブル

### スロットルケーブルの調整

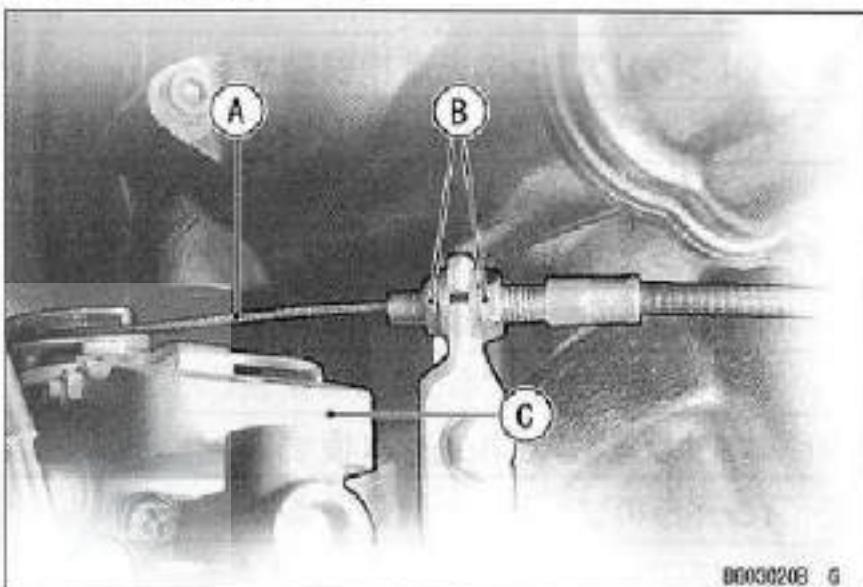
スロットルケーブルには適度の“あそび”が要ります。エンジンの回転が上がり始めるまでのスロットルレバーの動く量を測ります。約2mmが適当な“あそび”量です。



A. 約2 mm

- スロットルケーブルのエンジン側端部のロックナットを緩め、規定の“あそび”ができるまで回

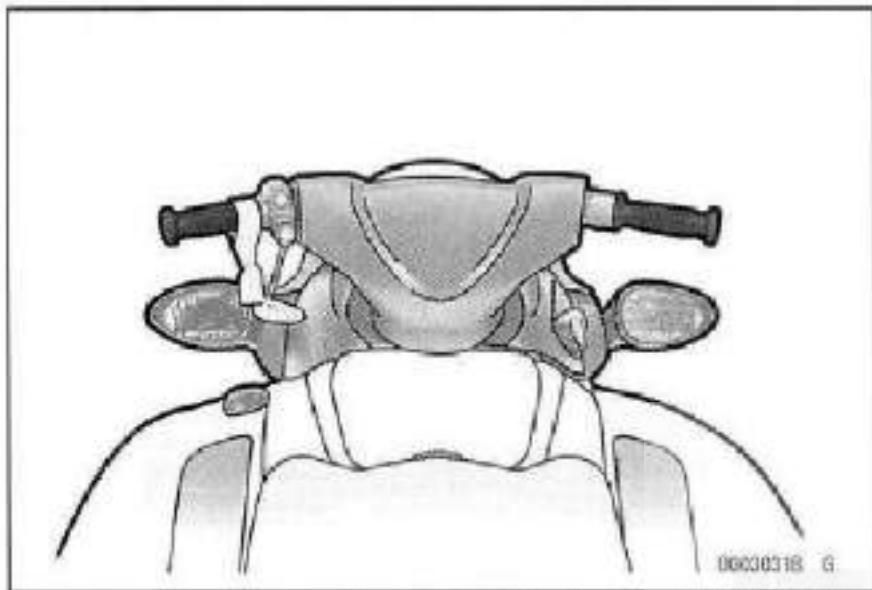
転・移動させます。調整後はしっかりとロックナットを締めます。



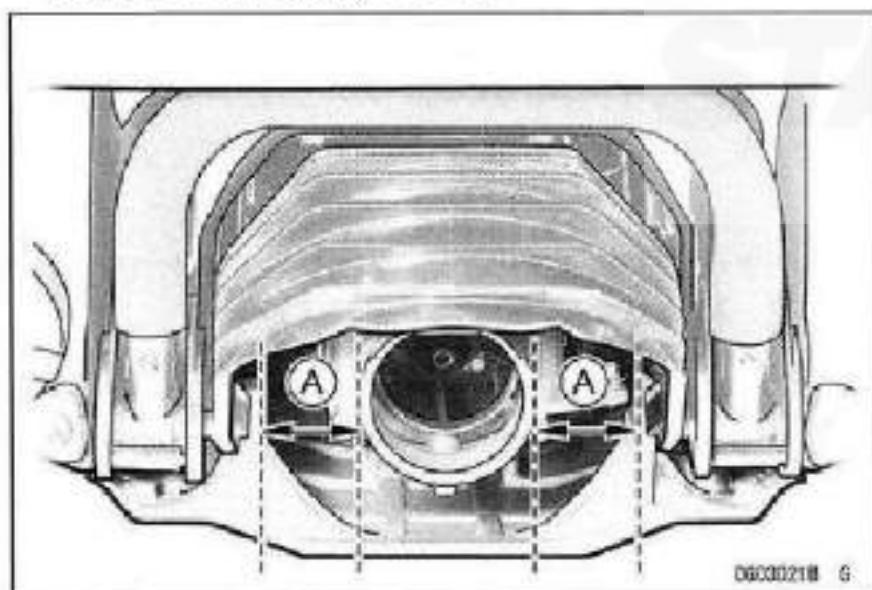
A. スロットルケーブル  
B. ロックナット  
C. スロットル機構

### ステアリングケーブルの調整

- ハンドルバーをまっすぐ正面に向けます。

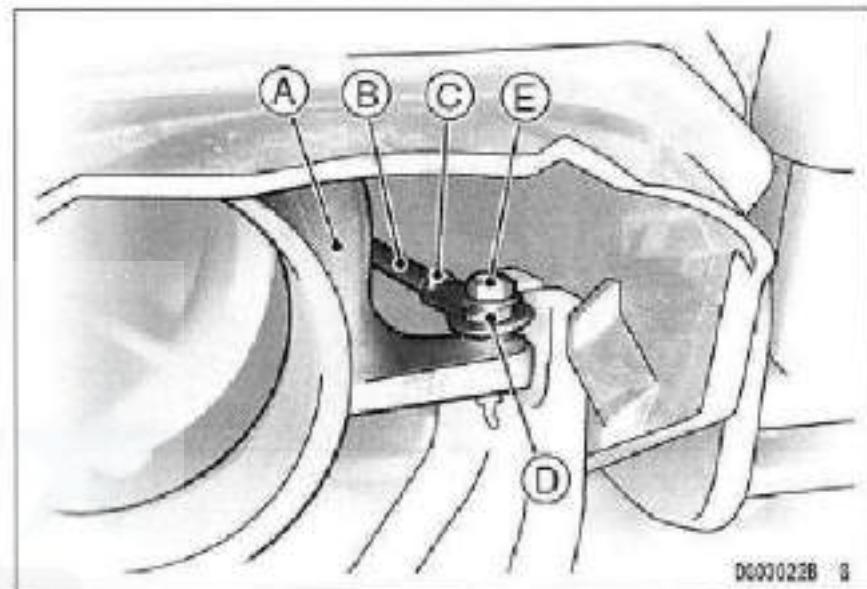


- ステアリングノズルがノズル室の両側から同じ距離にあるか点検します。



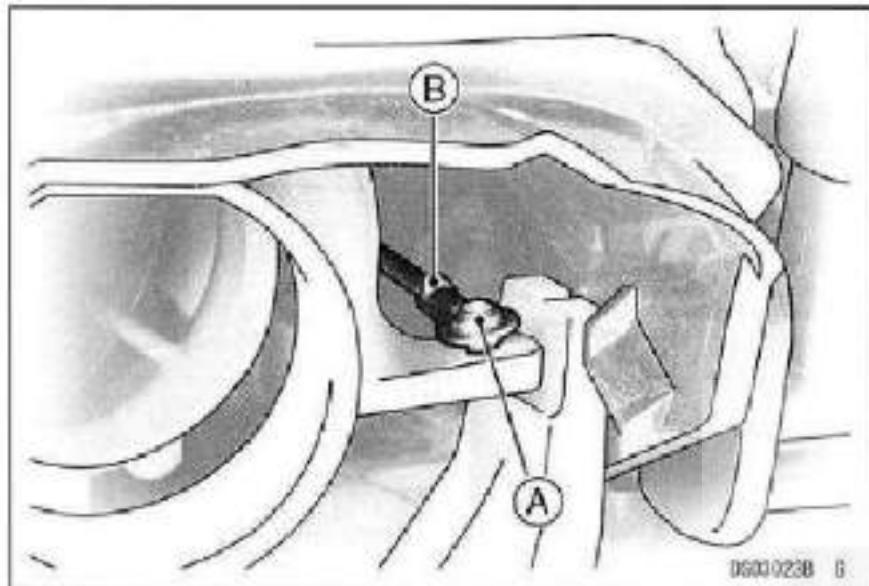
A. 等距離

- 同じ距離でなければ調整します。
- ステアリングノズル右側のステアリングリングのロックナットを緩めます。



- A. ステアリングノズル
- B. ステアリングケーブル
- C. ロックナット
- D. ジョイント
- E. ボルト

- ジョイント部のボルトを外します。
- ハンドルバーをまっすぐ正面に向けます。
- リンクのジョイントを回して、ステアリングノズルがノズル室の中央に位置するように調整します。

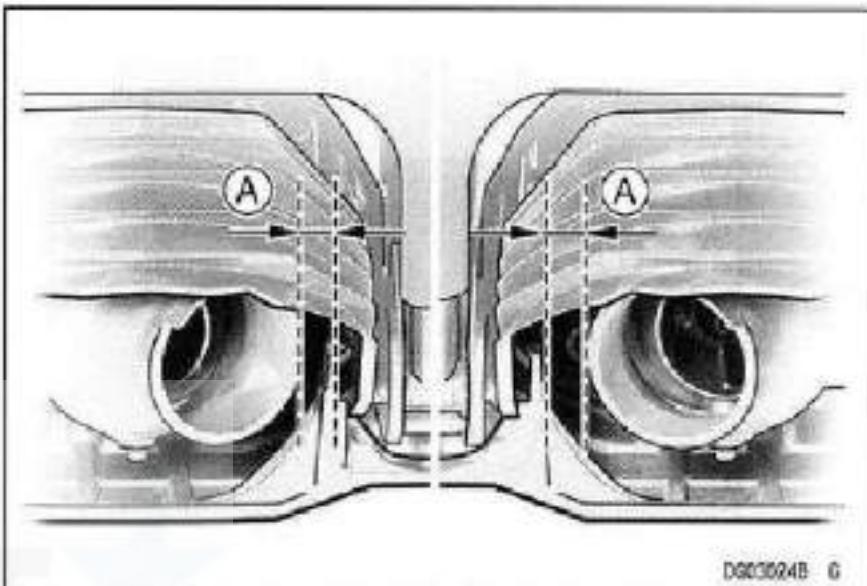


A. ジョイント  
B. ロックナット

- ノズルにジョイントを接続し、もう一度ステアリングケーブルの調整具合を点検します。
- 調整が正しければ、ロックナットをしっかりと締めます。また、ボルトにネジロックを塗布し、ジョイントをノズルに取り付けます。

**ボルト締付トルク: 9.8 N·m (1.0 kgf·m)**

- もう一つの点検方法として、ハンドルを左右にいっぱい切ります。ステアリングノズルの左右の端からノズル室までの隙間を計り、それぞれが同じであれば正確に調整されています。



A. 等距離

#### ステアリングケーブルの点検

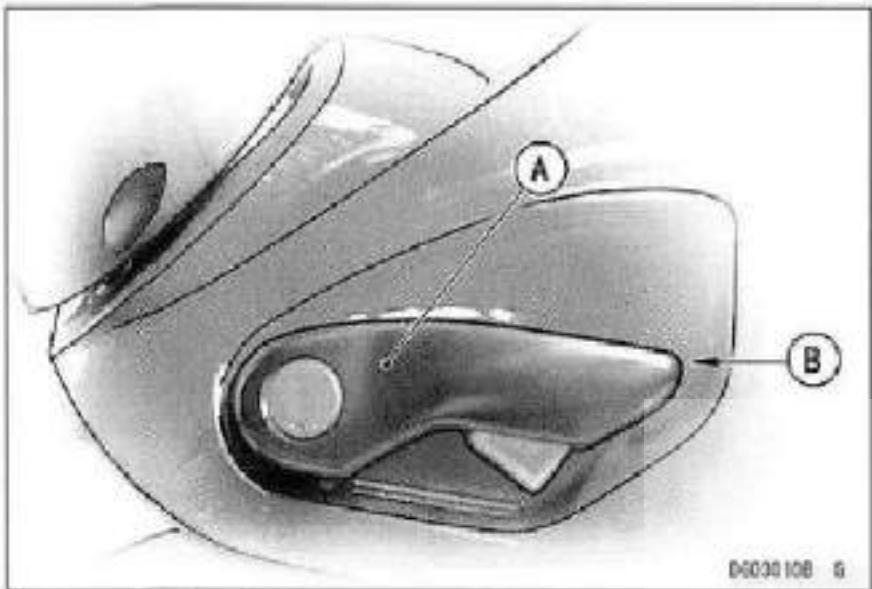
ステアリングの動きがスムーズでなかつたり、ひつかかっているように感じられたときは、「カワサキ正規取扱店」で点検を受けてください。

#### 要点

- ステアリングケーブルの両端はシールされていますので、潤滑する必要はありません。

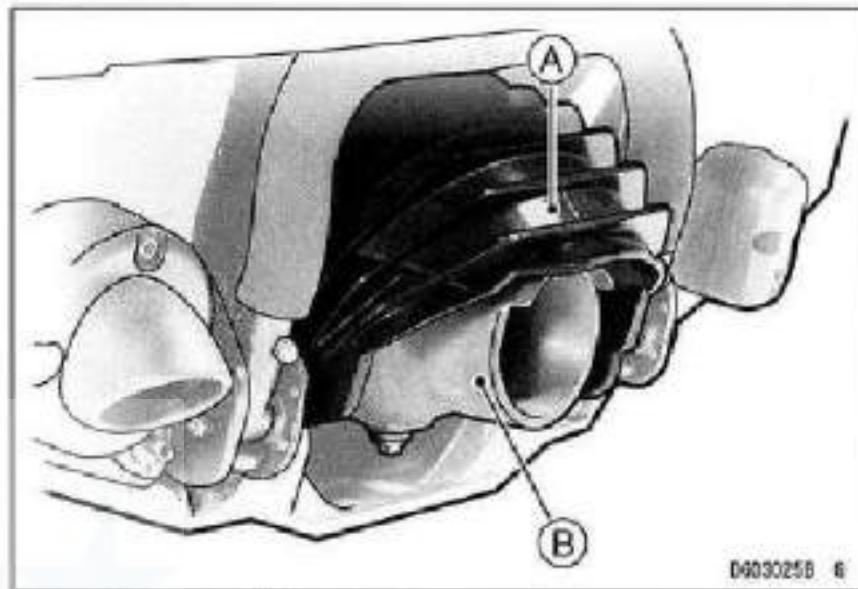
#### シフトケーブルの調整

- シフトレバーを“F”（前進）の位置に入れます。



A. シフトレバー  
B. "F" (前進)

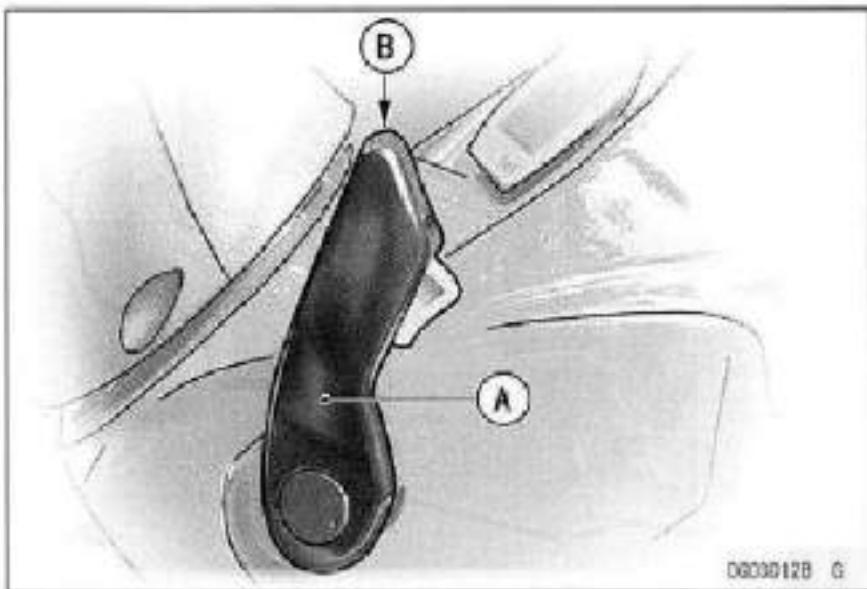
- このとき、スター（船尾）にあるリバースバケットに少し遊びがあり、手で押し下げてもバケットの下端はステアリングノズルの上端より上に位置します。



A. リバースバケット  
B. ステアリングノズル

- シフトレバーを "R" (後進) の位置に入れます。

## 90 整備と調整



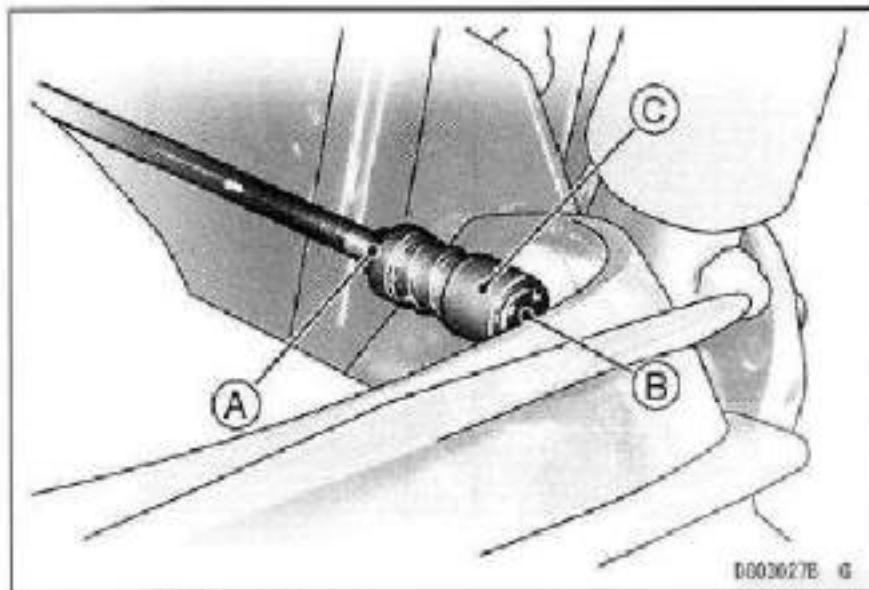
A. シフトレバー  
B. "R" (後進)

- このとき、リバースパケットの下端右側のストッパーが、ポンプカバーの底面に当たっています。



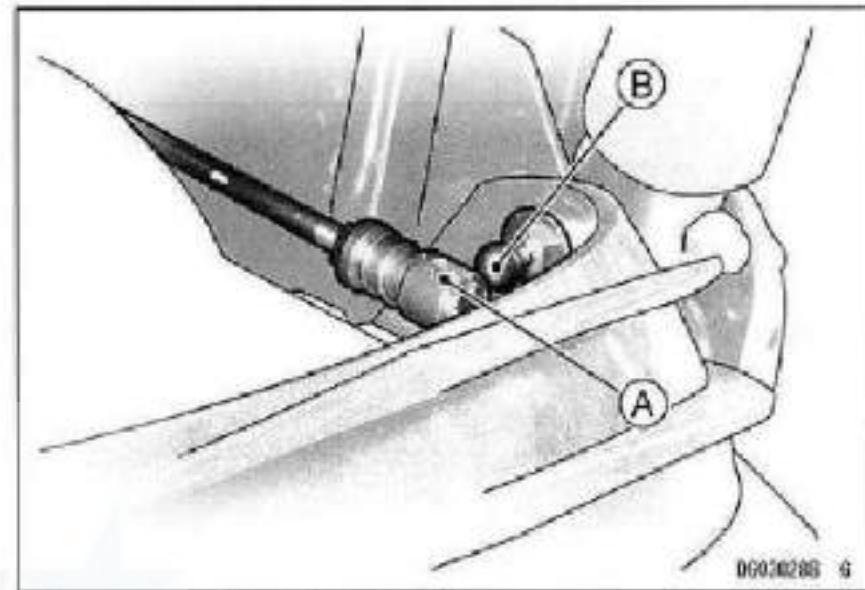
A. ストッパー  
B. ポンプカバー

- もしどちらかでも異なっていれば、シフトケーブルを調整します。
- シフトレバーを "R" (後進) の位置に入れます。
- シフトリンクのボールジョイントのロッタナットを緩めます。



A. ロックナット  
B. ボールジョイント  
C. スリーブ

- アウタースリーブを少しずらして、ボールからボールジョイントを外します。
- リンクのボールジョイントを回して、シフトレバーが "F" (前進) の位置にあるとき、パケットに2~3 mmの遊びがあり、手で押し下げてもパケットの下端がノズルの上端より上有るように調整します。



A. ボールジョイントの穴  
B. ボール

- ボールにボールジョイントを接続し、もう一度シフトケーブルの調整具合を点検します。
- 調整が正しければ、ロックナットをしっかりと締めます。

#### シフトケーブルの点検

シフトケーブルの動きがスムーズでなかったり、ひっかかっているように感じられたときは、「カワサキ正規取扱店」で点検を受けてください。

#### 要点

- シフトケーブルの両端はシールされていますので、潤滑する必要はありません。

## 燃料系統

### スロットルの調整

#### アイドリングスピード:

アイドリングスピードの調整は「カワサキ正規取扱店」で行ってください。もし、アイドリングが不安定になったらスロットルボディを販売店で点検してもらってください。

#### アイドリングスピード

水上……約1 300 ± 100 rpm

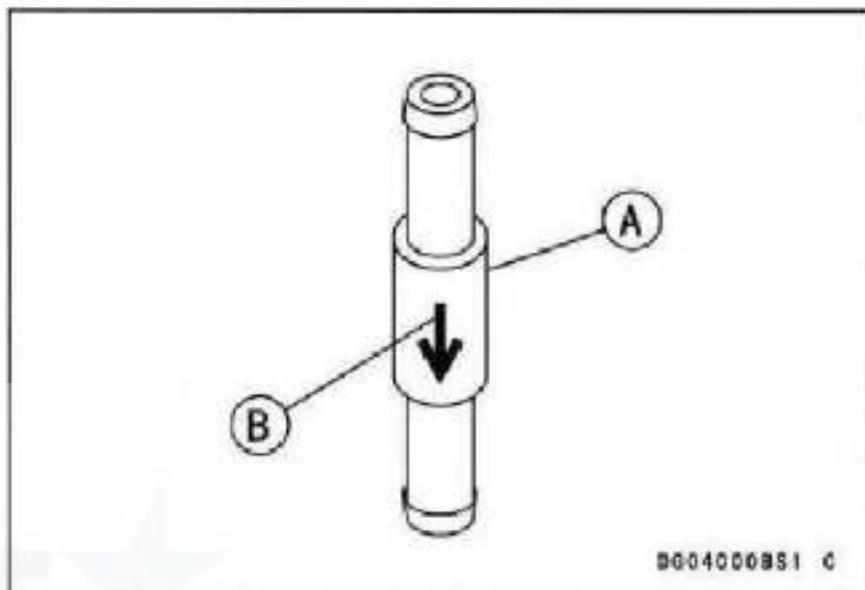
陸上……約1 300 ± 100 rpm

高地でウォータークラフトを使用する場合でもECU（エンジンコントロールユニット）が自動的に燃料/空気の混合を調整するため特別な調整は要りません

#### 燃料ペントチェックバルブ

燃料タンクにはペントホースが設けられています。ペントホースの中間にチェックバルブが取り付けられ、ウォータークラフトが転覆したときの燃料流出を少なくし、かつ燃料タンクへ空気が入るようになっています。

「定期点検整備表」の規定に従って、チェックバルブの検査を「カワサキ正規取扱店」で受けてください。



0004000851 C

- A. チェックバルブ
- B. 流れの方向

#### 燃料ポンプスクリーン

ウォータークラフトには燃料系統に汚物や異物が入らないように、燃料ポンプにスクリーンが設けられています。

「定期点検整備表」の規定に従って、スクリーンの検査を「カワサキ正規取扱店」で清掃してもらってください。

## エンジンオイル系統

エンジンには適量のエンジンオイルを保つことが不可欠です。「定期点検整備表」にしたがってエンジンオイル及びオイルフィルターを交換してください。エンジンオイルにはごみ等が溜まる他、長時間使用によりオイル自体が劣化します。

### エンジンオイル及びオイルフィルターの交換

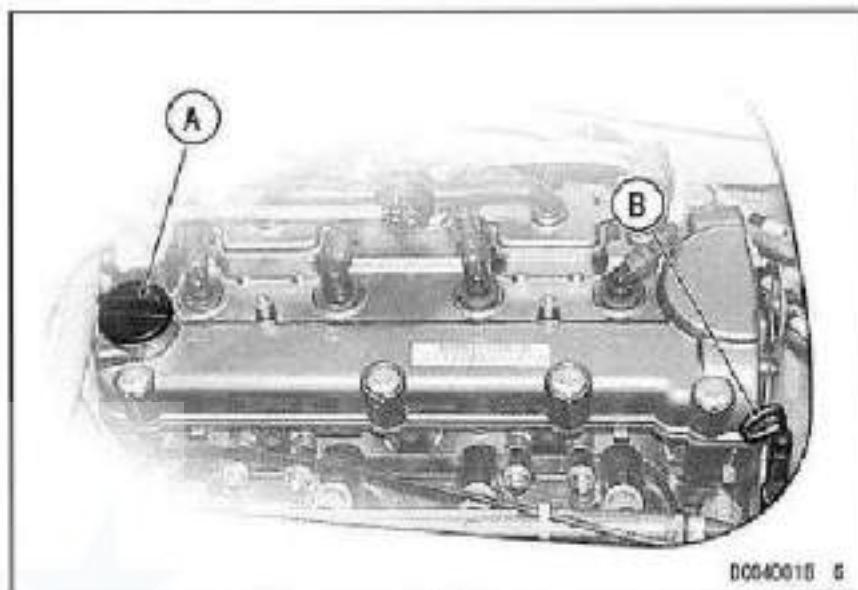
下記の要領にしたがってエンジンオイル及びオイルフィルターを「定期点検整備表」に記載されている時期に交換してください。

- ウォーターカラフトを前後・左右方向に極力水平に据付けます。
- 十分に換気された区画で冷却水を送りながらエンジンを始動します。

#### 注意

エンジンは冷却水を出す前に始動し、エンジンを停止するときは先に冷却水を止めてください。また、冷却水無しではエンジンは15秒以上運転しないでください。

- エンジンを暖氣し、その後停止します。
- オイル注入孔キャップ及びレベル計測ゲージを外します。



00640016 5

- A. オイル注入孔キャップ  
B. レベル計測ゲージ

#### 注意

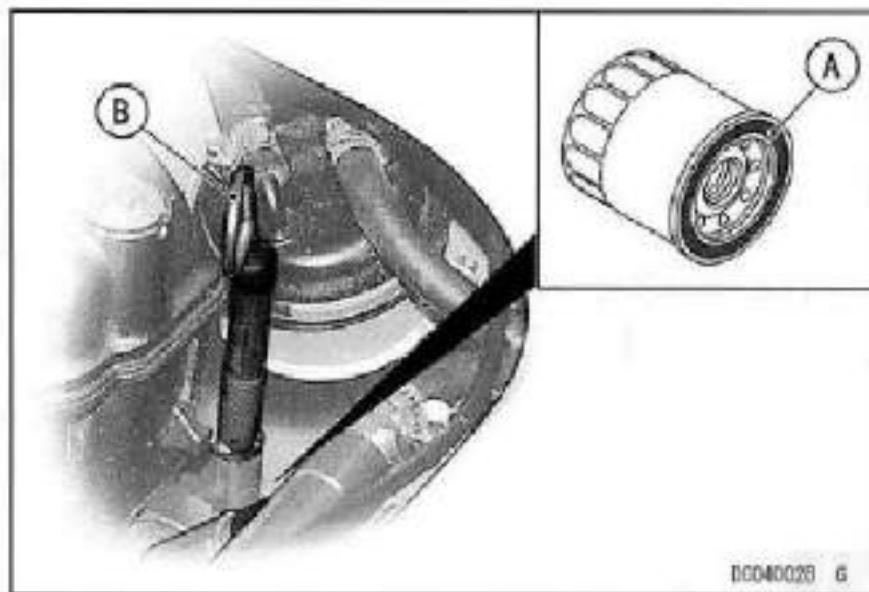
エンジン内部にごみや異物が入らないように注意してください。

- レベル計測ゲージパイプからバキュームポンプ等を利用してオイルを排出します。

#### 注意

エンジンオイル等の廃液は法令で適切な処置を行なうことが義務づけられていますので、「カワサキ正規取扱店」にご相談ください。

- こぼれ出る油を受けるため、布きれ等を下部に敷きます。
- オイルフィルターを外します。



DC040028\_G

- A. オイルフィルター  
B. レベル計測ゲージ

- オイルフィルターのガスケット部に薄くエンジンオイルを塗り、規定のトルクで締めつけます。

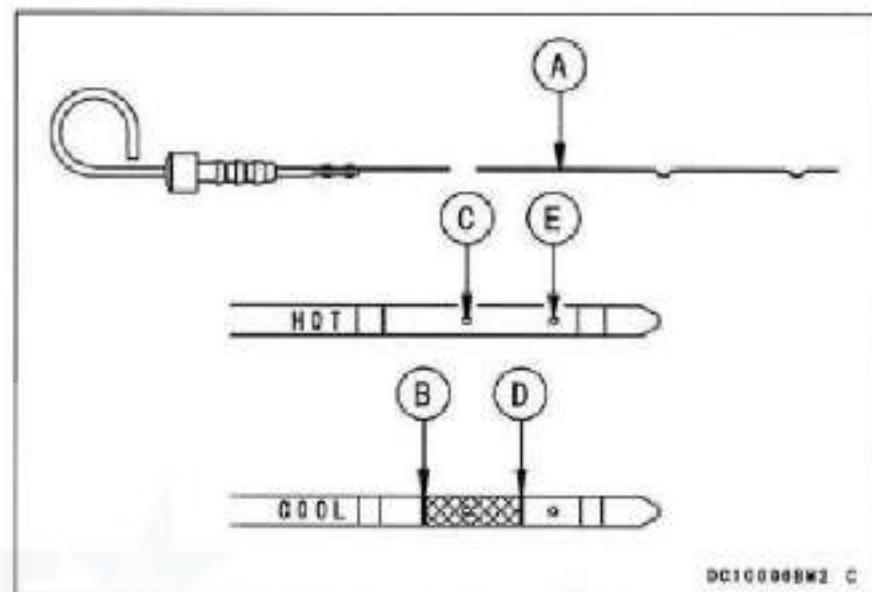
#### フィルター締めつけトルク

25 ~ 29 N·m (2.5 ~ 2.9 kgf·m)

- 下の表に指定されているオイルを計測ゲージの "H" (ハイレベル) の線まで注入します。 (冷間用のマークを使用します。)

#### 要点

- オイルを "H" (ハイレベル) 以上に入れ過ぎないように注意します。入れ過ぎたらオーバーした分を排出してください。

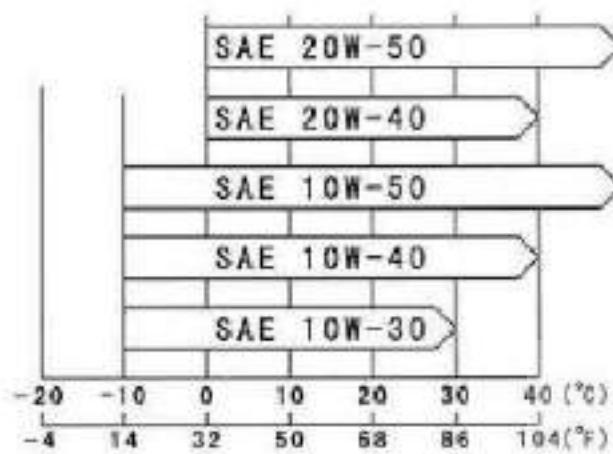


DC100000W2\_C

- A. 計測ゲージ  
B. 冷間時の "H" (ハイレベル)  
C. 溫間時の "H" (ハイレベル)  
D. 冷間時の "L" (ロー・レベル)  
E. 溫間時の "L" (ロー・レベル)

タイプ	API SE, SFまたはSG JASO MA API SHまたはSJ SAE10W-40
必要量:	4.0 L (通常の入替時) 5.0 L (エンジンを完全に空にした時)

通常10W-40が推奨オイルですが、使用状況によってはオイル粘度を次の表により変える必要があります。



DE100078X2 C

- オイル注入孔キャップ及びレベル計測ゲージをしっかりと締めつけます。
- 冷却水を接続し、供給しながらエンジンを数分間始動します。（冷却水の供給のしかたは本章の【冷却系統の洗浄】の項を参照してください。）

### 注意

水を流す前に、必ずエンジンをかけておいてください。先に水を流すと、エギゾーストパイプを通してエンジン内に水が逆流して、内部を損傷する恐れがあります。

- 再度オイルレベルを計測し、“H”（ハイレベル）と“L”（ローレベル）の間にあることを確認します。
- エンジン室内にオイルの漏れがないか確認します。

### 要点

○ この作業は適切な技術と工具が必要です。必要な時には、「カワサキ正規取扱店」にご相談ください。

エンジンオイルが注入された後、下に示す手順でオイルレベルを注意深く計測してください。

ウォータークラフトを着水します。

↓  
エンジンを始動し数分間暖気します。

↓  
ウォータークラフトを5,000回転で5分間運転します。

↓  
エンジンを止め10分間冷却させます。

↓  
波の無い水面でウォータークラフトを静止させます。

↓  
レベル計測ゲージを抜き温間用マークを使ってオイルレベルを計測します。

↓  
もし、減っていたら“H”（ハイレベル）マークまでオイルを補給します。

↓  
“H”（ハイレベル）マーク以上に注油しないで下さい。  
入れ過ぎた場合はオーバーした分を取り除きます。

↓  
レベル計測ゲージを差込みます。

↓  
オイルの漏れが無いことを確認します。

## 要点

- オイルレベルを計測する時に、ウォータークラフトの前後方向のトリム及び左右方向の傾斜はオイルレベルに大きな影響を与え、正確な計測ができません。計測は搭乗者及び荷物がウォータークラフトに載っていない状態で行ってください。また、燃料タンクはフルの状態で計測をしてください。
- このオイルレベルを水上で計測する方法はオイル量が不足して補給した場合でも行ってください。

## バルブクリアランス

バルブクリアランスはバルブやバルブシートの摩耗によって小さくなり、バルブタイミングを不適切にします。

## 注意

バルブクリアランスの調整をしないとバルブが完全に閉じなくなり、パワーがロスするだけでなく、バルブやバルブシートが焼けてエンジンが損傷する恐れがあります。

- 定期点検表に従ってバルブクリアランスを点検し、調整してください。
- バルブクリアランスの点検と調整は「カワサキ正規取扱店」でしてください。

## バルブクリアランス

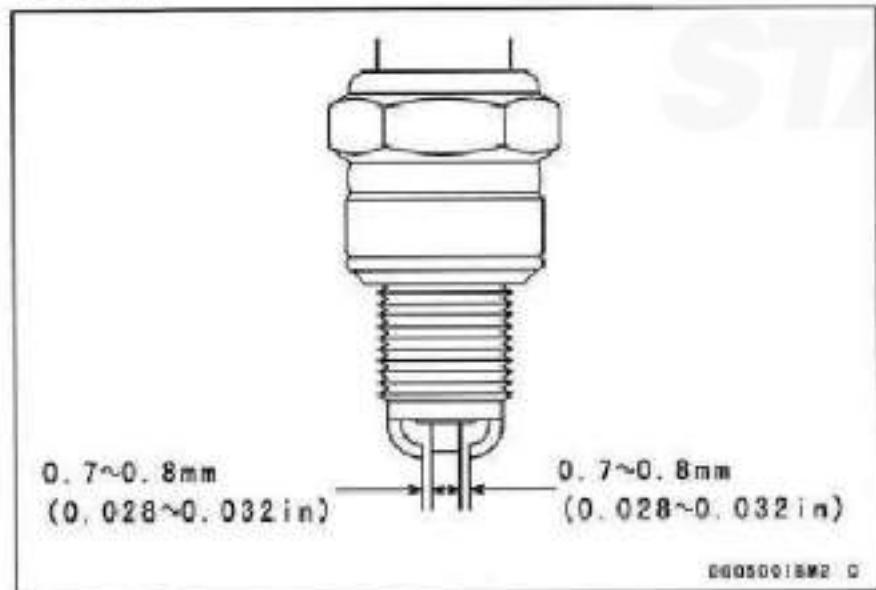
吸入側	0.15 ~ 0.24 mm
排気側	0.22 ~ 0.31 mm

## スパークプラグ

「定期点検整備表」の規定に従ってスパークプラグを清掃し、ギャップを点検します。

標準のスパークプラグはNGK CR9EKで、ギャップを0.7~0.8mmに調整して使用してください。

ウォータークラフトのエンジンは水冷で、一般的に一定のスロットル開度で運転されるので、シリンダヘッドの温度は比較的安定しています。従って、エンジンの調子がよく、調整も適切であれば、熱価の異なったスパークプラグを使用する必要はありません。間違った熱価のスパークプラグを使用すると、エンジンの広範な損傷の原因となるので、標準のスパークプラグのみを使用してください。



## スパークプラグの検査及び交換:

スパークプラグを取り外し、絶縁碍子を検査します。電極のまわりの絶縁碍子を見ると燃焼状態がわかります。エンジンが適正に運転されていると、絶縁碍子はきれいで薄褐色をしています。絶縁碍子が白くなり過ぎたり、プラグに灰色の金属性の付着物があるなら、燃焼室の温度が高過ぎます。「トラブルシューティング」の章を参照してください。

### 注意

過度の運転温度はエンジンに重大な損傷を起こすので、原因をつきとめ直ちに修正してください。

絶縁碍子に乾いたすすのような黒い堆積物があるときは、燃料と空気の混合が濃過ぎることを示しています。スロットルコントロールケーブルが正しく調整されているか点検してください。「トラブルシューティング」の章を参照してください。

堆積物をかき落とすか、プラグクリーナーを使って、両電極や中心電極のまわりの碍子を清掃します。プラグから研磨粉等を完全に除去した後、洗净油で清掃します。ギャップが広がっていれば、0.7~0.8mmに調整します。電極が腐食または焼損していれば、プラグを交換します。絶縁碍子のひび割れ、またはネジ部の損傷等目に見える損傷があるときは、いつでもプラグを交換してください。

### スパークプラグ締付トルク:

11~15 N·m (1.1~1.5 kgf·m)

### スパークプラグの取付け

- スパークプラグをプラグホールへ差込みます。
- 規定トルクでプラグを締付けます。
- プラグキャップをプラグに取付け充分差し込んだ後、軽く引っぱってキャップの取付が良好であることを確認します。

### バッテリ

このウォータークラフトはシール形バッテリを使用しています。従って、バッテリ液の点検や補充の必要はありません。新品のバッテリにバッテリ液がいったん入れられたら、密封栓を外さないでください。また、このウォータークラフトは、シール形バッテリのみ使用するように設計されていますので、通常のバッテリと交換しないでください。

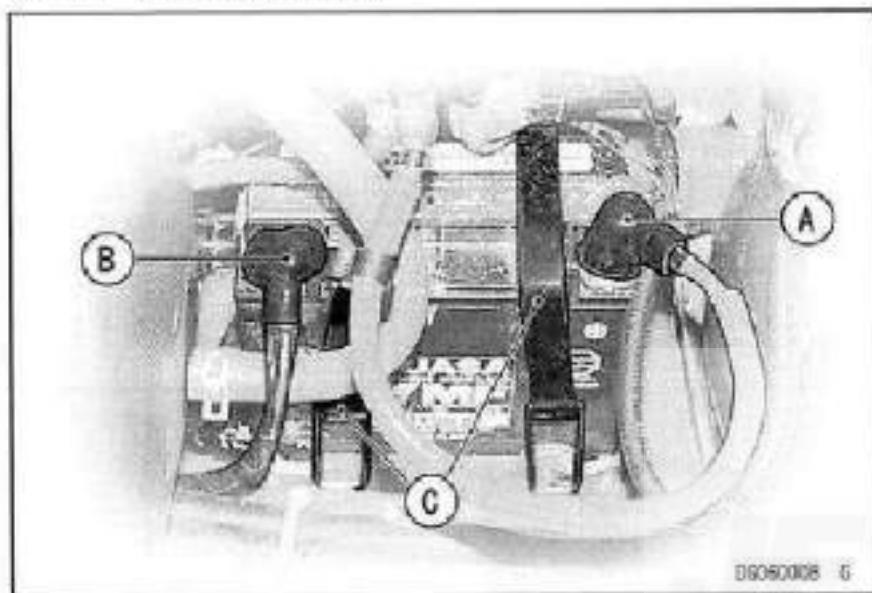
#### 注意

密封栓は絶対に外さないでください。バッテリが損傷します。  
通常のバッテリを使用しないでください。電気系統が正しく機能しません。

#### 要点

- シール形バッテリを補充電するときは、バッテリのラベルの指示に必ず従ってください。

## バッテリの取り外し:



- A. 赤リード線
- B. 黒リード線（アース）
- C. バンド

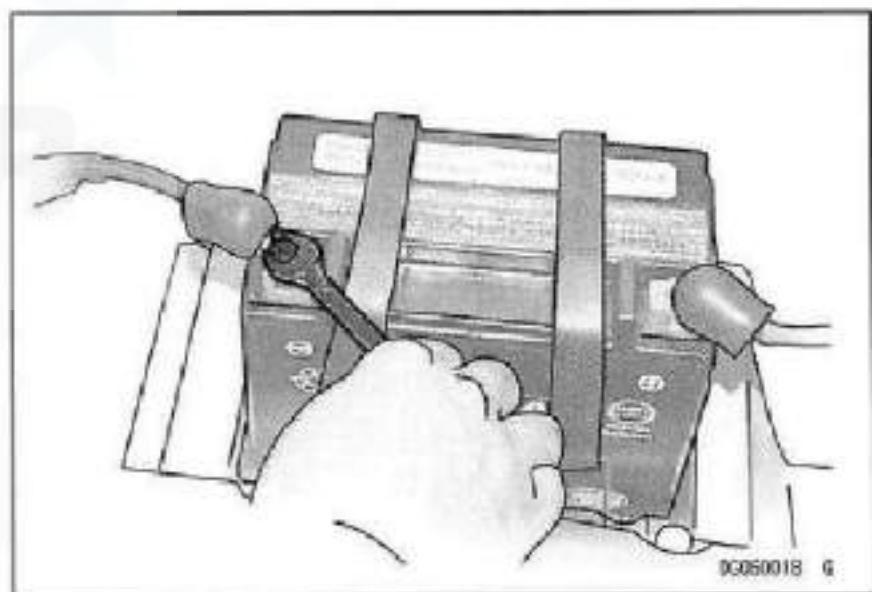
- 最初にバッテリから黒色のリード線（アース）とサブリード線を外します。
- 次に赤色のリード線を外します。
- バッテリを固定しているバンドを2本とも外します。
- バッテリを取り出します。
- ターミナル部に汚れや腐食があるときは、ぬるま湯を注いで拭いてください。
- 腐食が著しい場合は、ターミナル部を取り外し、ワイヤブラシ、サンドペーパーで磨きます。
- 清掃、乾燥後は、ターミナルに耐水グリースを薄く塗っておきます。

## バッテリの取り付け:

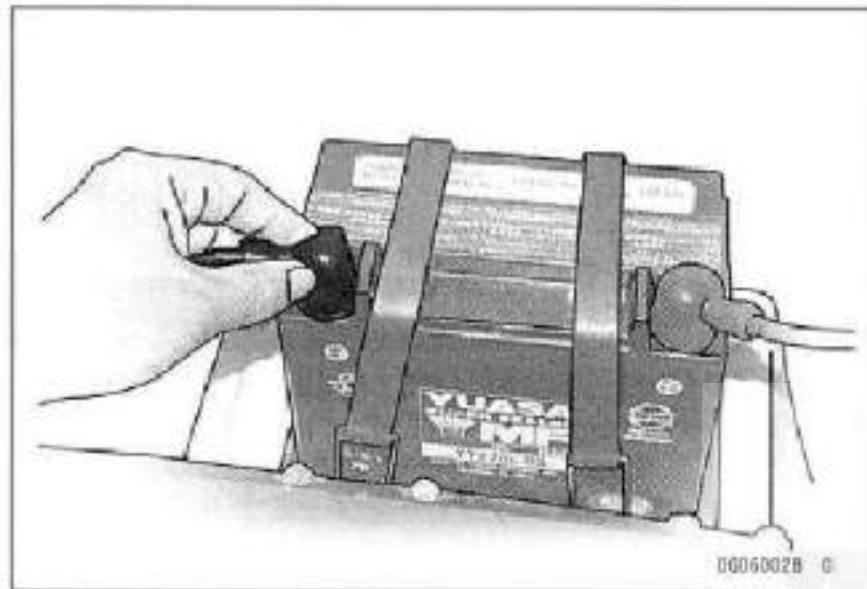
- バッテリを取り外したときと逆の順序で取り付けます。黒サブリード線は、黒リード線と共に確実に接続してください。
- バッテリを接続した後、ターミナルに耐水グリースを塗ります。

## ⚠ 警告

バッテリリード線の取り付けが緩むとスパークが発生し、火災や爆発が起こり、負傷や死亡する恐れがあります。バッテリターミナルのスクリュはしっかりと締め付け、ゴムカバーをターミナルにかぶせてください。



スクリュをしっかりと締める。



ゴムカバーをかぶせる。

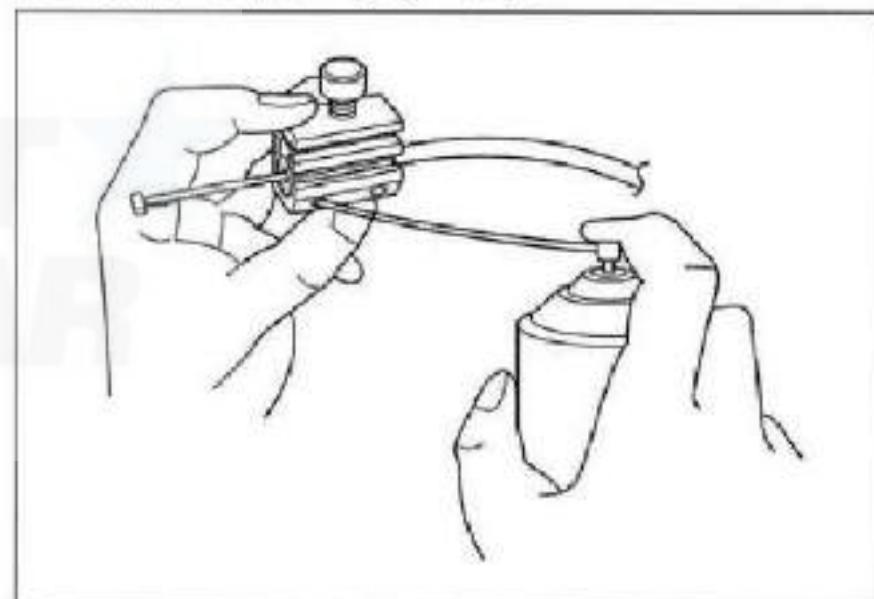
### 注意

バッテリの(+)と(-)を逆に接続しないでください。レギュレータや整流器が損傷します。

### 潤滑

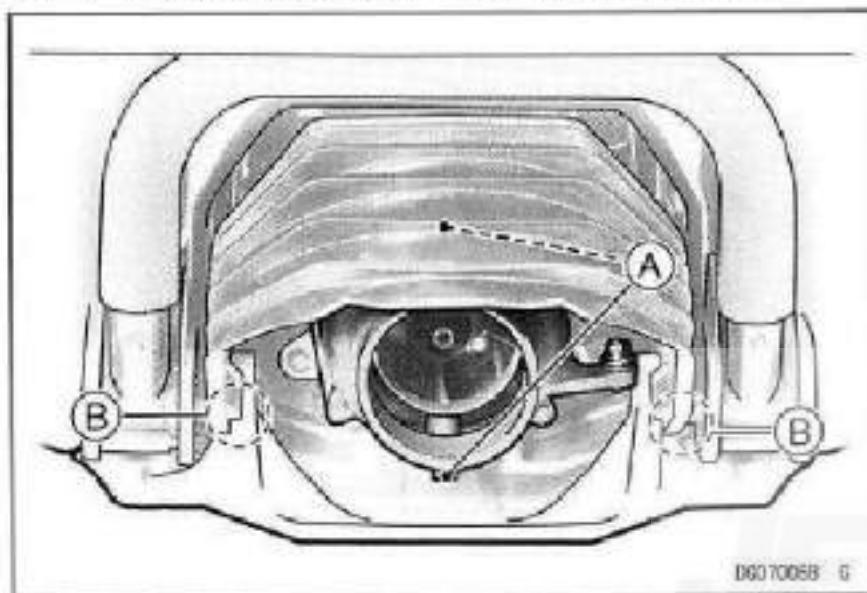
すべての船舶と同じように、適切な潤滑と腐食防止処置は、ウォータークラフトを長期間、故障なく使用するために絶対必要なことです。下記箇所の潤滑頻度については、「定期点検整備表」及び「乗る前の点検項目」を参照してください。

- 下記の箇所に浸透性防錆剤をスプレーします。  
スロットルコントロールケーブル



ケーブルルーバを使ってケーブルの潤滑をする

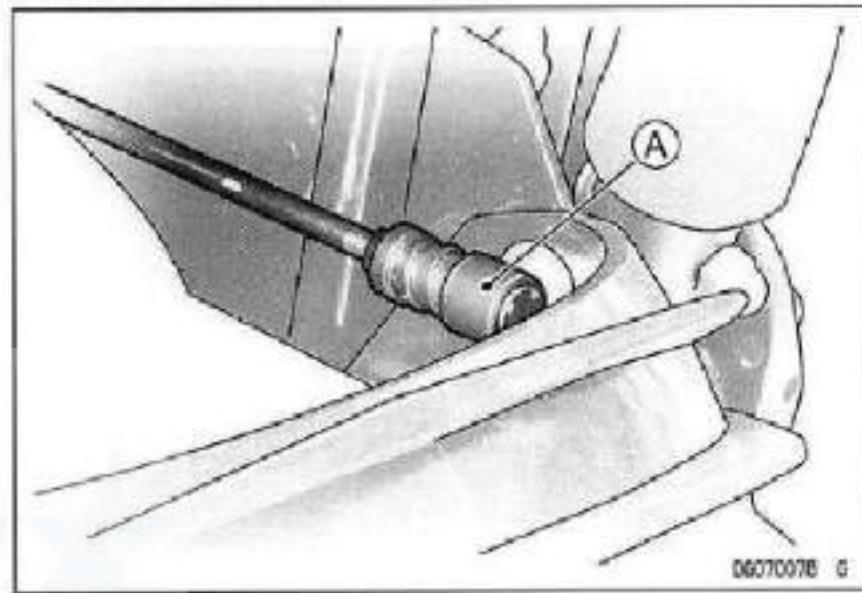
## ステアリングノズル、リバースパケットのピボット



A. ステアリングノズルピボット  
B. リバースパケットピボット

- 下記の箇所に良質の耐水グリースを塗ります。

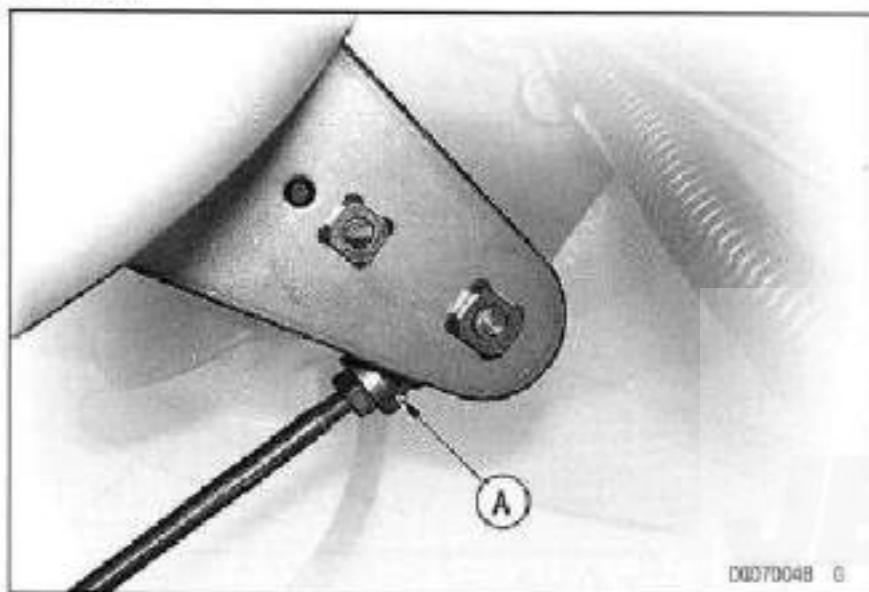
## シフトリンクのボールジョイント



A. ボールジョイント

## 102 整備と調整

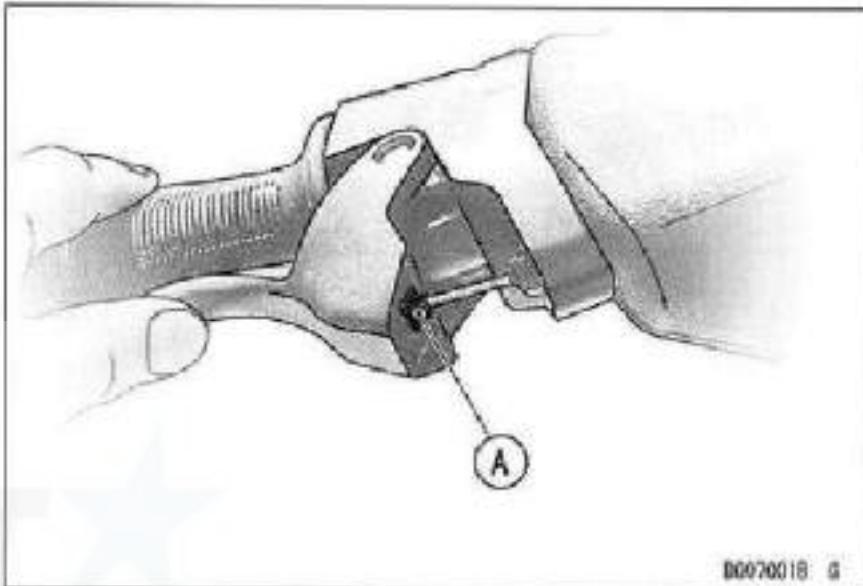
### ステアリングケーブルジョイント(ステアリングシャフトの下部)



00070048 G

A. ステアリングボールジョイント（前部備品入れの内部に有ります。）

### スロットルレバーの取り付け部



00070018 G

A. グリースを塗布

#### 注意

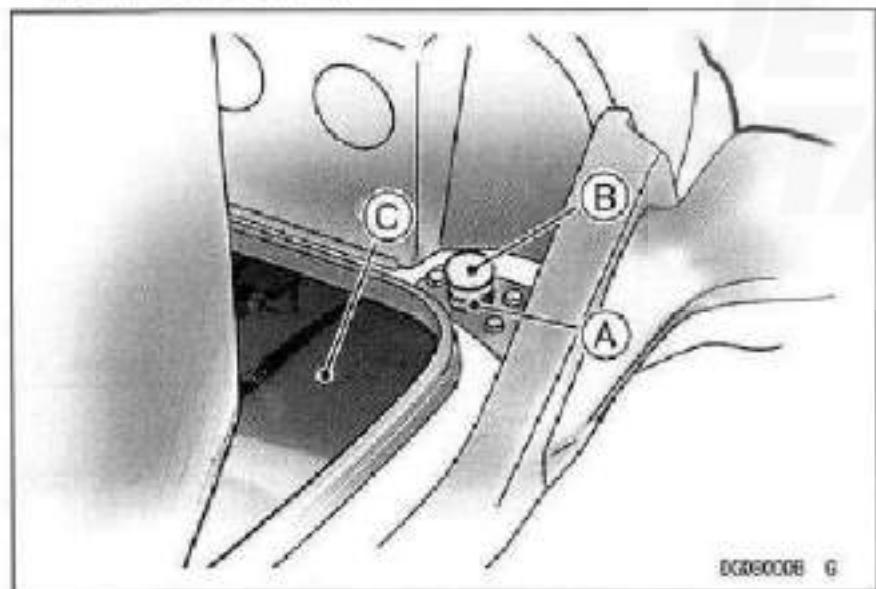
ハンドルレバーピボットの分解と潤滑は「カワサキ正規取扱店」で行ってもらってください。

## 冷却系統の洗浄

冷却系統に砂や塩分が堆積するのを防ぐため、ときどき洗浄する必要があります。以下の作業を「定期点検整備表」に従って行うか、または、海上で使用した後は毎回、また、船体の右側にあるバイパス出口から出てくる水の量が減ったときはすぐに行ってください。

また、この方法は、陸上の整備でエンジンに冷却水を送る必要のあるとき（例えばエンジンオイルの交換）にも使われます。

- 冷却水の接続口が前部備品入れのふたを開けた左下にあります。



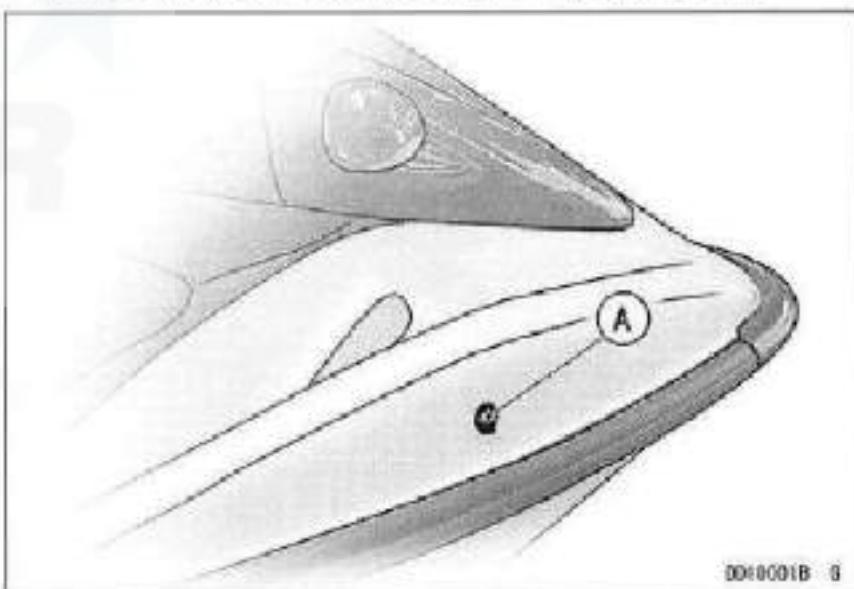
A. 接続口  
B. キャップ  
C. 前部備品入れ

- キャップ [B] を外し、接続金物を取り付けた水道ホースを接続口 [A] に接続します。
- 水道の蛇口を開ける前に、エンジンをかけ、アイドリングさせます。

### 注意

水を流す前に、必ずエンジンをかけておいてください。先に水を流すと、エギゾーストパイプを通ってエンジン内に水が逆流して、内部を損傷する恐れがあります。

- エンジンをかけたらすぐに水道の蛇口を開け、船体の右側にあるバイパス出口から水がわずかに出てくる位に水量を調節してください。



A. バイパス出口

- 水を出したままエンジンを数分間アイドリングさせます。
- 蛇口を閉めます。エンジンはまだアイドリングさせておきます。
- エンジンを数回吹かせて排気系統から水を排出します。

### 注意

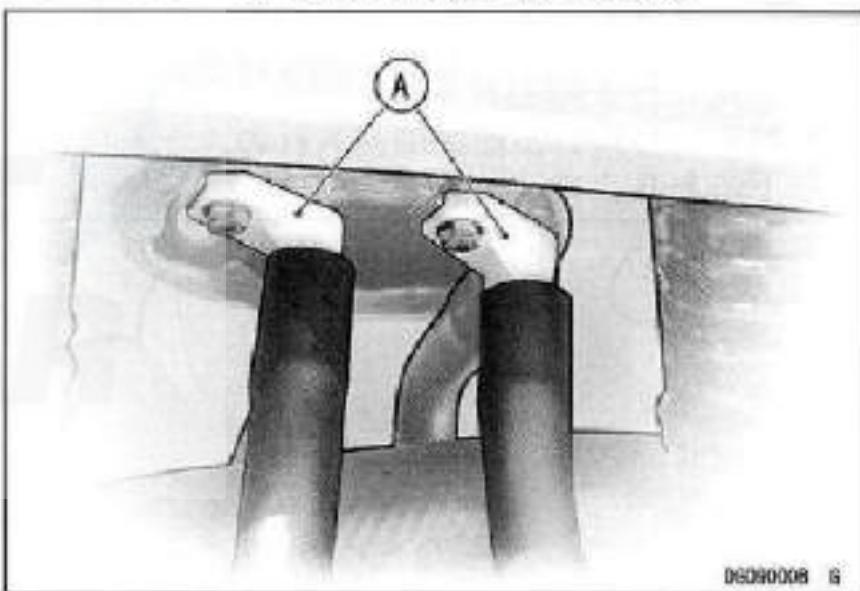
冷却水なしで続けて15秒間以上エンジンを運転しないでください。過熱からエンジンと排気系統に重大な損傷を引き起こすもとになります。

- エンジンを止め、ホースを外し、元通りにキャップを取り付けてしっかりと締めます。

### ビルジ系統の洗浄

詰まりを防ぐためにビルジ系統を「定期点検整備表」に従って洗浄するか、または、詰まっていると疑われるときはすぐに洗浄してください。

- それぞれのプラスチックのブリーザから両方のビルジホースを外してください。ブリーザはエンジンルームの後方上側にあります。

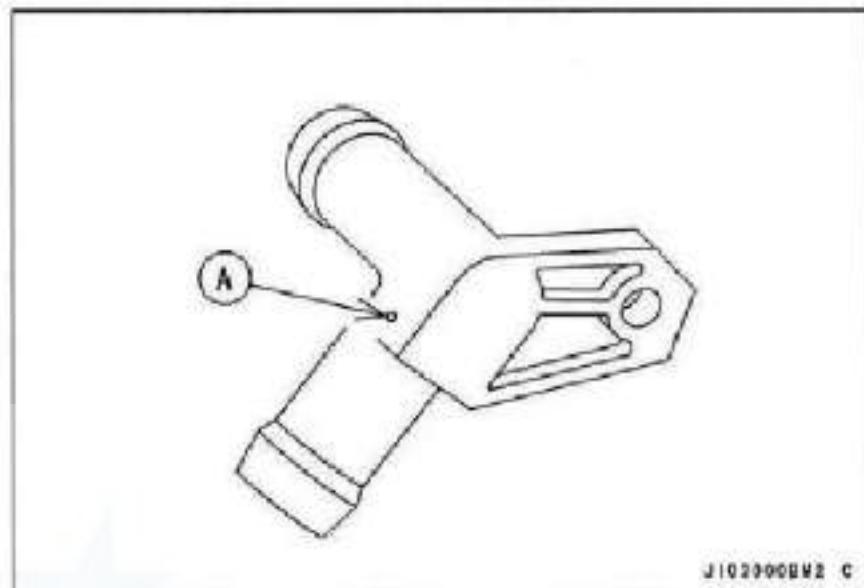


DGD90008 G

#### A. ブリーザ

- ビルジフィルタ側のホースに水道ホースを接続し、水を出して約1分間洗浄します。この間、水がエンジンルームに入りますが、たくさんたまらないようにします。スター（船尾）のドレンプラグを外してエンジンルームの水を出します。

- 反対側のホースに水道ホースを接続し、水を出して数分間洗浄します。4本のホース全てについて洗浄します。
- プラスチックのブリーザにそれぞれのホースをもと通り接続する前に、ブリーザの小さな穴が詰まっていないか確かめてください。もし、穴が詰まっているれば、エンジンが停止したときやアイドリング状態のとき、ホースを通って水がどんどんエンジンルームに入ってくることがあります。ブリーザを外す必要があるかも知れません。



J102990BM2 C

- すべてのビルジホースをもと通りに接続します。

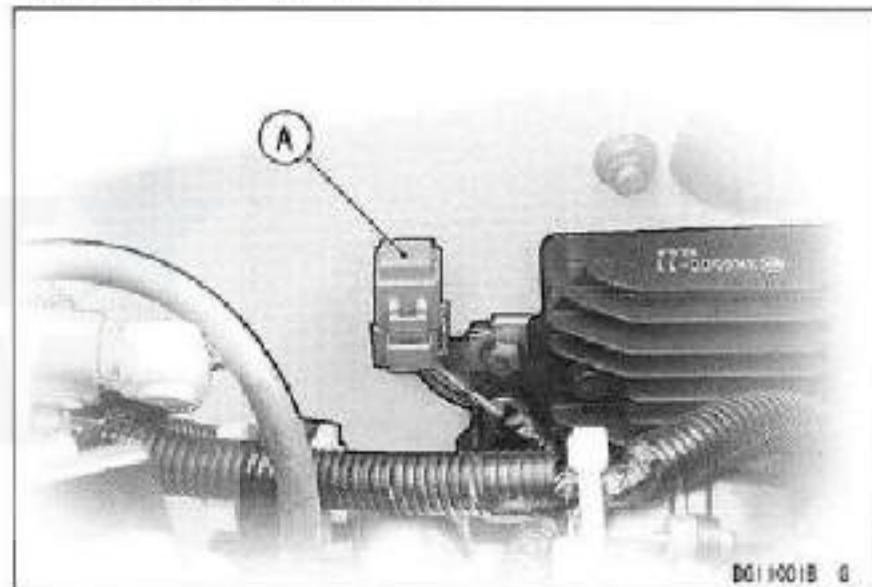
## 要点

- ウォータークラフトを保管する場合は、ビルジホースを接続する前に両方のホースに圧搾空気を吹き込んでください。（「保管」の章の「ビルジ系統」の項参照。）

## ヒューズ

20 Aのメインヒューズがエンジンルーム内右舷にあるヒューズケースに入っています。

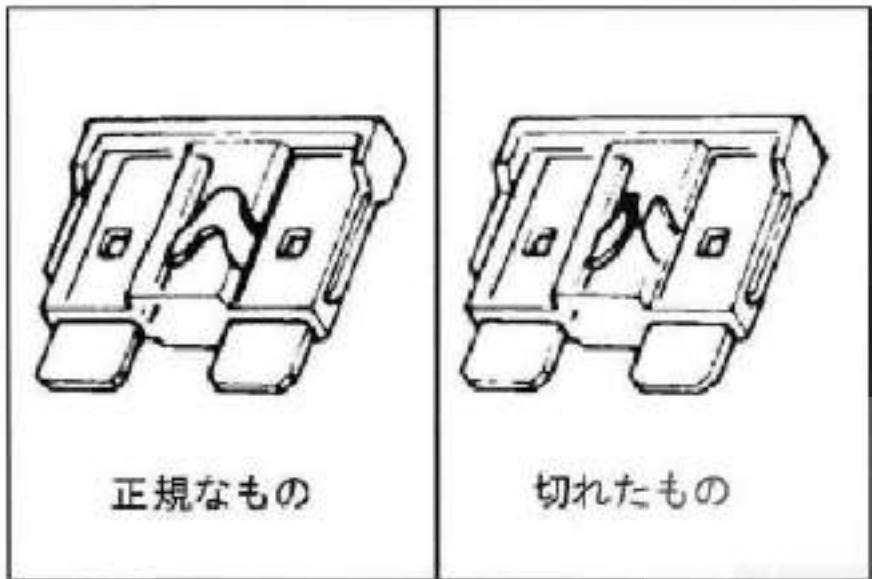
操作中にヒューズが切れたたら、その原因となつた電気系統を点検し、適切な容量の新しいヒューズに交換してください。



A. ヒューズケース

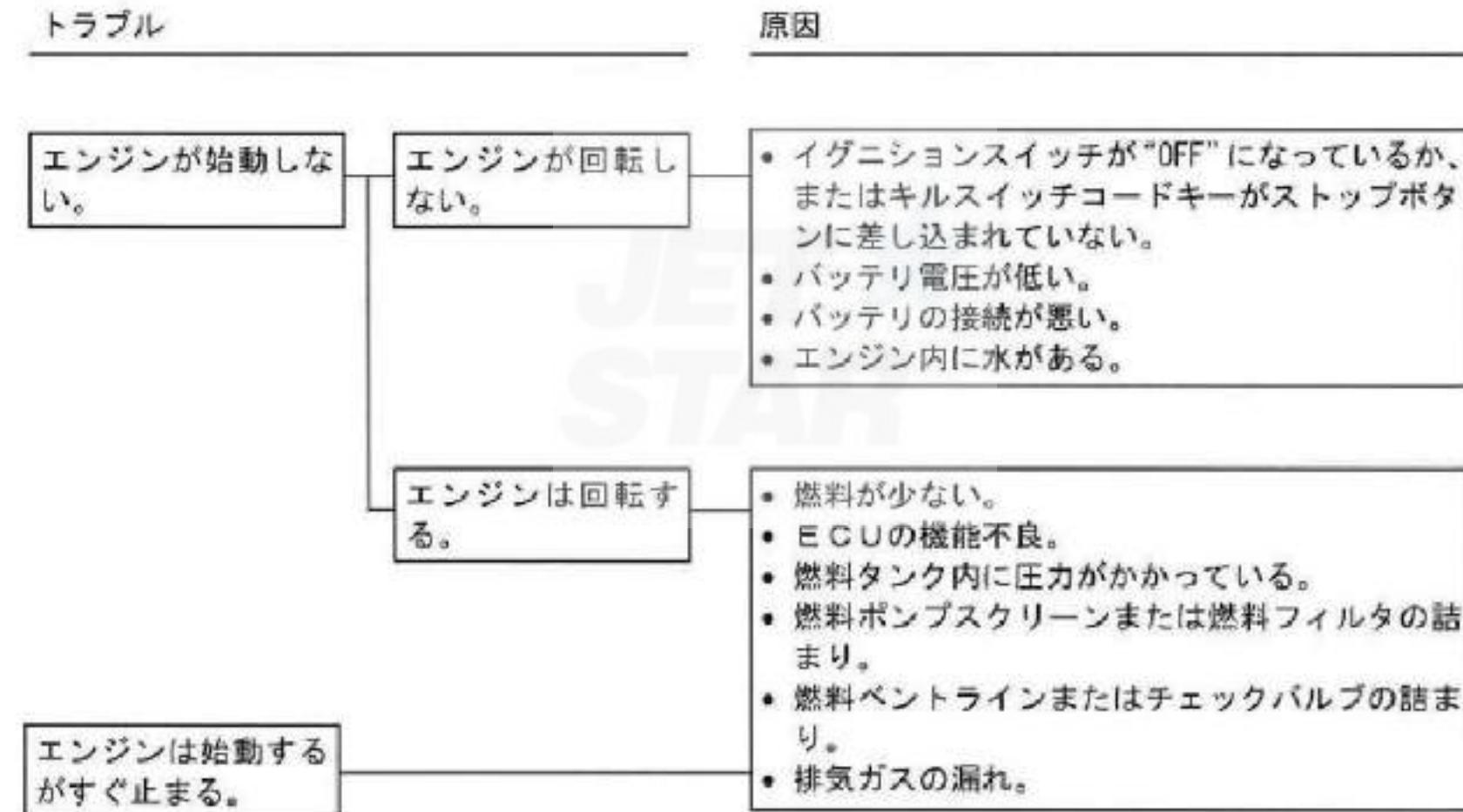
## 注意

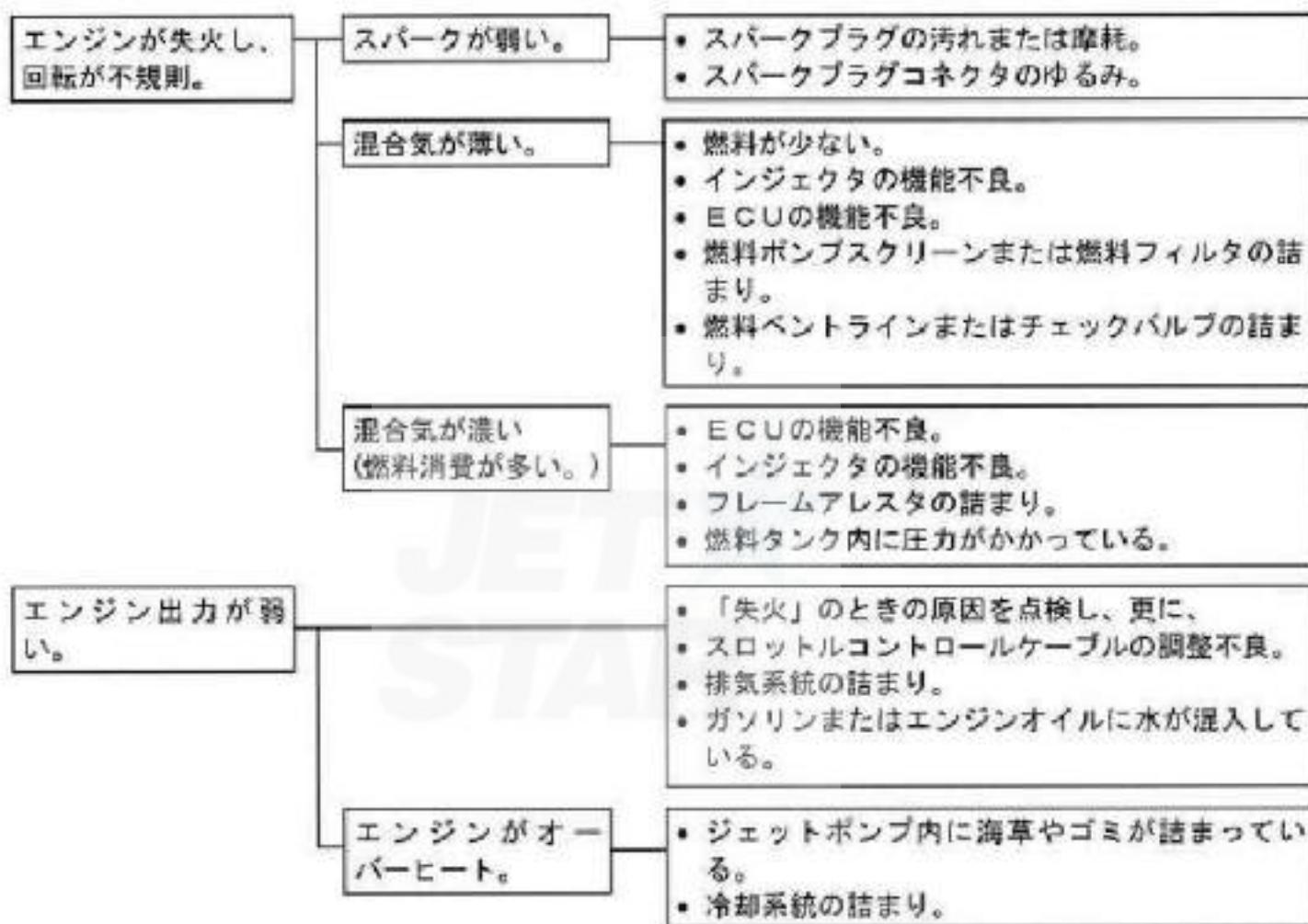
ヒューズの代用品は使用しないでください。切れたヒューズはヒューズケースに規定された正しい容量のヒューズと交換してください。



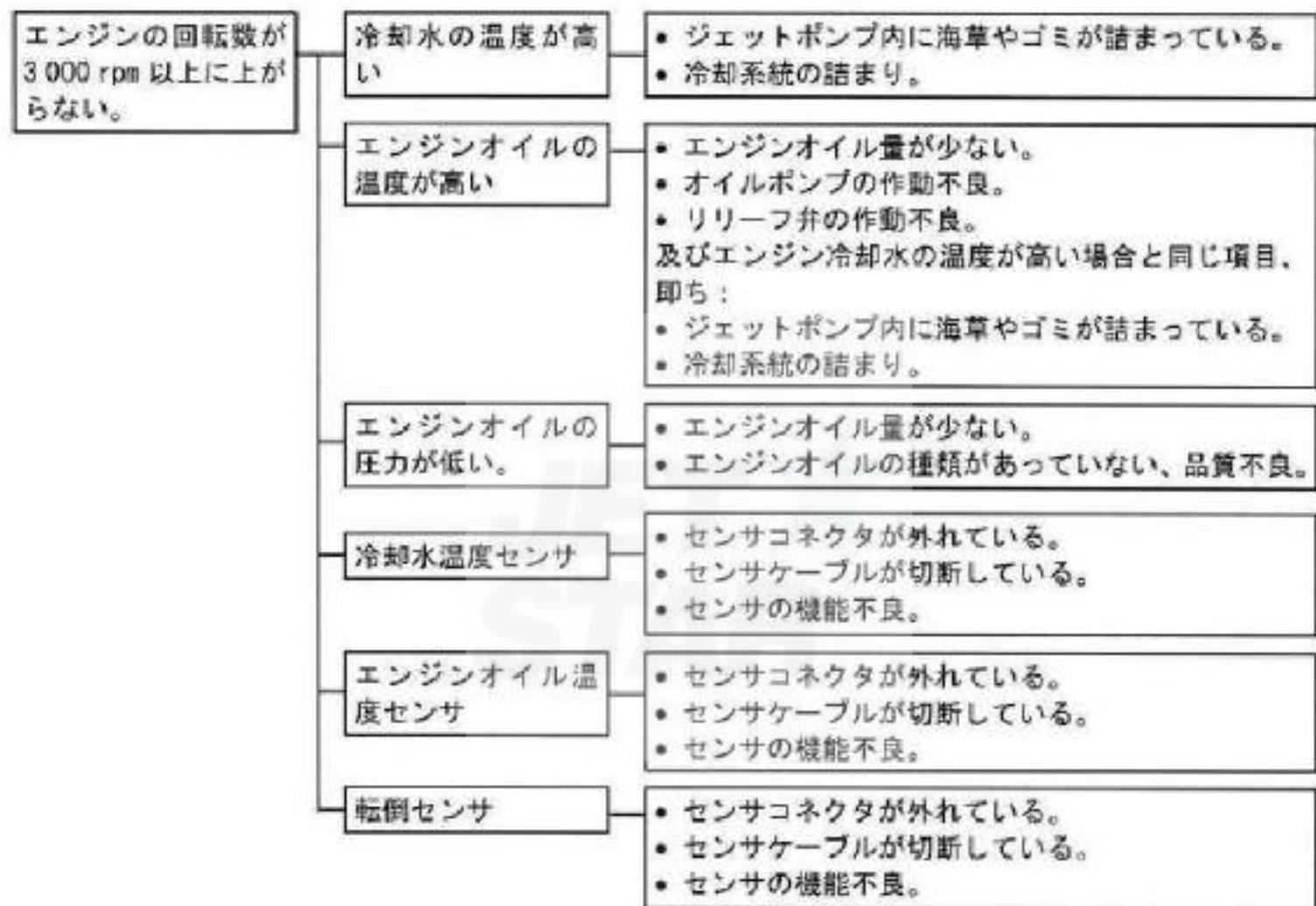
## トラブルシューティング

- ここに示す方法ではあなたのウォータークラフトのトラブルが確定できないときは、「カワサキ正規取扱店」に相談するか、サービスマニュアルを参照してください。





## 110 トラブルシューティング



ノックングを起こす。

- ガソリンの品質不良。

ステアリングがかた  
い、または調子が悪  
い。

- ステアリングピボットの油切れ。
- ステアリングケーブルが損傷、または取り回しが  
不適当。

DND1005B-F

⚠ 警告

ステアリング装置に故障があれば非常に危険です  
ので、「カワサキ正規取扱店」でよく調べてもらつ  
てください。

# 船舶検査

## 船舶検査

ウォータークラフト“ジェットスキー”は、法律（船舶安全法）に基づいて日本小型船舶検査機構の行う検査を受けなければ使用できません。

### 検査の種類：

検査には最初に使用を始める時、および6年毎に行う定期検査と、その中間の3年毎に行う中間検査があります。

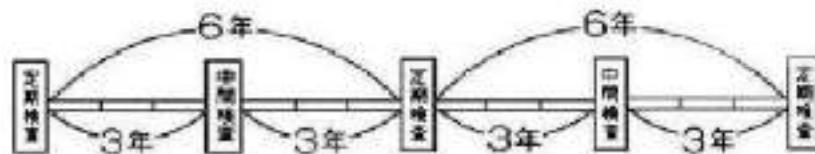
- 定期検査

定期的に行う精密な検査

- 中間検査

定期検査と定期検査との間で行う簡易な検査

### 船検の時期



なお、定められた中間検査日または定期検査日より繰り上げて検査を行う場合は、繰り上げが1カ月以内であれば次回定期検査日または中間検査日が早くなることはありません。

## 船舶検査証書など合格証書類

### 1. 定期検査の場合

船検に合格した小型船には、(1)船舶検査証書 (2)船舶検査手帳 (3)船舶検査済票（年票と番号票を各2枚）が渡されます。

上記(1)および(2)の証書類は、ウォータークラフトを使うときには必ず船内に備えてください。

また、(3)の検査済票（通称「船検ナンバー」）は、ウォータークラフトの両側の外から見やすい位置に必ず貼り付けてください。

船舶検査証書の有効期間は6年です。

### 2. 中間検査の場合

中間検査に合格した小型船には、船舶検査証書と船舶検査手帳が返されるときに、中間検査済票1枚が渡されます。この中間検査済票は、中間検査に合格した小型船のしるしですから、これを左舷の船舶検査済票の近くに貼ってください。

# 航行区域

## 航行区域

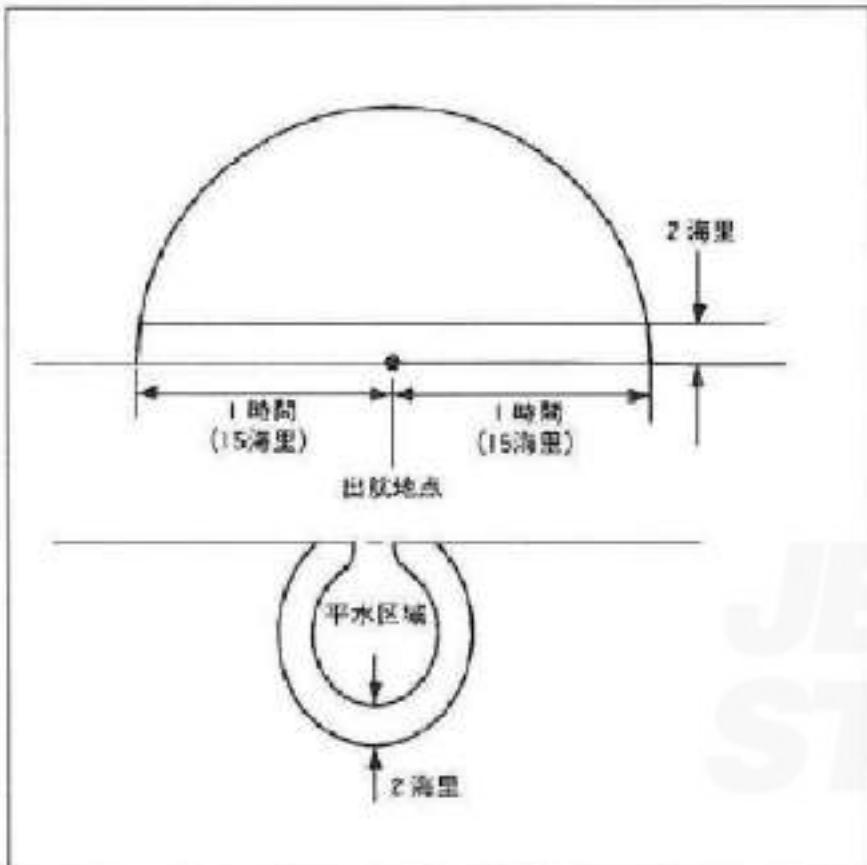
法律（船舶安全法）により、ウォータークラフト“ジェットスキー”が航走できる区域は次のように定められています。

### 注：

- 船舶安全法施行規則第1条第6項とは、平水区域（湖、川、港内、湾などの波の静かな水域）を指します。
- 法律では、平水区域は沿海区域に含まれます。

## 海岸あるいは陸岸で使用する場合

1. 沿海区域で、ウォータークラフトが安全に発着できる任意の地点から最大速力で2時間以内（30海里、約56 km以内）で往復できる水域のうち、海岸か2海里（約3.7 km）以内の水域。
2. 沿海区域で、船舶安全法施行規則第1条第6項の水域内の陸岸から2海里（約3.7 km）以内の水域。



## 母船に乗せて使用する場合

1. 沿海区域で、母船から半径2海里（約3.7 km）以内の水域。
2. 沿海区域で、ウォータークラフトが安全に発着できる任意の地点から最大速力で2時間以内（30海里、約56 km以内）で往復できる水域のうち、海岸から2海里（約3.7 km）以内の水域。
3. 沿海区域で、船舶安全法施行規則第1条第6項の水域内の海岸から2海里（約3.7 km）以内の水域。

### 注意

母船に搭載してウォータークラフトを使用するには、船舶検査手帳に母船の船名が登録されていなければなりません。

\*周辺の人たちに迷惑をかけないために、次の事を守ってください。

- 遊泳者のいる近くでは乗らないでください。
- 人家の近くでは乗らないでください。
- 他の人に迷惑をかける騒音は出さないでください。
- 釣り船、釣り人の迷惑にならないように注意してください。
- 航走中の船に近づかないでください。
- 渔場へは乗り入れないでください。また、操業中の漁船には近づかないでください。
- 乗り入れ禁止区域には入らないでください。
- 指定区域内では制限速度を守ってください。

# 環境保護

---

## 環境保護

---

いつまでもきれいな環境を保つために、次の事を守ってください。

- 自分たちのゴミは自分たちで処理しましょう。  
(不法投棄は絶対しないでください。)
- 燃料、オイル等で浜辺や海岸、そして水を汚さないようにしましょう。
- 自然の景観や、生物を大切にしましょう。
- 使用済みのバッテリやエンジンオイルの廃油等は、むやみに捨てないでください。また、将来ジェットスキーを廃棄される場合も同様です。  
もし、これらのものを廃棄する時は、「カワサキ正規取扱店」にご相談ください。

## お客様の相談窓口

あなたのカワサキウォータークラフト“ジェットスター”について、ご不明な点や、サービス面のこと  
で、ご意見やご質問がございましたら、お買いあげいただきました「カワサキ正規取扱店」または下記の  
相談窓口にお申しつけください。

株式会社カワサキモータースジャパン 〒673-8666 兵庫県明石市川崎町1番1号 Tel078(921)2491代表  
ジェットスター営業部

\*平成16年11月1日現在

JET  
STAR

MEMO

JETSTAR  
STAR

MEMO

JET<sup>Y</sup>  
STAR

MEMO

JET  
STAR

MEMO

JETSTAR  
STAR



**JT1200-D1**

*JET  
STAR*



川崎重工業株式会社 汎用カンパニー

Part No. 99921-1892